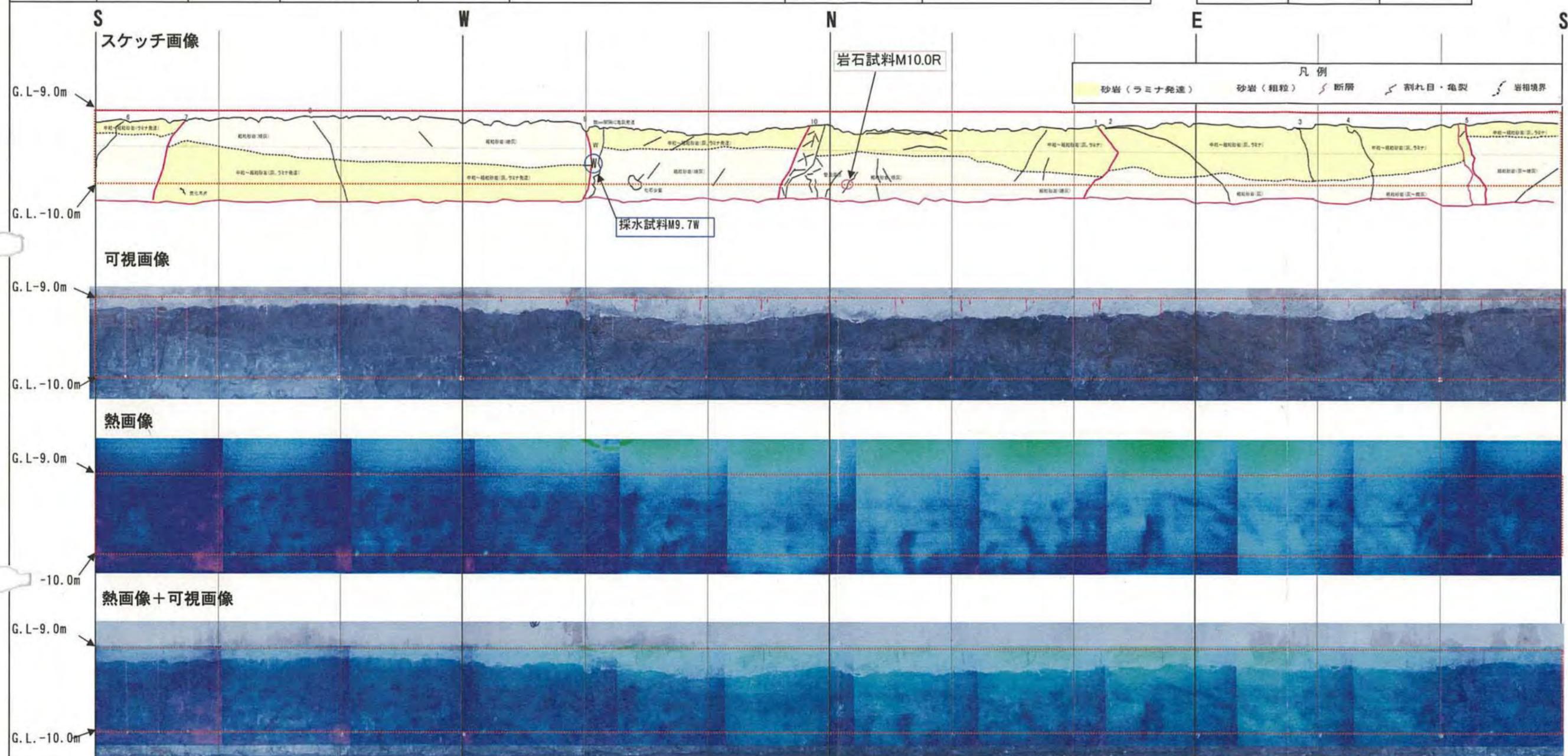


A工区地質記載シート

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	001	日時	2004/4/19 13:00	位置・深度	主立坑 G.L.-9.0m ~ G.L.-10.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	----------------------------	--------	--

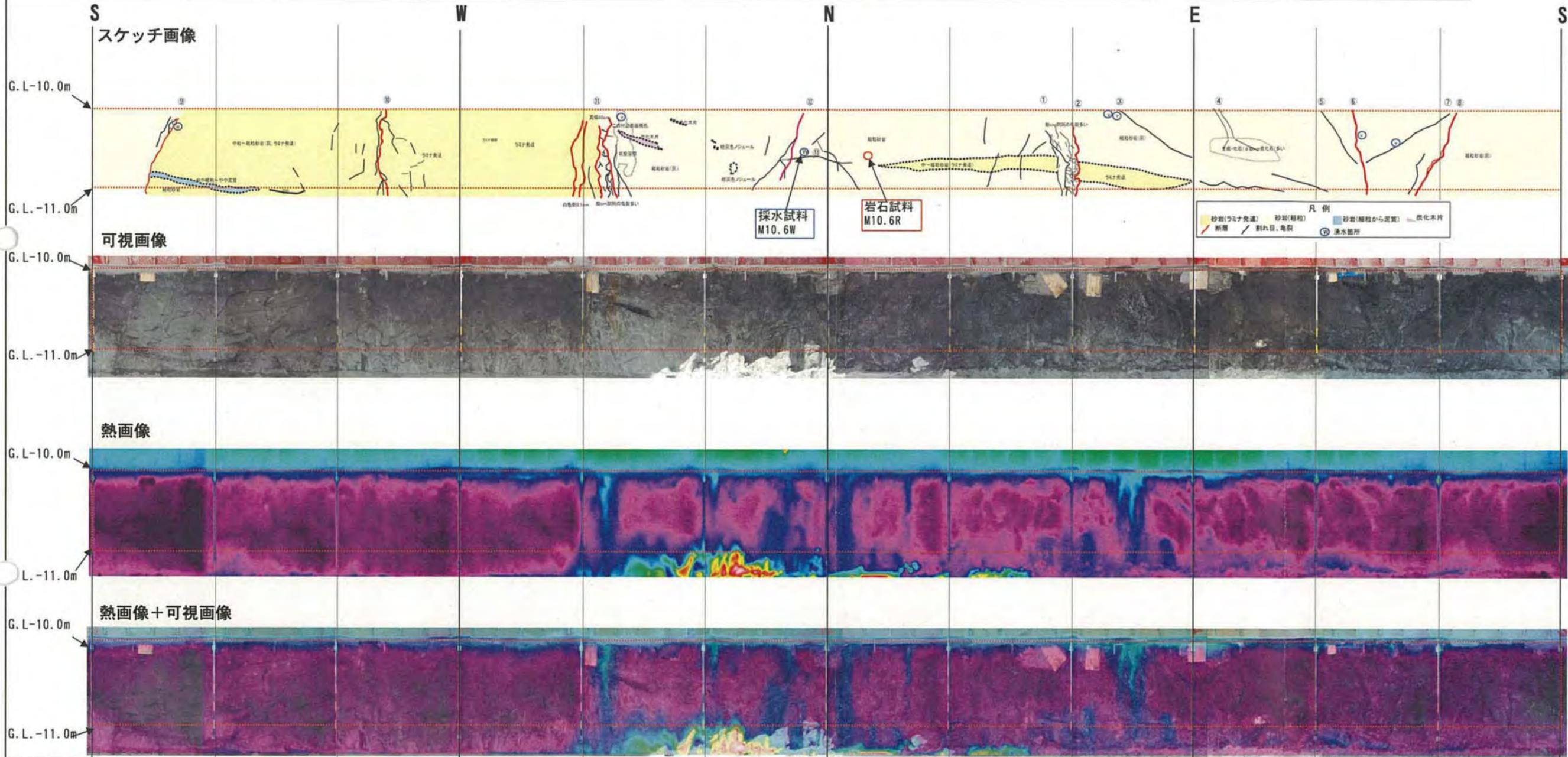


岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒砂岩(暗灰色)と中粒砂岩(ラミナ発達)よりなる。これらの地層は数本の断層により約30cm~1m以上変位している。 断層・割れ目が発達しており、割れ目沿いからは湧水が認められる。岩盤は軟質で緩い。	採水試料 4/19 16:50 PH= 7.23 水温 16.7°C
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	37		
風化	α	岩石試料番号	M10.0R		
変質	1	採水試料番号	M9.7W		
湧水	有(滴水)	化石	有(貝化石、植物片)		

A工区地質記載シート

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	002	日時	2004/4/24 13:00	位置・深度	主立坑 G.L.-10.0m ~ G.L.-11.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

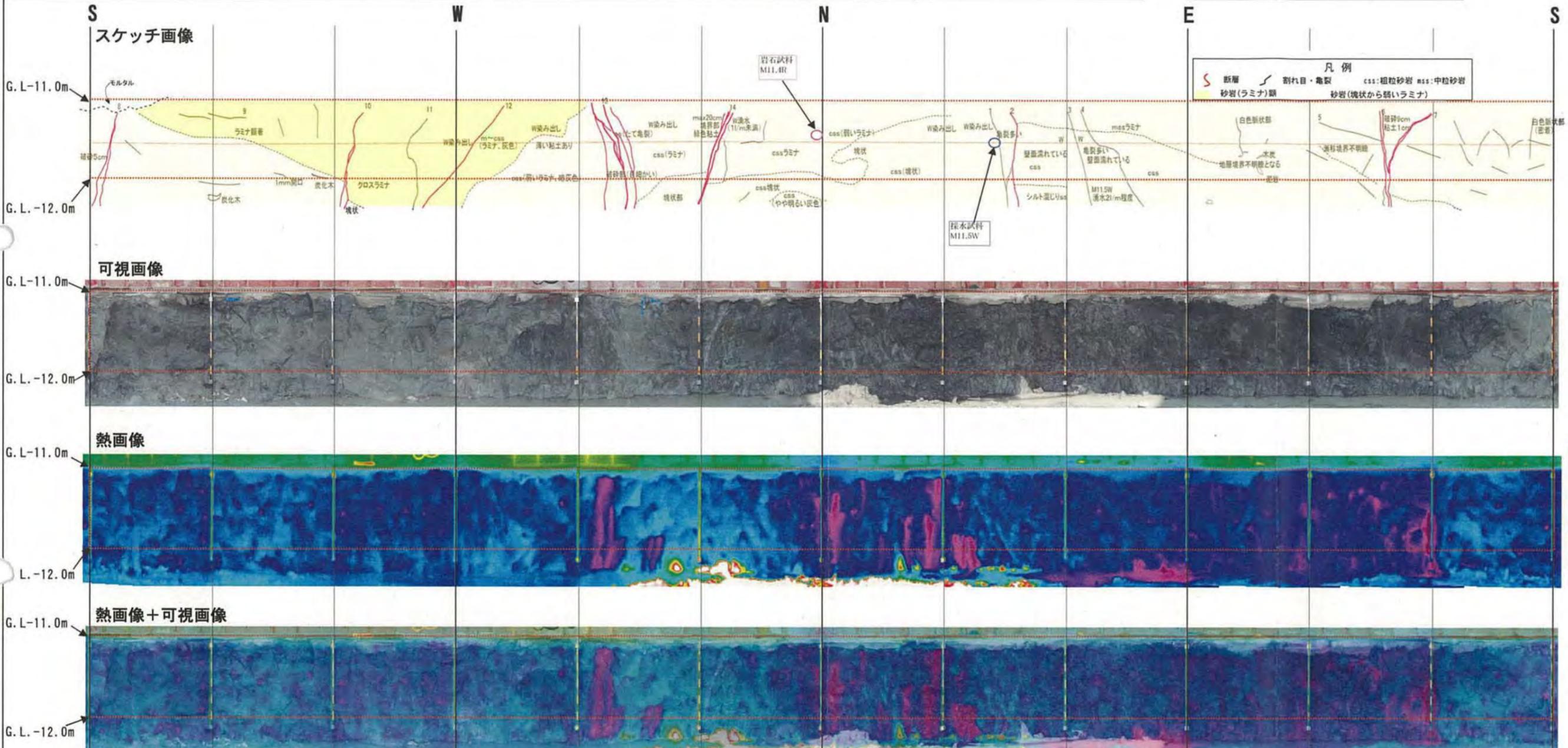


岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 中粒砂岩および粗粒砂岩よりなる。中粒砂岩、粗粒砂岩とも灰色を呈する。中粒砂岩は全般にラミナが顕著である。粗粒砂岩はラミナの顕著な部分と塊状を呈する部分が存在する。変位を伴う断層や割れ目が発達している。断層や割れ目からは湧水（滴水程度）がみられる。	断層部には灰色・黒色・一部緑色の粘土や方解石脈などがみられる。木炭（亜炭、約3cmから約1m）や貝化石（φ数mm）の密集部が存在する。	採水試料 M10.6W 4/23 15:00 PH=7.20 水温17.2℃
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	39			
風化	α	岩石試料番号	M10.6R			
変質	1	採水試料番号	M10.6W			
湧水	有（滴水）	化石	有（木片、貝）			

A工区地質記載シート

総括監督員 主任監督員 監督員

シート番号	003	日時	2004/5/8 13:00	位置・深度	主立坑 G.L.-11.0m ~ G.L.-12.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-----------------------------	--------	--



凡例
 S 断層 割れ目・亀裂
 css:粗粒砂岩 mss:中粒砂岩
 砂岩(ラミナ)類 砂岩(塊状から弱いラミナ)

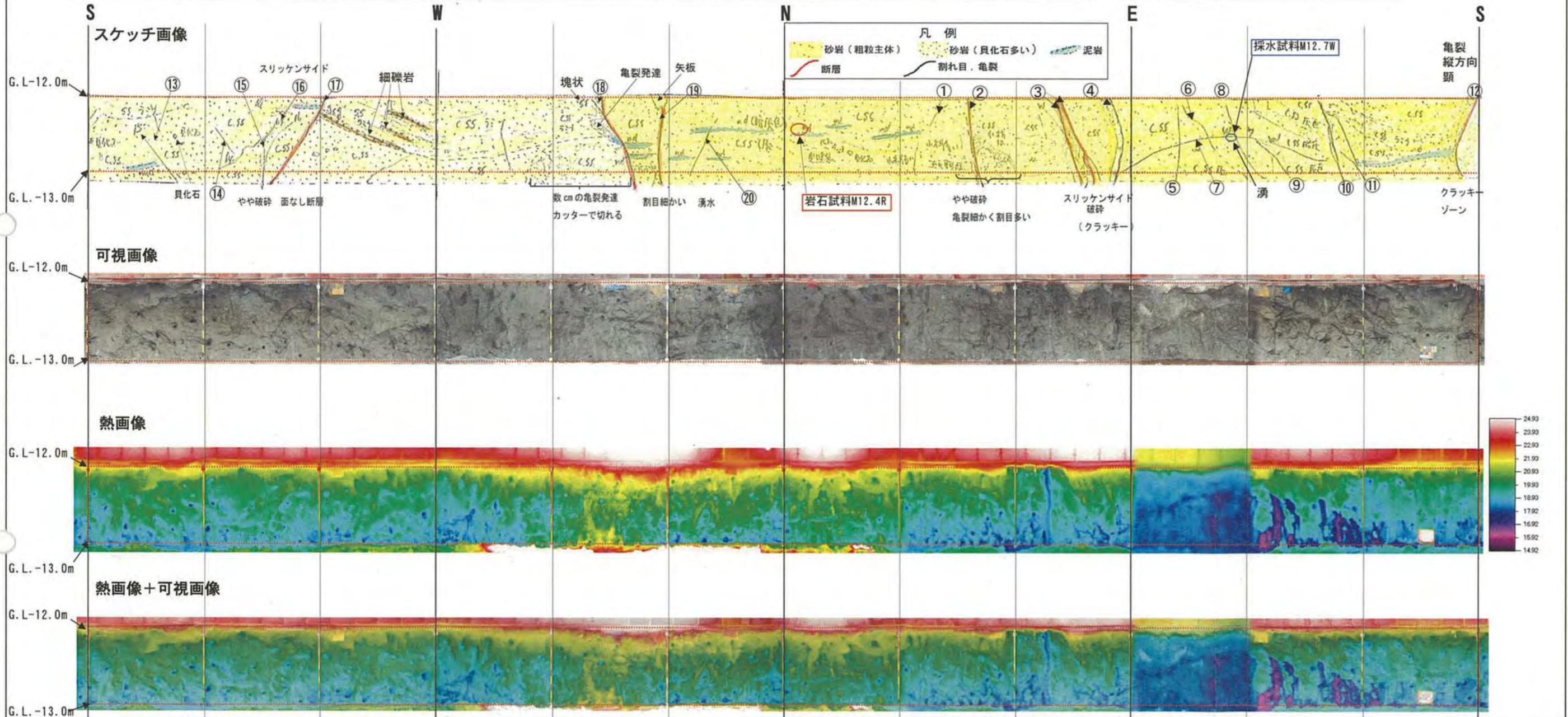
岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	粗粒砂岩(ラミナ、塊状)	RMR値	51
風化	α	岩石試料番号	M11.4R
変質	1	採水試料番号	M11.5W
湧水	有(最大2%/分/箇所)	化石	有(木片)

特記事項
 主に粗粒砂岩よりなる。ラミナの顕著な部分と塊状を呈する部分があり、場所により漸移する。変位を伴う断層や割れ目が発達している。断層面には灰色や緑色の粘土(最大厚1cm程度)が見られる。
 断層や割れ目からは湧水がみられる。湧水は最大箇所まで2%/分程度である。岩質は全般に軟質。地層中に縦に白色の細脈状部(密着)が見られる。炭化木が少量見られる。
 採水試料 M11.5W
 5/8 15:00
 PH= 6.6
 水温 19.2℃

A工区地質記載シート

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	004	日時	2004/5/12 16:00	位置・深度	主立坑 G.L.-12.0m ~ G.L.-13.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

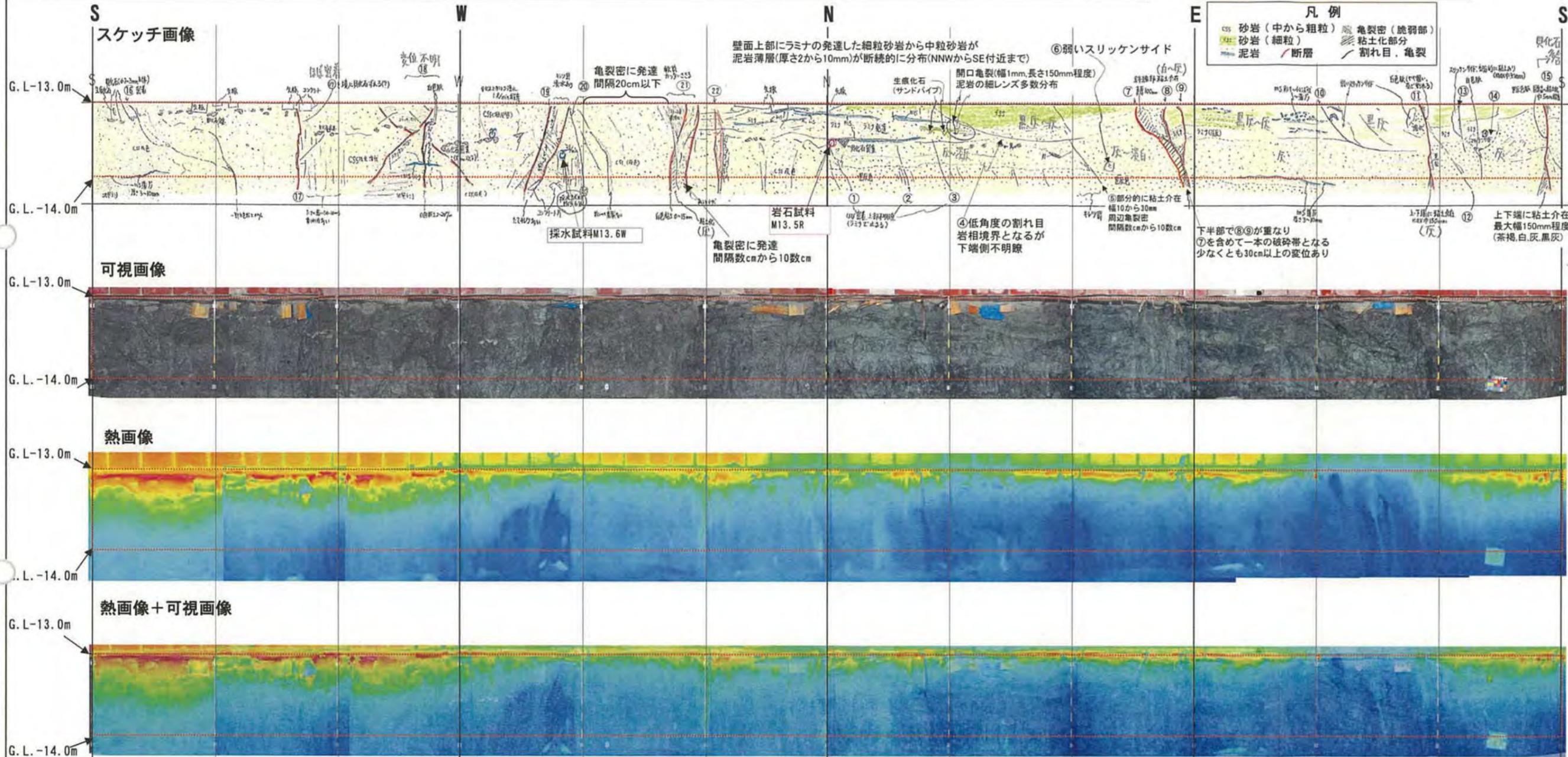


岩種	主に砂岩、一部細礫岩、泥岩	電研式岩級	CL	特記事項 主に粗粒砂岩よりなる。細礫岩や泥岩の薄層(最大3cm程度)が見られる。砂岩にはラミナの発達した部分と塊状部が存在する。砂岩中には貝化石(φ5mm程度)の密集部が断続的に分布する。断層や割れ目には白色鉱物や灰色の粘土が見られることがある。	探水試料 M12.7W 5/12 15:00 PH=6.6 水温 19.2℃
岩相	粗粒砂岩(ラミナ、塊状)	RMR値	37		
風化	α	岩石試料番号	M12.4R		
変質	1	探水試料番号	M12.7W		
湧水	有(滴水)	化石	有(貝)		

A工区地質記載シート

シート番号	005	日時	2004/5/19 18:00	位置・深度	主立坑 G.L.-13.0m ~ G.L.-14.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

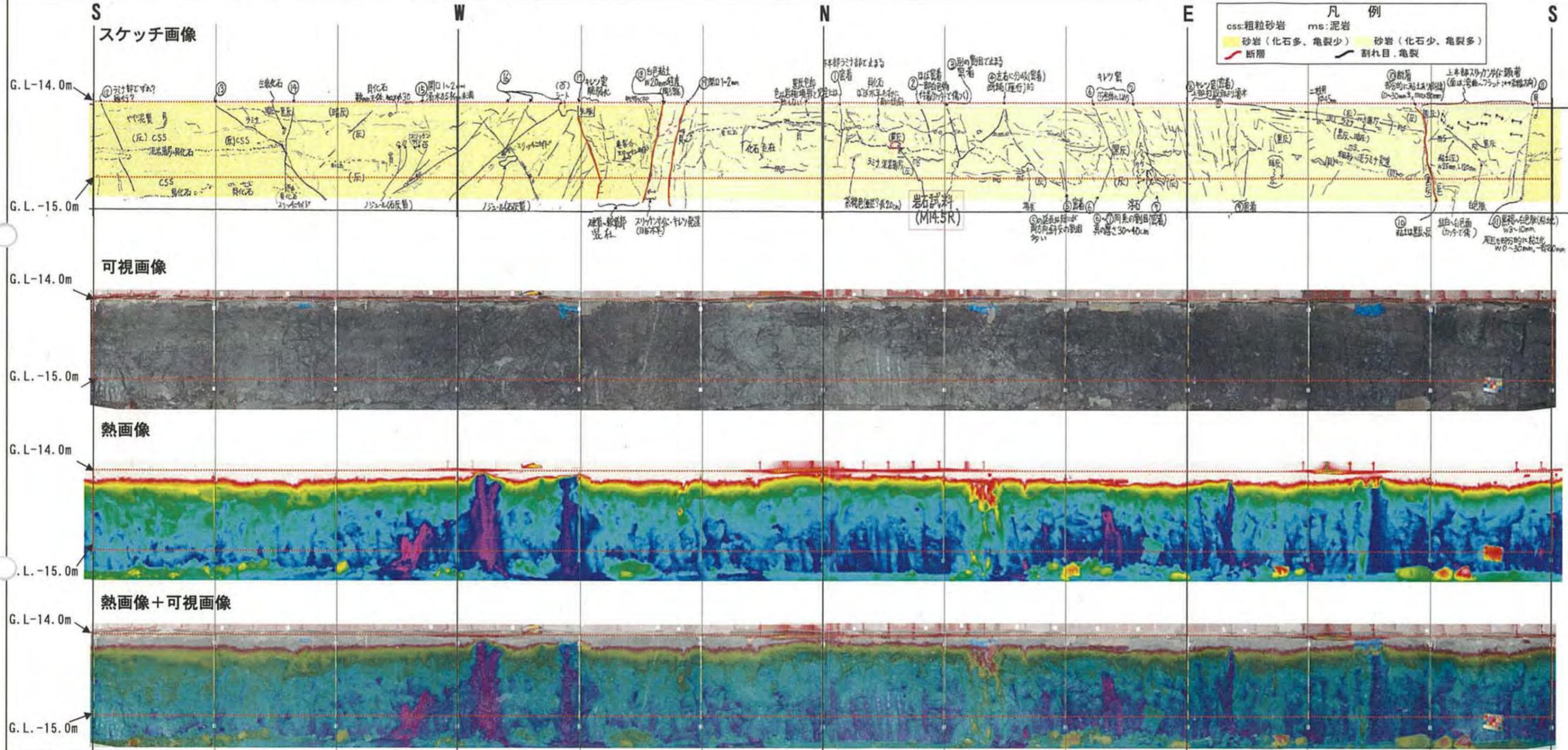


岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 主に粗粒砂岩からなるが、東側壁面上半部にはラミナの発達した細粒砂岩が分布する。ラミナはほぼ水平に近い層理面をなすが、部分的にせん断、緩い湾曲を伴っている。また、ラミナとほぼ同方向に泥岩の小レンズから薄層が分布している。湧水は最大3%分/箇所程度と推定される。	貝化石の分布が断続的にみられる。化石はφ2から3mm程度の貝殻片が主体で、最大φ40mm程度の二枚貝も確認される。断層は高角度主体。断層面は密着するものや、粘土を介在するものがみられる。	採水試料 M13.6W 5/19 20:00 PH= 6.7 水温 20.8℃
岩相	①粗粒砂岩②細粒砂岩(ラミナ、塊状)	RMR値	29			
風化	α	岩石試料番号	M13.5R			
変質	1	採水試料番号	M13.6W			
湧水	有 (最大3%分/箇所)	化石	有(貝化石、生痕化石)			

A工区地質記載シート

シート番号	006	日時	2004/5/21 17:30	位置・深度	主立坑 G.L.-14.0m ~ G.L.-15.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

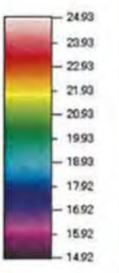
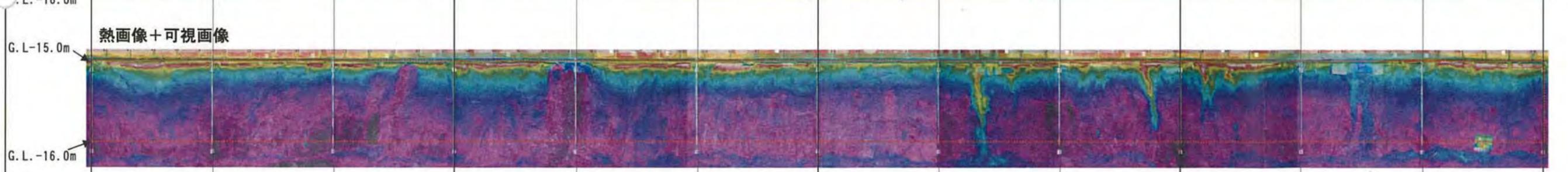
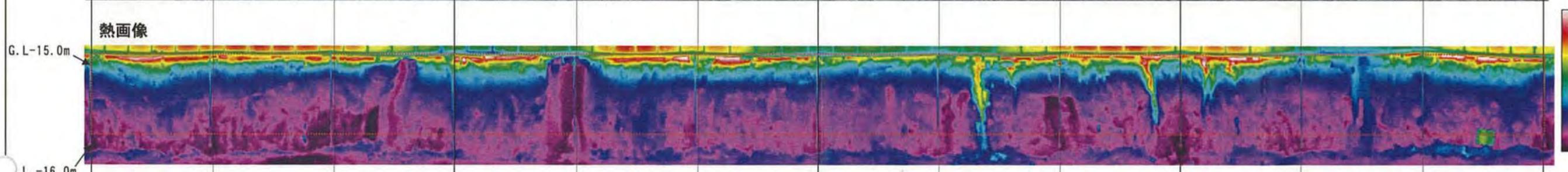
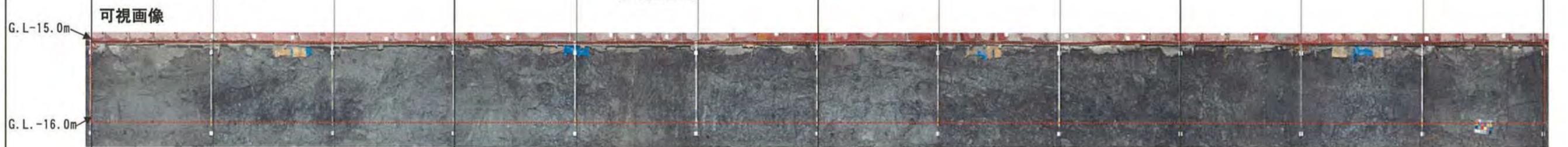
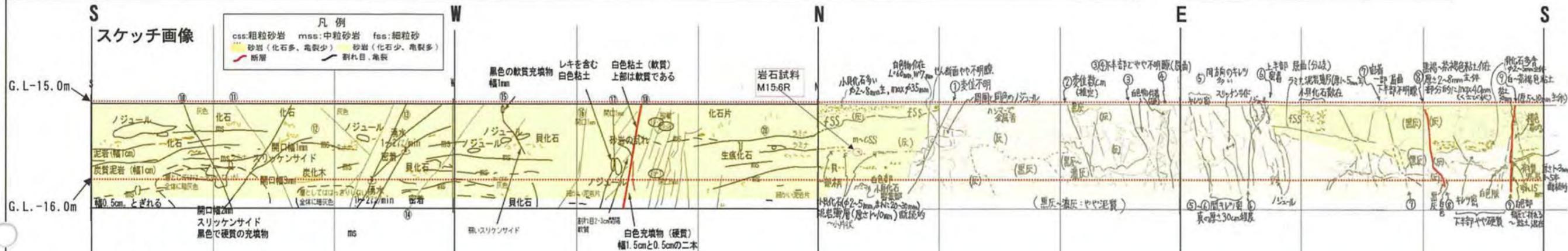


岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 ①粗粒砂岩(ラミナ、塊状) ②細粒砂岩(ラミナ、塊状) α 1 有(最大0.5%未満/分/箇所) 有(貝化石、生痕化石)	細粒から粗粒の砂岩を主体とする。連続性のよいラミナがほぼ水平に近い層理面をなし、部分的にせん断、緩い湾曲を伴って概ね南側傾斜をなす。また、ラミナとほぼ同方向に泥岩の小レンズから薄層が分布している。 湧水は最大0.5%未満/分/箇所、所々滴水から湿り程度が確認される。 確認される化石のほとんどは貝化石である。レンズ状から薄層状で断続的に分布する。化石はφ2から3mm程度の貝殻片を主体とするが最大φ40mm程度の二枚貝も確認される。他に炭化した植物片ごく少量みられた。 断層は高角度主体。断層面には粘土介在箇所も見られ、周辺で亀裂密となり脆弱化する。	採水試料なし
岩相	①粗粒砂岩(ラミナ、塊状) ②細粒砂岩(ラミナ、塊状)	RMR値	21			
風化	α	岩石試料番号	M14.5R			
変質	1	採水試料番号	無し			
湧水	有(最大0.5%未満/分/箇所)	化石	有(貝化石、生痕化石)			

A工区地質記載シート

総括監督員 主任監督員 監督員

シート番号	007	日時	2004/5/24 17:30	位置・深度	主立坑 G.L.-15.0m ~ G.L.-16.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

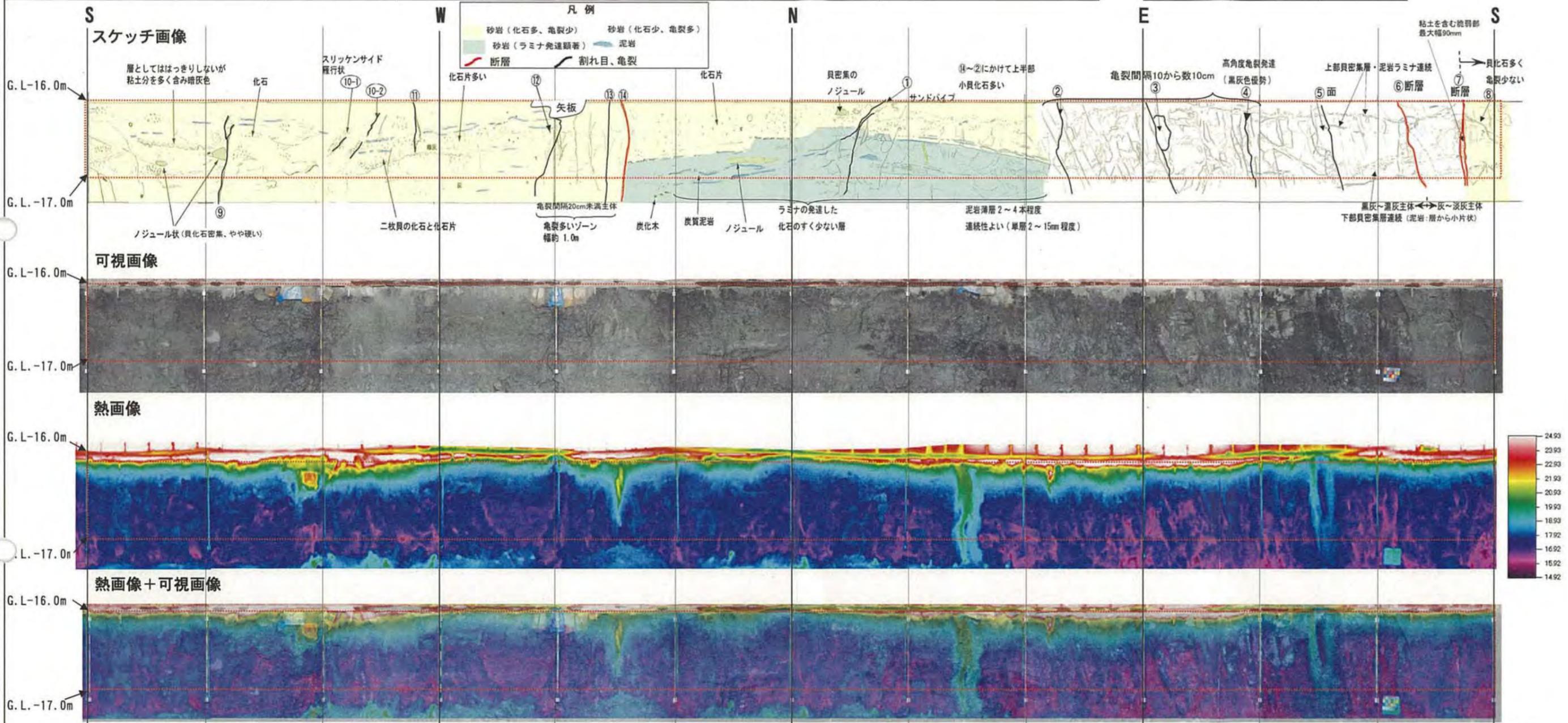


岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 細粒から粗粒の砂岩を主体とする。ラミナは連続性がよく、ほぼ水平から低角度で南側傾斜を示す。部分的にせん断、緩い湾曲を伴う。ラミナとほぼ同方向に泥岩の小レンズから薄層も分布している。白色のノジュール(φ数cmから40cm主体)が比較的多くみられる。 湧水は所々滴水から湿り程度が確認される。	化石の大半は貝化石であり、レンズ状から薄層状で断続的に分布する。化石はφ2から3mm程度の貝殻片が主体であるが、最大φ40mm程度の二枚貝の化石も認められる。他に炭化した植物片がごく少量みられ、一部泥質部と混在する。 断層は高角度でNWとSSEに存在。断層面は白色鉱物または粘土が介在し周辺は脆弱化する。	採水試料なし
岩相	①粗粒砂岩(ラミナ、塊状) ②細粒砂岩(ラミナ、塊状)	RMR値	27			
風化	α	岩石試料番号	M15.6R			
変質	1	採水試料番号	無し			
湧水	有(滴水から湿り程度)	化石	有(貝化石、生痕化石、木片)			

A工区地質記載シート

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	008	日時	2004/5/26 16:00	位置・深度	主立坑 G.L.-16.0m ~ G.L.-17.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒砂岩から中粒砂岩を主体とする。ラミナとともに泥質から細粒砂岩が一部認められる。ラミナは連続性が高く、ほぼ水平から低角度で南側傾斜を示すことが多い。ノジュールは貝密集および砂質のものがみられる。湧水は所々滴水から湿り程度が確認される。
岩相	①粗粒砂岩②中粒砂岩③泥質から細粒砂岩	RMR値	23	
風化	α	岩石試料番号	M16.5R	
変質	1	採水試料番号	無し	
湧水	有(滴水から湿り程度)	化石	有(貝化石、生痕化石、木片)	

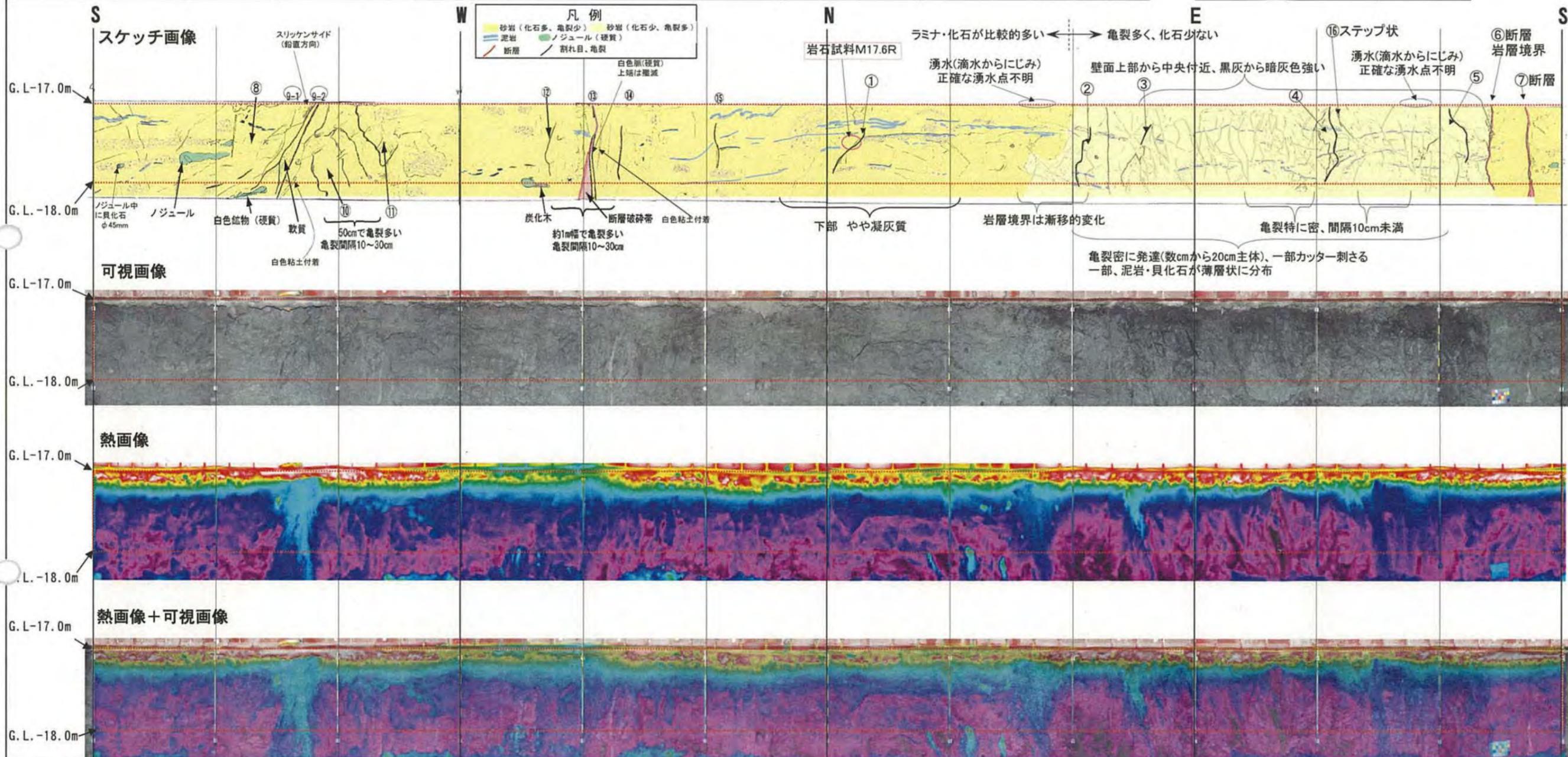
化石はφ2から10mmまでの貝殻片を主体とし、最大φ40mm程度の2枚貝がみられる。他に炭化した植物片がごく少量みられ、一部泥質部と混在する。断層は高角度主体。NWとSSEに顕著な断層あり。

採水試料なし

A工区地質記載シート

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	009	日時	2004/5/28 15:00	位置・深度	主立坑 G.L.-17.0m ~ G.L.-18.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒の砂岩を主体とする。他に泥質部から細粒砂岩を伴ったラミナが分布する。ラミナは連続性がよく、ほぼ水平~低角度で南側傾斜を示す。ノジュールは貝密集、砂質部、白色珪物が認められ、概ね硬質である。湧水は概ね滴水からにじみ程度で、一部少量の流水が確認されるが、セントルからの流水のため湧水箇所および水量の特定不可能。	化石はφ2から10mmまでの貝殻片を主体とし、黄白色ノジュールに最大φ45mm程度の2枚貝が含まれていた。他に炭化した植物片がごく少量みられ、一部泥質部と混在する。断層は高角度主体。NWとSSEに顕著の断層あり。E付近のやや異質な岩層も断層により境されると可能性がある。	採水試料なし
岩相	①粗粒砂岩②中粒砂岩	RMR値	22			
風化	α	岩石試料番号	M17.6R			
変質	1	採水試料番号	無し			
湧水	有 (滴水から湿り程度)	化石	有 (貝化石、生痕化石、木片)			

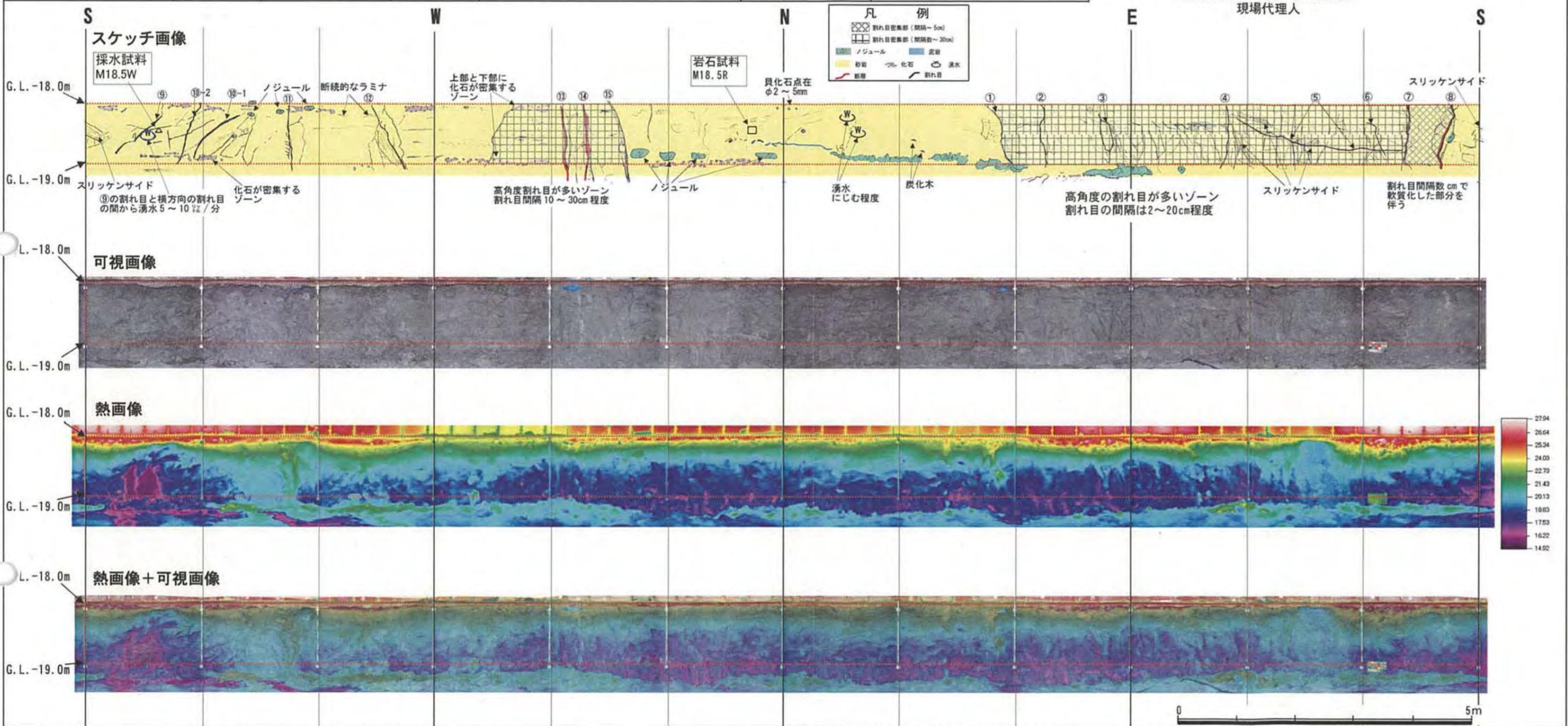
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-010

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	010	日時	2004/5/31 17:30	位置・深度	主立坑 G.L.-18.0m ~ G.L.-19.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項	粗粒から中粒砂岩を主体とする。今回範囲にラミナおよび泥岩薄層は少なく、まれに認められる程度。黄白から黄灰色の貝化石密集部(φ1~5mm主体)からなるノジュールが多くみられる。ノジュールは膨縮しながら断続的な分布を示し、厚さは最大で10cm程度である。顕著な湧水はS30Wの割れ目⑨中央部で確認された。	ノジュールや化石の分布のずれから、断層は⑦、⑧、⑬、⑭と推定される。⑦~⑧間は、間隔が数cm~10cm程度の割れ目が多く存在し、一部軟質化し粘土状を呈する部分も認められる。⑬~⑭付近は割れ目に沿って10~30cm間隔の割れ目が多いゾーン。化石はφ1~5mm程度の貝殻片が主体で、部分的に密集する。二枚貝の形を残すものは最大でφ45mm程度のものが認められる。炭化木は長さ1~10cm程度までのものが点在する。	採水試料 M18.5W 5/31 19:00 PH= 6.9 水温 22.1℃
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	31.3				
風化	α	岩石試料番号	M18.5R				
変質	1	採水試料番号	M18.5W				
湧水	有(5~10%/分)	化石	有(貝化石、炭化木)				

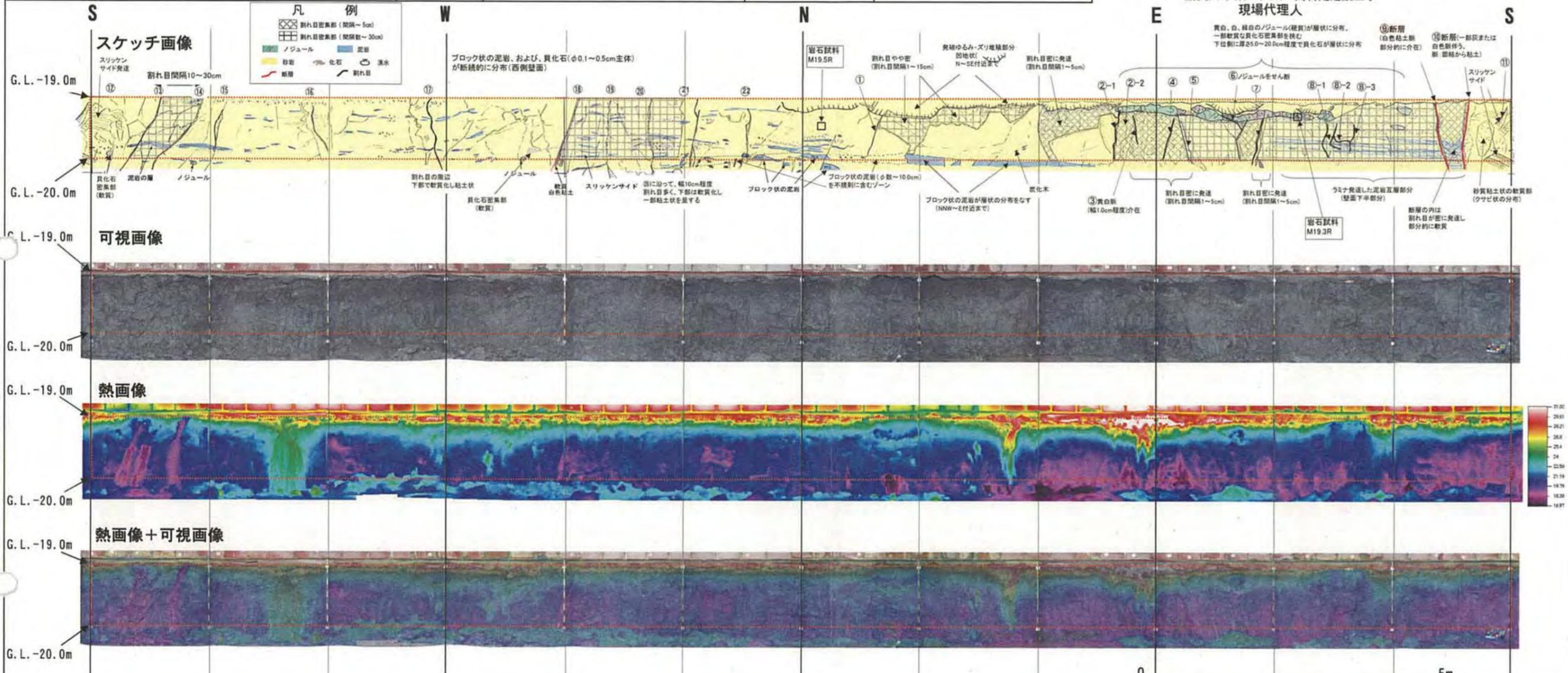
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-011

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	011	日時	2004/6/02 18:00	位置・深度	主立坑 G.L.-19.0m~G.L.-20.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	---------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒砂岩を主体とする。ラミナおよび泥岩薄層は断続的に認められる。 N30W~Eの下部に、泥岩のブロック(φ数cm~10.0cm)を不規則に含む厚さ20.0cm程度のゾーンが、層状に分布する。 黄白・白・緑白色の硬質ノジュールが断続的に層状(厚さ10.0~25.0cm程度)に分布、部分的に軟質な貝化石密集部(φ1.5cm主体)を挟む。 断層はラミナや化石密集部のずれから⑨、⑩、⑪、⑫と判断される。これらの断層は高角度の傾斜で、割れ目には粘土部分を伴う。周辺にも軟質部(粘土状、砂質粘土状)が認められる。 貝化石片はφ0.2~1.5cm程度主体で点在、部分的に密集する。二枚貝の最大φ2.5~3.5cm程度のものが認められる。炭化木は長さ数1.0~18.0cm程度までのものが点在する。 顕著な湧水は認められないが、にじみ出し適水程度の湧水は多くみられた。	採水試料 なし
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	31.5		
風化	α	岩石試料番号	M19.5R(砂岩)、M19.3R(ノジュール)		
変質	1	採水試料番号	なし		
湧水	有(にじみ出しから滴水程度)	化石	有(貝化石、炭化木)		

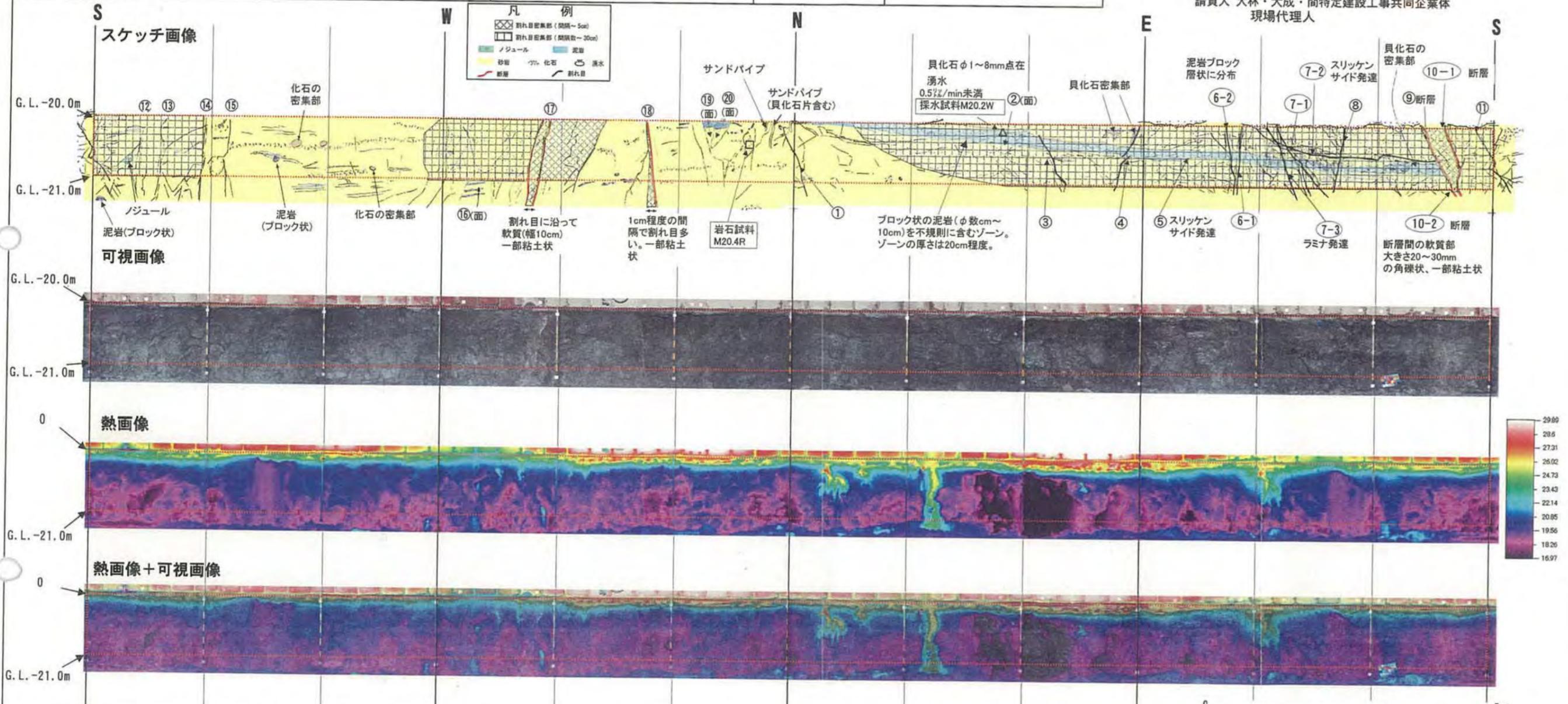
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-012

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	012	日時	2004/6/4 15:00	位置・深度	主立坑 G.L.-20.0m~G.L.-21.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	---------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩、泥岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒砂岩を主体とする。東側壁面上部には、φ数cm~10cm程度のブロック状の泥岩を不規則に挟むゾーンが、厚さ20cm前後の層状で分布する。泥岩薄層(厚さ1~20mm程度)を挟むラミナも認められる。φ1~10mm主体の貝化石片、φ30mm前後の二枚貝の化石、長さ数10mmの炭化木や生痕化石(サンドパイプ)が認められる。貝化石は所々でφ数10cmの密集した状態で存在する。 泥岩ブロックが連続するゾーンのずれや上部区間の断層の連続性より、断層は⑨⑩⑪と判断され、いずれも高角度の傾斜である。 ⑨~⑩間、および⑪、⑫の周囲では断層に沿った方向の割れ目が多く、割れ目周辺の岩質は軟質で、粘土状を呈する部分も認められる。 湧水は②上部よりあり、割れ目の空隙部より流出している。他の箇所ではにじみ出し程度の湧水、もしくは上部打設部の流水と識別不可能。	採水試料 M20.2W
岩相	砂岩:粗粒から中粒砂岩、泥岩:ブロック状	RMR値	24		6/4 18:00
風化	α	岩石試料番号	M20.4R		PH= 8.3
変質	1	採水試料番号	M20.2W		水温26.0℃
湧水	有、0.5ℓ/分未満	化石	有(貝化石、炭化木、生痕化石)		

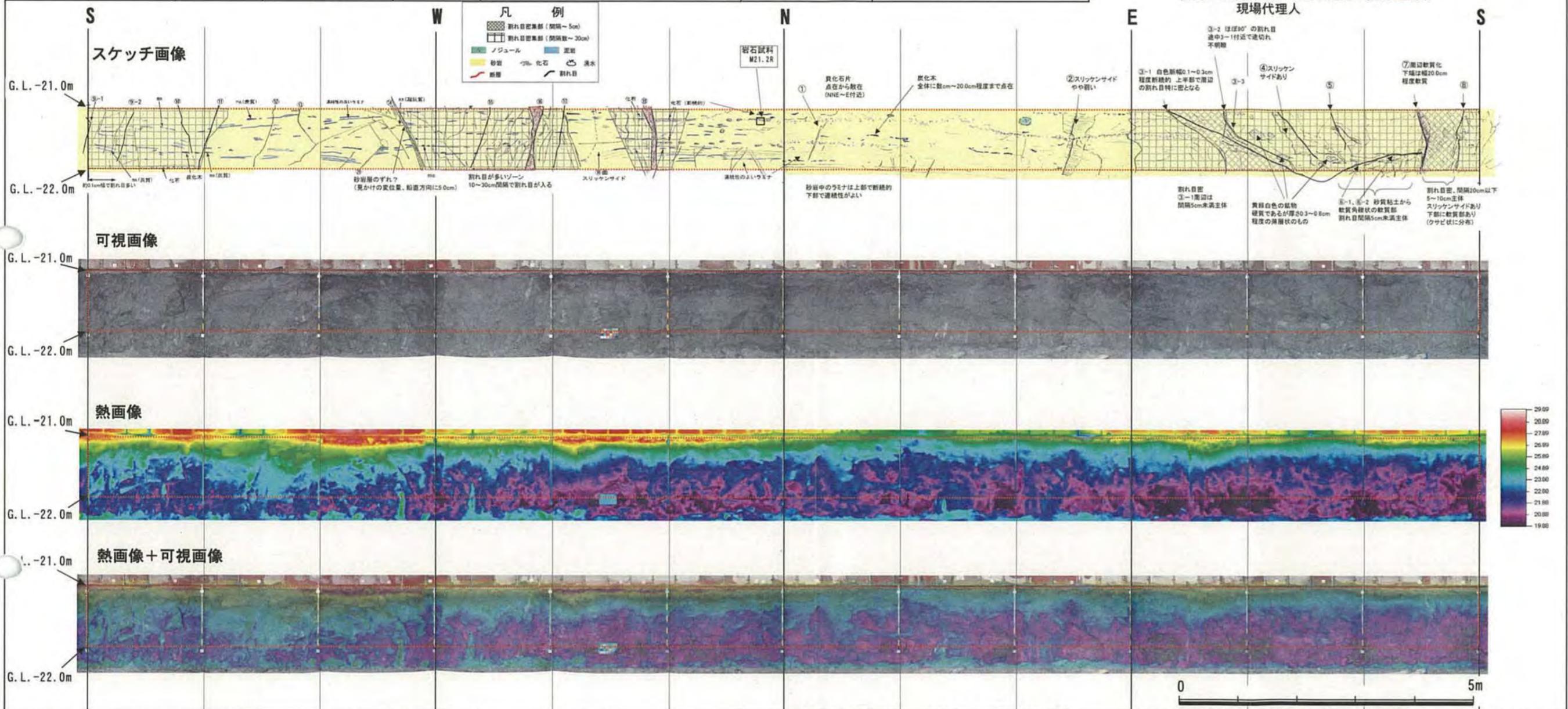
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-013

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	013	日時	2004/6/7 16:00	位置・深度	主立坑 G.L.-21.0m~G.L.-22.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	---------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒砂岩主体。泥岩は小ブロックから薄層状(厚さ数cm程度)で断続的に分布し、泥岩の薄層はほぼ水平でわずかに南側に傾斜する。ラミナの発達した箇所も認められる。 化石は貝化石片、二枚貝(最大φ4.0cm程度の形をよく残すもの)、炭化木が認められる。一部硬質なノジュールもみられることがある。
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	33.5	
風化	α	岩石試料番号	M21.2R	
変質	1	採水試料番号	なし	
湧水	無 (にじみ出し程度)	化石	有(貝化石、炭化木)	

変位を示す明瞭な地質構造は認められないが、上部区間との比較より、断層は⑦⑩⑬と判断される。いずれも高角度傾斜でN15W~N50W方向の走向を示す。⑦の周辺には割れ目間隔20cm以下の割れ目の多いゾーンが認められ、下部では軟質部がくさび状に分布している。⑩、⑬も割れ目の周囲に幅10cm程度の軟質部を伴っている。顕著な湧水は認められないが、にじみ出し程度は数箇所まで認められる。

採水試料なし

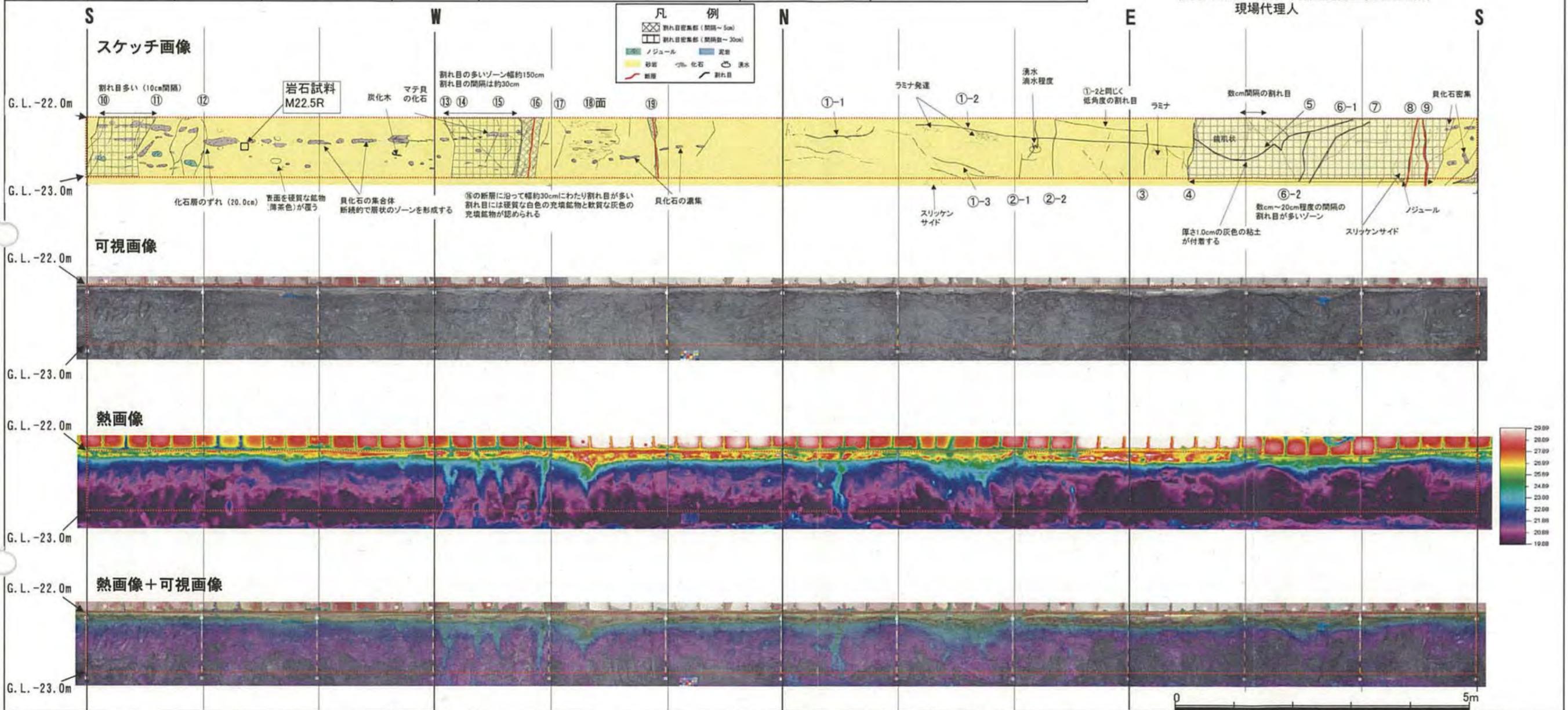
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-014

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	014	日時	2004/6/9 14:30	位置・深度	主立坑 G.L.-22.0m~G.L.-23.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	---------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒の砂岩主体。泥岩は薄層状(厚さ数cm程度)で断続的に分布するが、主に西側の壁面に多く認められる。ラミナの発達した箇所も認められる。化石はφ0.2~5cm程度の貝殻片、二枚貝(形をよく残すもの)、炭化木が認められた。一部硬質なノジュールとなって貝の密集部がみられることがある。西側の壁面付近にマテ貝の仲間と思われるφ1.0cm程度、長さ10.0cm程度の棒状の化石が認められた。	貝化石の分布のずれや上部区間からの連続性から、断層は⑧⑨⑩⑪と判断される。いずれも高角度の傾斜でN10W~N65W方向の走向を示す。⑧~⑨間、数cm間隔で割れ目が認められ、軟質から硬質の白、灰色鉱物が割れ目に沿って認められる。割れ目の周辺は軟質になっており、一部は粘土化する。また、⑩よりW側に約150cmにわたり約30cm間隔で割れ目が多く認められる。顕著な湧水は認められないが、②の割れ目は滴水から湿る程度の少量の湧水が認められた。
岩相	粗粒から中粒の砂岩	RMR値	40		
風化	α	岩石試料番号	M22.5R		
変質	1	採水試料番号	なし		
湧水	有 (滴水から湿る)	化石	有(貝化石、炭化木)		

採水試料なし

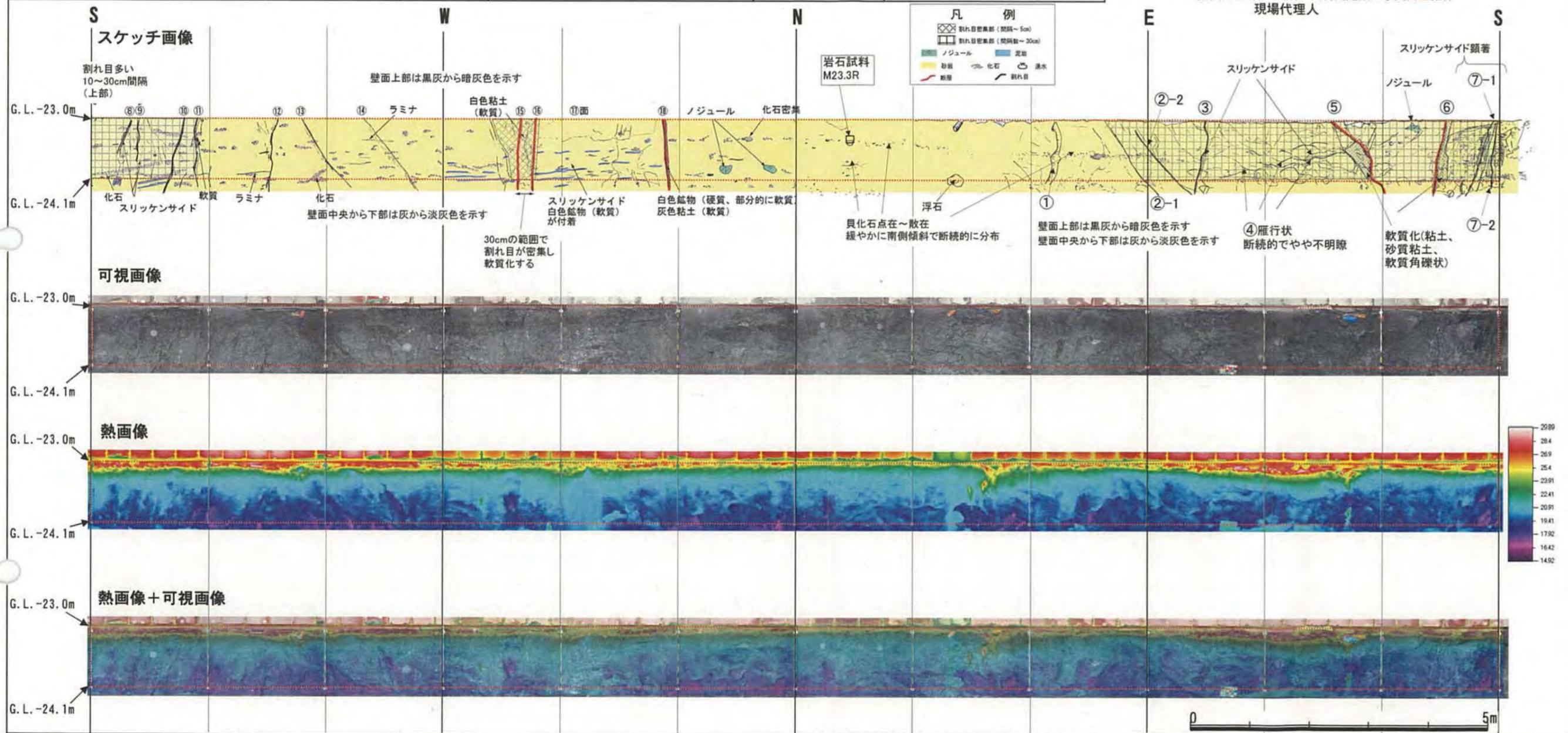
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-015

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	015	日時	2004/6/11 15:00	位置・深度	主立坑 G.L.-23.0m~G.L.-24.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	---------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	42
風化	α	岩石試料番号	M23.3R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し程度)	化石	有(貝化石、炭化木)

特記事項
粗粒から砂岩中粒砂岩を主体とする。部分的に細粒砂岩から泥質部を挟む。S30W、W~N30Wにかけてラミナの発達認められる。貝化石の大半はφ0.1~0.5cmまでの貝化石片であり、まれにφ3.0~4.0cm程度の二枚貝の化石がみられる。貝化石は西側壁面に多く散在し、東側壁面では断続的に分布する。一部、貝化石の密集部が認められる。他に炭化木が少量みられる。化石密集部のずれや、上部区間との連続性から、断層は⑤⑥⑩⑪⑫と判断される。

③は割れ目に白、灰色の中硬質の充填物が部分的に認められた。⑤、⑥は割れ目には幅1~1.5cmの白、灰、黒褐色の軟質から中硬質の充填物が存在し、割れ目の周辺には砂質粘土や角礫状の軟質部を伴う。⑩~⑫間は幅3.0~5.0cmの軟質な白色鉱物をはさみ、割れ目が多く軟質部を伴う。また、⑩は割れ目に硬質(部分的に軟質)の白、灰色の充填物が認められた。顕著な湧水箇所は認められず、一部にじみ出し程度の湧水が確認される。

採水試料なし

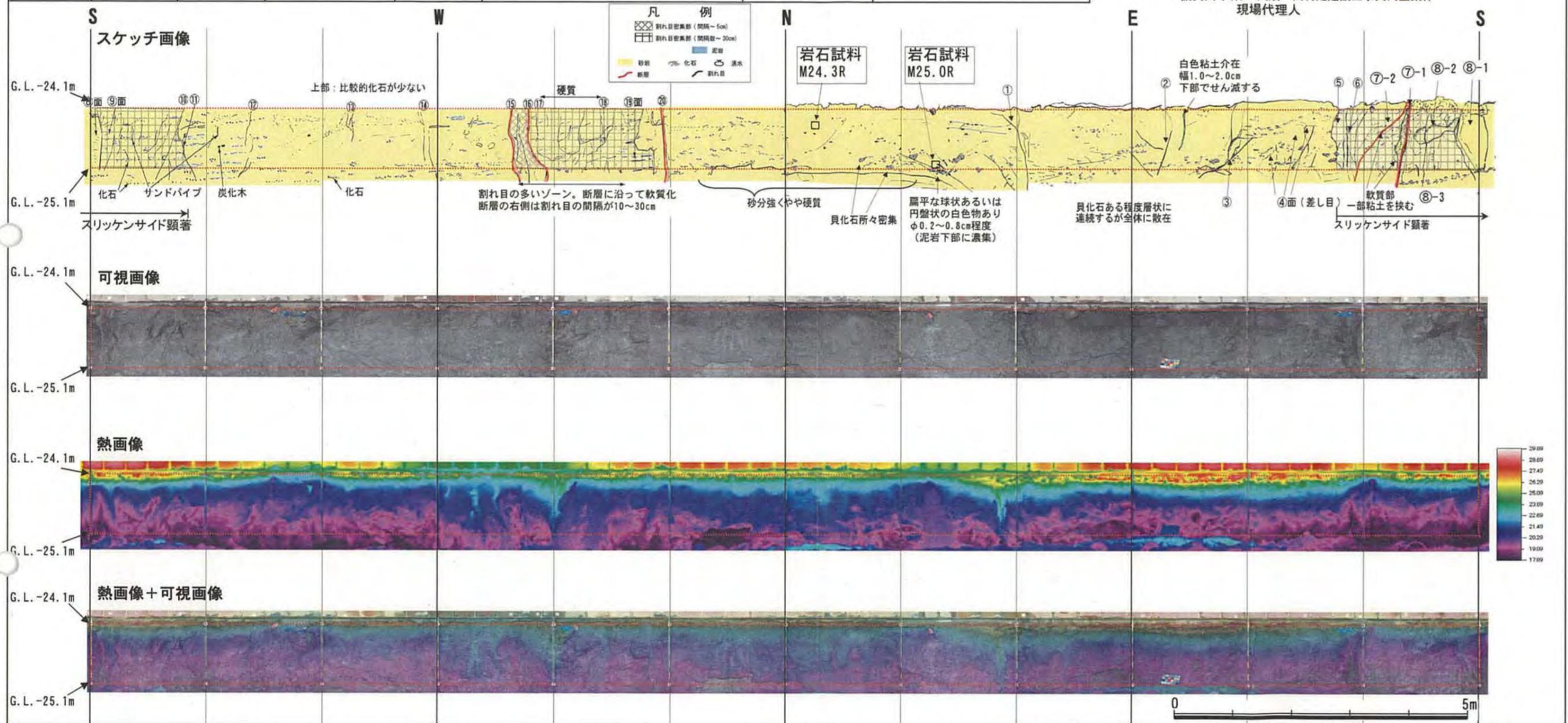
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-016

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	016	日時	2004/6/14 15:30	位置・深度	主立坑 G.L.-24.1m~G.L.-25.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	---------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒砂岩を主体とする。わずかに泥岩の厚さ数cmの薄層を挟む。S~S45W壁面でラミナがみられる。化石は貝化石(かけら、二枚貝: φ0.2~4.0cm)が多く、わずかに炭化木(長さ2.0~10.0cm程度)がみられる。顕著な湧水は認められず、湿りからにじみ出し程度となる。	上部区間との連続性より断層は⑦⑧⑨と判断される。⑦は割れ目の周辺に軟質部を伴い、一部は粘土状を呈する。⑧~⑨の間では10~30cm程度の間隔で割れ目が多く見られる。⑩の割れ目には幅3~5cmの軟質から中硬質の充填鉱物が存在する。S45E~S45Wにかけてスリッケンサイドが顕著にみられる。	採水試料 なし
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	34.8			
風化	α	岩石試料番号	M24.3R(砂岩), M24.3R(泥岩, 白色物)			
変質	1	採水試料番号	無			
湧水	有(にじみ出し程度)	化石	有(貝化石、炭化木)			

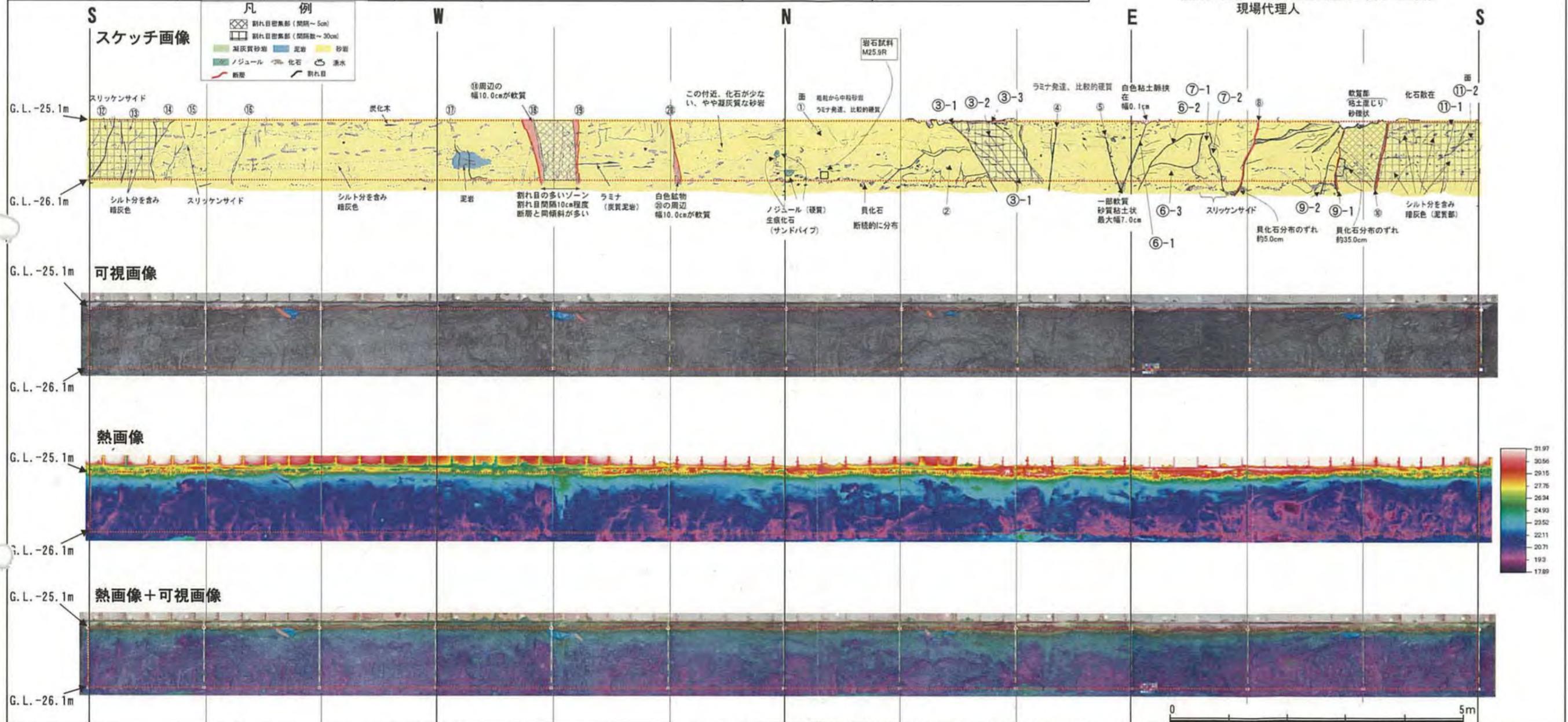
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-017

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	017	日時	2004/6/16 14:30	位置・深度	主立坑 G.L.-25.1m ~ G.L.-26.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	39
風化	α	岩石試料番号	M25.9R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木)

特記事項

粗粒から中粒砂岩を主体とする。壁面北側上部ではラミナの発達が認められる。他に、W付近にブロック状の泥岩が分布する。
化石は貝化石片(φ0.2~2.0cm主体、最大φ4.5cm)が大半を占める。他に炭化木(長さ1.0~15.0cm程度)や、生痕化石(サンドパイプ、長さ10.0cm程度)がみられる。

顕著な湧水箇所はみられず、部分的ににじみ出しや湿り程度が確認される。
貝化石の分布のずれ、岩相の変化から、⑧、⑨-1、⑩、⑪~⑬、⑯が断層と推定される。
割れ目には白、灰、黒褐色の軟質~中硬質な充填鉱物を介在し、⑨-1~⑩、⑬~⑯間は数cm~10cm程度の割れ目が多く、一部で粘土状を呈する軟質部を伴う

採水試料なし

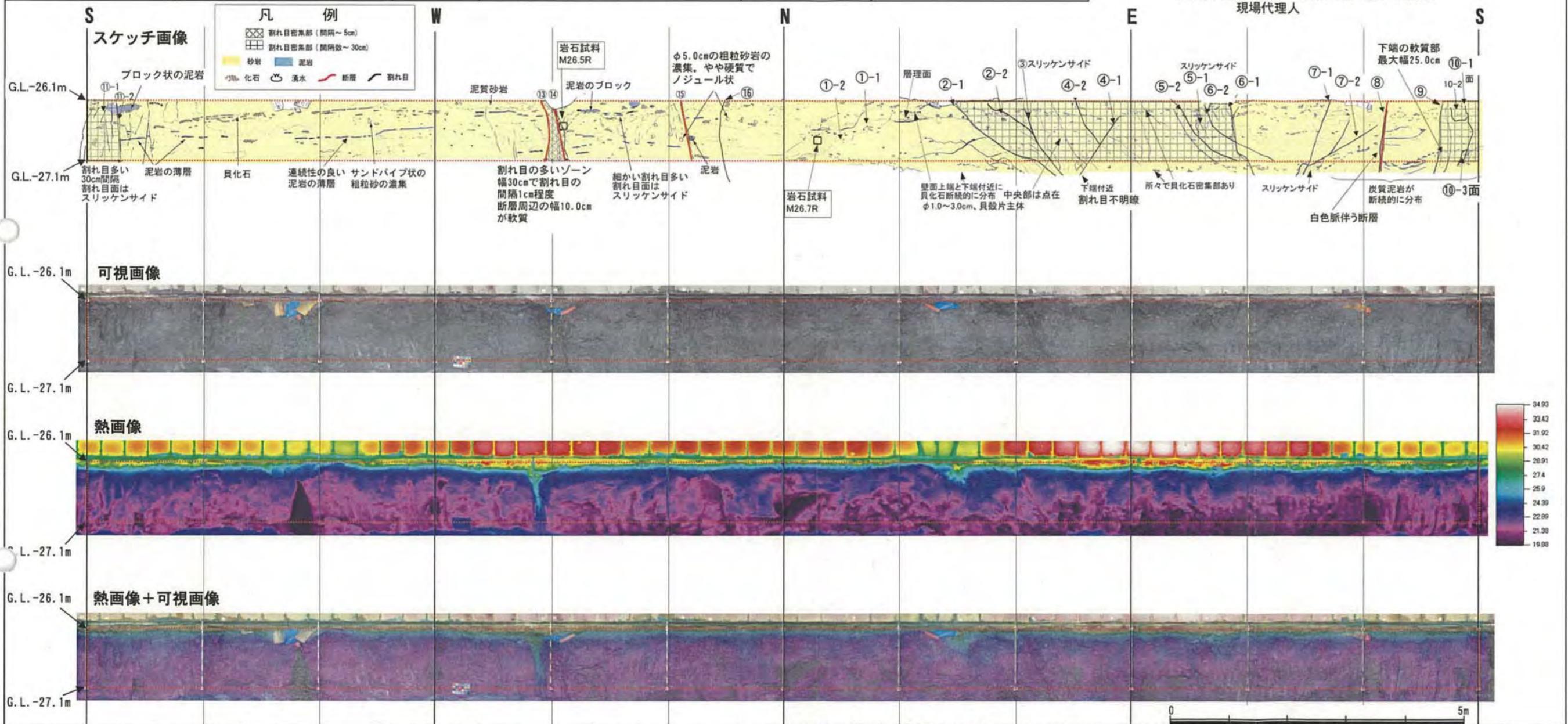
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-018

総括監督員 主任監督員 監督員

シート番号	018	日時	2004/6/18 15:30	位置・深度	主立坑 G.L.-26.1m ~ G.L.-27.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	35
風化	α	岩石試料番号	M26.7R(砂岩), M26.5R(ノジュール)
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木)

特記事項

粗粒から中粒砂岩を主体とする。部分的にブロック状の泥岩および泥岩の薄層を挟む。また、φ数cm程度の粗粒砂岩の濃集部が点在する。層理面は概ね水平から低角度の傾斜を示す。化石は貝化石片が多く、二枚貝の形状を残しているものが多くみられる(φ1.0~3.0cm主体、最大4.5cm程度)。他に炭化木が点在する(長さ2.0~20.0cm程度)。

岩相の違い、化石分布のずれから、断層は⑧、⑩、⑫と推定される。⑧の割れ目には白色の充填鉱物が見られ、割れ目の周辺は幅25.0cmにわたり軟質になっている。⑩~⑫間、幅30cmにわたり1cm以下の間隔で割れ目が入り、軟質である。⑫は幅10.0cmの軟質部を伴い、軟質から中硬質の白色鉱物が存在する。断層の変位量などの詳細は不明。顕著な湧水箇所は認められず、部分的ににじみ出しから湿り程度の湧水がみられる。

採水試料なし

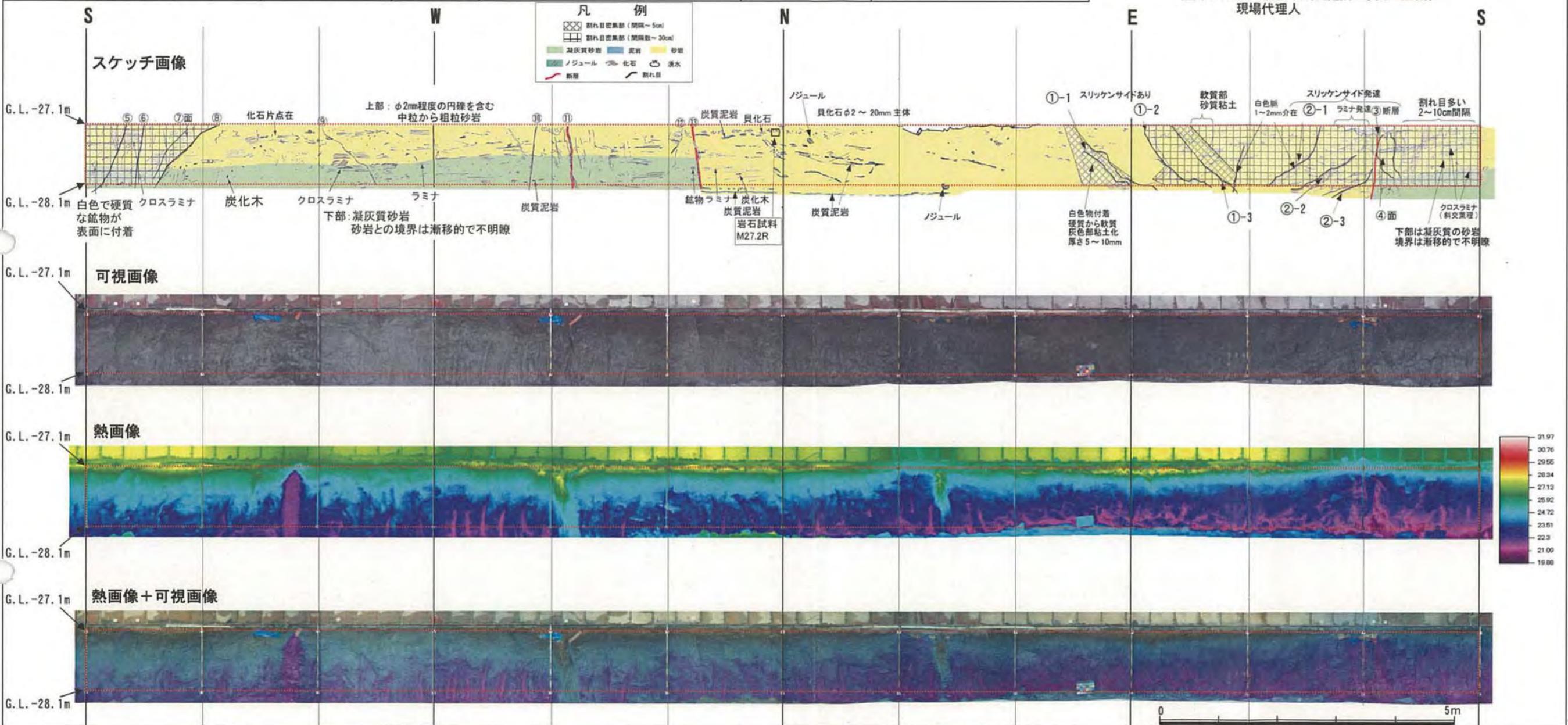
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-019

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	019	日時	2004/6/22 12:00	位置・深度	主立坑 G.L.-27.1m ~ G.L.-28.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	粗粒から中粒砂岩、灰白色凝灰質粗粒から中粒砂岩	RMR値	33
風化	α	岩石試料番号	M27.2R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木)

特記事項

中粒から粗粒砂岩を主体とし、西側の下部にはφ2mm程度の軽石を含む凝灰質砂岩が認められる。砂岩と凝灰質砂岩の境界は漸移的で不明瞭である。泥岩は主に炭質泥岩の薄層または小レンズとして、断続的に分布している。ラミナの発達箇所も見られ、中にはクロスラミナも認められた。化石は貝化石片(φ2~30mm)と炭化木が認められるが、東側壁面主体で西側壁面(④~⑬間)はわずかに点在する程度である。

顕著な湧水は認められず、わずかににじみ出し、湿り程度の湧水が確認される。断層は岩相の違いから③⑬が、また、変位を示す地質構造は認められないが上部区間との連続から①が断層として判断される。①は周囲に割れ目を伴うが、周囲の岩質は硬質である。また、③の断層は周囲に幅30cm程度の軟質部を伴い、割れ目には幅10~30mmの白色鉱物が充填している。変位量、他詳細は不明である。

採水試料なし

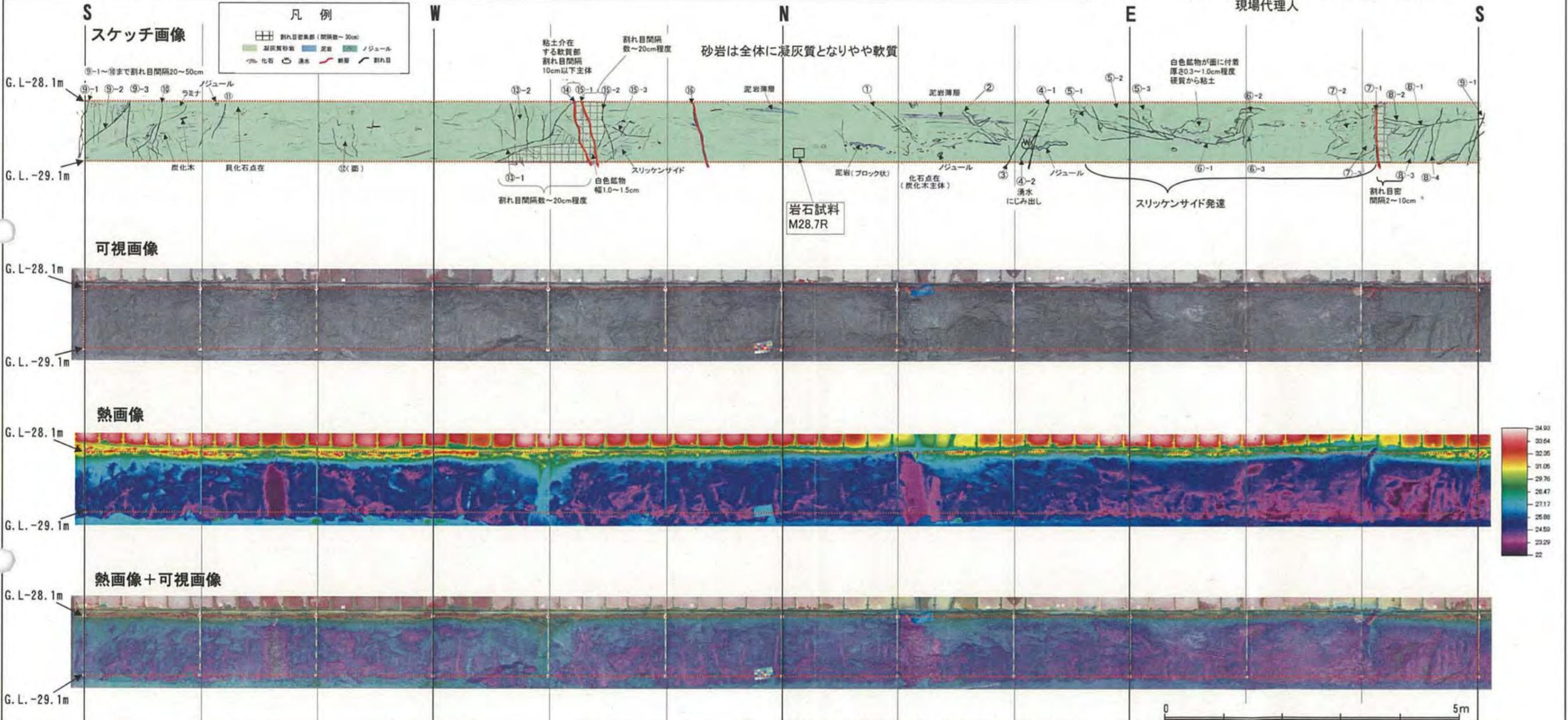
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-020

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	020	日時	2004/6/24 14:30	位置・深度	主立坑 G.L.-28.1m ~ G.L.-29.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒砂岩を主体とする。全体に基質は凝灰質となり、軟質化した箇所では容易にナイフで削り取ることができる。一部φ0.2~1.0cm程度の軽石が混入する箇所もある。他に泥岩の薄層や小ブロックが断続的に認められる。白色鉱物の付着(厚さ1.0cm程度まで)や脈状の分布がみられる。 化石は貝殻片(φ0.2~3.0cm主体)と炭化木(長さ1.0~20.0cm程度まで)が認められるが、その分布は稀で点在する程度である。顕著な湧水は認められず、にじみ出しから湿り程度である。割れ目④-2からわずかににじみ出しが確認されている。断層は⑦-1、⑭、⑮-1、⑯。白色脈、軟質部(一部粘土化)を伴う。変位量などの詳細は不明。
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	35	
風化	α	岩石試料番号	M28.7R	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木)	

採水試料なし

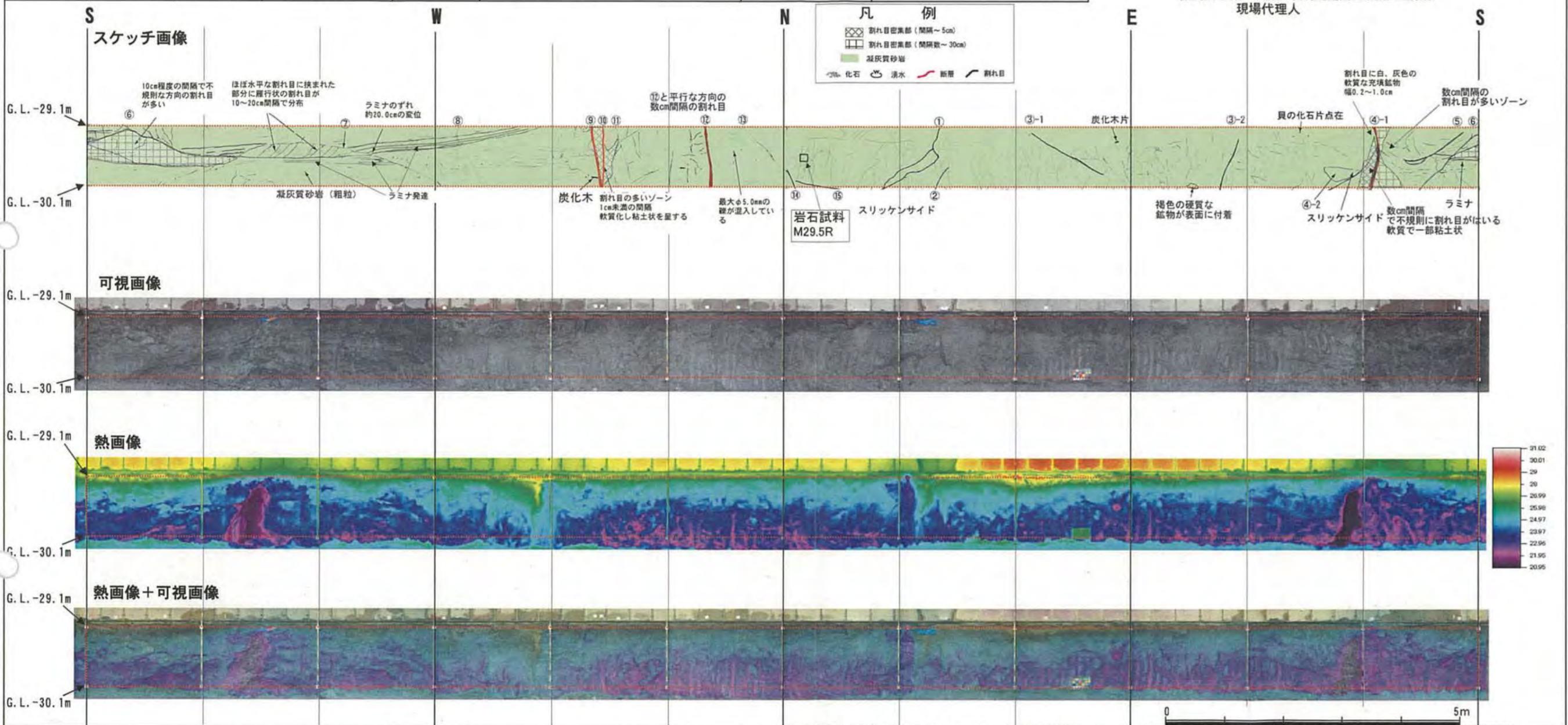
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-021

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	021	日時	2004/6/28 13:00	位置・深度	主立坑 G.L.-29.1m ~ G.L.-30.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	灰白色凝灰質粗粒から中粒砂岩	RMR値	34
風化	α	岩石試料番号	M29.5R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有 (にじみ出し、湿り)	化石	有 (貝化石、炭化木)

特記事項

凝灰質砂岩を主体とする。一部φ0.2~0.5cm程度の礫が混入する箇所もある。
S~Wにかけて砂岩はラミナがよく認められる。西側では⑦の節理を境として、ラミナが20.0cm程度ずれている。また、S~SWにかけて、ほぼ水平の割れ目で挟まれた部分に、雁行状の割れ目が10~20cm間隔で分布しているゾーンが認められた。

化石は貝化石片(φ0.2~3.0cm主体)と炭化木(長さ1.0~10.0cm程度まで)が認められるが、その分布量は稀で、点在する程度である。
顕著な湧水は認められず、にじみ出しから湿り程度である。
断層は変位を示す地質構造は認められないものの、上部の区間からの連続より④-1、⑨、⑩、⑫と判断される。④-1は幅50.0cm程度で10cm程度間隔の割れ目の多いゾーンを伴う。⑨~⑩にかけて粘土状を呈する軟質部を伴い、白色鉱物を介在している。変位量などの詳細は不明。

採水試料 なし

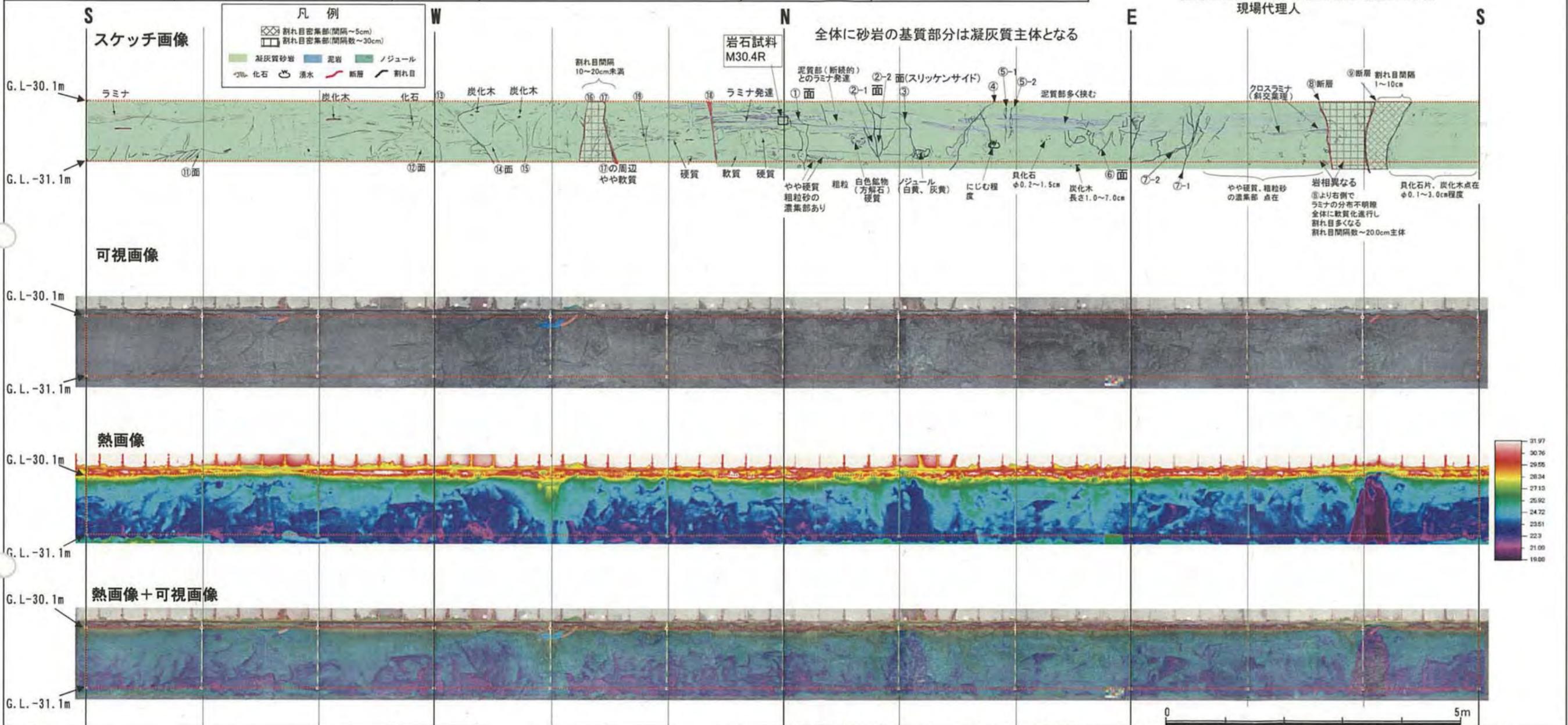
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-022

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	022	日時	2004/6/30 14:00	位置・深度	主立坑 G.L.-30.1m ~ G.L.-31.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	粗粒から中粒砂岩	RMR値	38
風化	α	岩石試料番号	M30.4R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木)

特記事項

粗粒から中粒砂岩からなる。全体に基質は凝灰質となり、軟質化した箇所では容易にナイフで削り取ることができる。割れ目⑩~⑮間の壁面中央やや上部ではラミナが顕著に発達し、一部は泥質部と互層をなして分布する。N付近やSE付近ではやや粗粒砂の濃集した硬質部が点在している。

化石は貝殻片(φ0.2~3.0cm主体)と炭化木(長さ1.0~20.0cm程度まで)が認められるが、その分布量はごく少量で、点在する程度である。顕著な湧水は認められず、にじみ出しから湿り程度である。断層は⑧、⑨、⑬、⑭、⑮であり、白色脈、軟質部(一部粘土化)を伴う。変位量などの詳細は不明。

採水試料なし

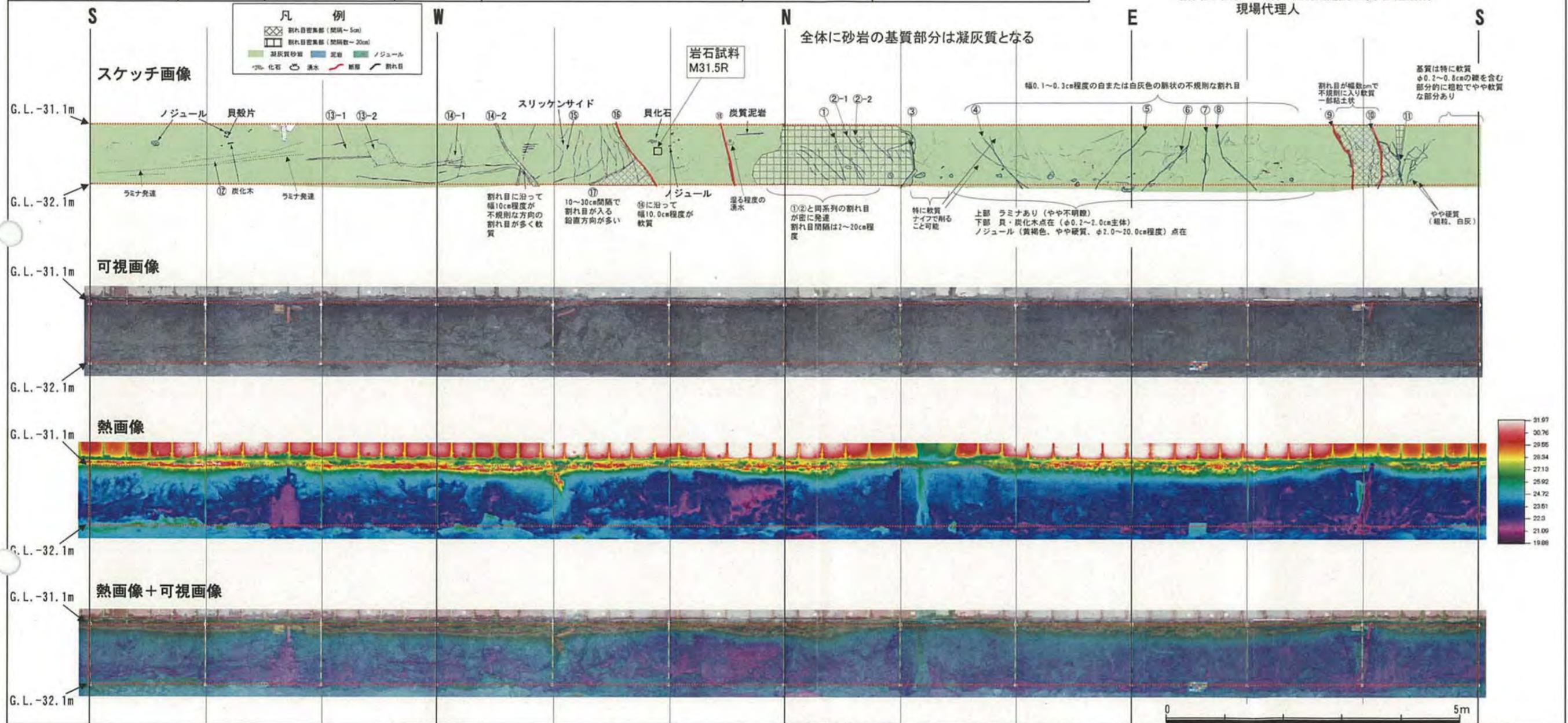
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-023

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	023	日時	2004/7/2 14:00	位置・深度	主立坑 G.L.-31.1m ~ G.L.-32.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	灰白色凝灰質粗粒から中粒砂岩	RMR値	34
風化	α	岩石試料番号	M31.5R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木)

特記事項

粗粒から中粒砂岩を主体とする。全体に基質は細粒分を含んだ凝灰質となる。⑩～⑨間では凝灰質砂岩と砂岩の境界は不明である。全体にラミナが発達し、一部は泥質部と互層をなして分布する。所々で黄褐色で粗粒砂岩を含有したノジュールが認められる。西側壁面においてスリッペンサイドの顕著な箇所がある。東側壁面には白色の粘土が介在する細脈が多数みられる。S30E付近ではφ0.2～0.8cmの礫の混入が認められる。

化石は全体に少なく、貝化石片(φ0.2～2.0cm主体)と炭化木(長さ0.2～20.0cm程度まで)が少量認められる。N30W側にφ0.5～3.0cm程度の貝殻片を多く含む箇所がある。顕著な湧水は認められず、にじみ出しから湿り程度である。断層は上部の区間からの連続性より⑨～⑩、⑩と判断される。⑨～⑩の間および⑩の周辺は1.0cm未満の間隔で割れ目が多く入り、割れ目周辺は軟質で、一部粘土状を呈する。⑩は厚さ0.5～1.0cmで白色の軟質～中硬質の充填鉱物が認められる。変位量などの詳細は不明。

採水試料なし

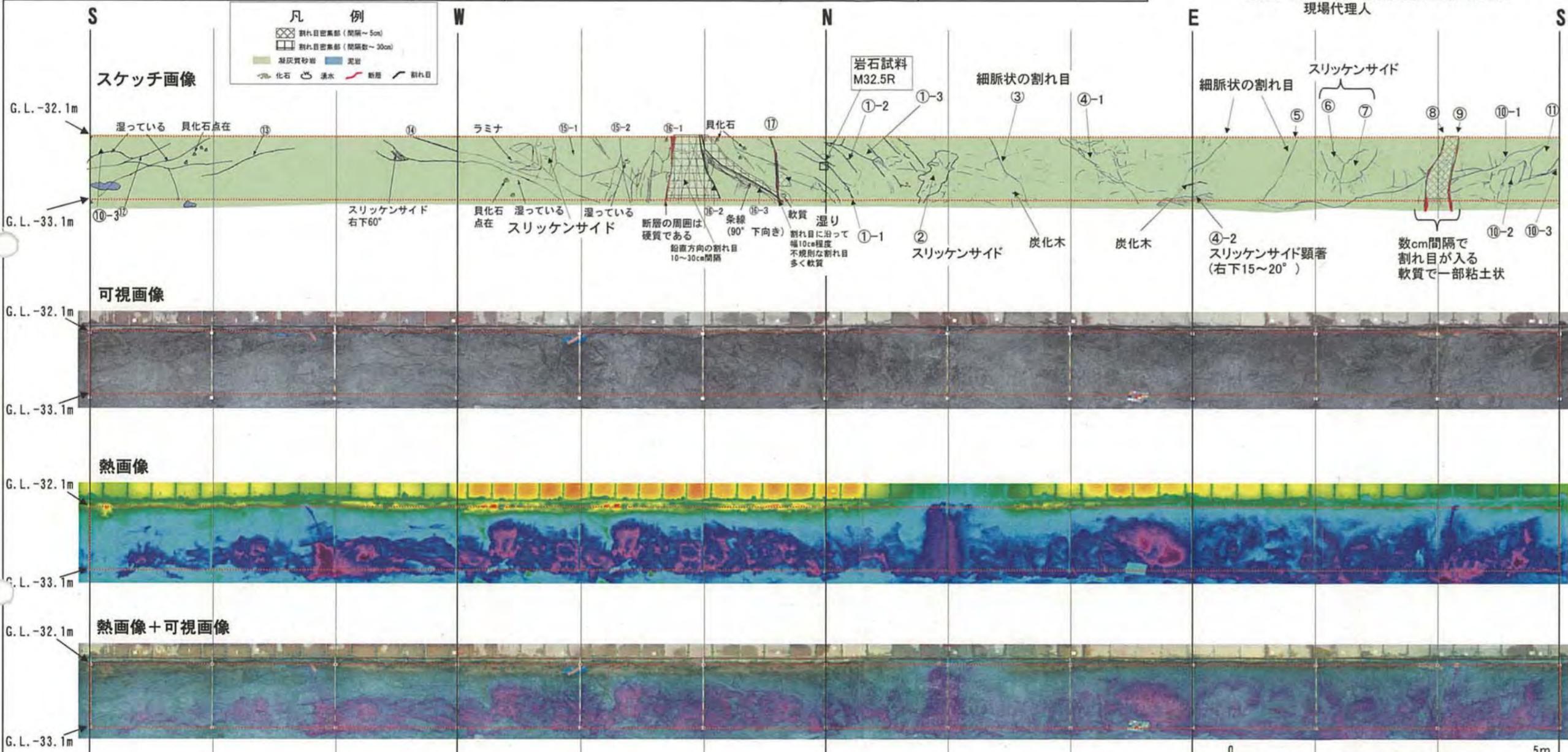
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-024

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

シート番号	024	日時	2004/7/5 15:00	位置・深度	主立坑 G.L.-32.1m ~ G.L.-33.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-----------------------------	--------	--



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 粗粒から中粒砂岩を主体とする。全体に基質は細粒分を含んだ凝灰質である。ラミナはS~N45Wにかけて確認される。東側壁面には③、⑤を含め、他にも粘土が介在する細脈状の割れ目が複数みられる。化石は全体に少なく、貝殻片(φ0.1~2.0cm主体)と炭化木片(1.0~15.0cm程度まで)が認められる。これらの化石はS~W付近、N30W付近にややまとまって分布している。
岩相	灰白色凝灰質粗粒から中粒砂岩	RMR値	37	
風化	α	岩石試料番号	M32.5R	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木)	
				特記事項 顕著な湧水は認められず、にじみ出しから湿り程度である。⑬-3下部からも湿り程度の湧水が確認される。断層は変位を示す地質構造は確認していないが、上部区間の断層との連続から、⑧~⑨、⑬-1、⑭であると判断される。⑧~⑨間は0.1cm未満の間隔で割れ目が多く入り、軟質で粘土状を呈する。⑬-1、⑬-2、⑭の周囲は割れ目間隔は10~30cm程度で岩質は硬質である。⑭の下部に粘土化を呈する軟質部が認められる。
				採水試料なし

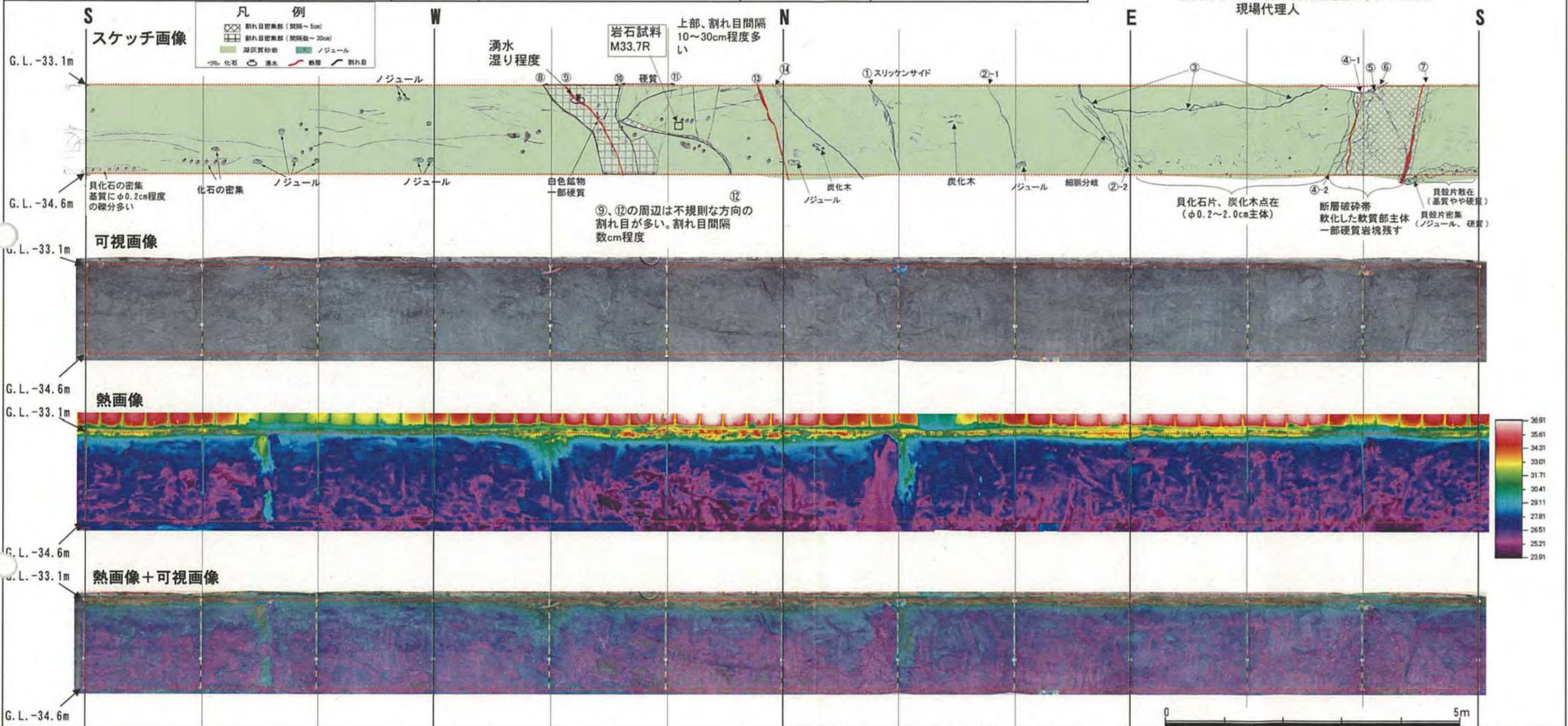
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-025

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	025	日時	2004/7/7 15:00	位置・深度	主立坑 G.L.-33.1m ~ G.L.-34.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	灰白色凝灰質粗粒から中粒砂岩 (西側上部暗灰色)	RMR値	40
風化	α	岩石試料番号	M33.7R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有 (にじみ出し、湿り)	化石	有 (貝化石、炭化木)

特記事項

基質に細粒分を含んだ、灰白色の凝灰質粗粒から中粒砂岩である。ラミナは西側壁面でやや明瞭にみられ、上半部は若干暗灰色を帯びる。東側壁面では幅0.1cm程度の白色粘土を介する細脈状の割れ目が複数確認される。顕著な湧水は認められず、にじみ出しから湿り程度である。化石は貝化石片(φ0.2~2.0cm主体、最大φ3.0cm程度)と炭化木(長さ1.0~13.0cm程度まで)が認められる。S30E~S30Wにかけて下部に貝殻片の密集部が層状に分布する。また、φ10.0~20.0cmのノジュールが認められる。

断層は変位等を明瞭に示す地質構造は認められないものの、上部区間の断層からの連続から④~⑦、⑨、⑬であると判断される。④~⑦間は一部硬質岩塊を残すものの、割れ目が1.0cm未満の間隔で入り軟質化する。⑨の周辺は割れ目が数cm間隔で入り、部分的に粘土状を呈し、割れ目には最大幅5.0cmの軟質な白色の充填鉱物が認められる。

採水試料なし

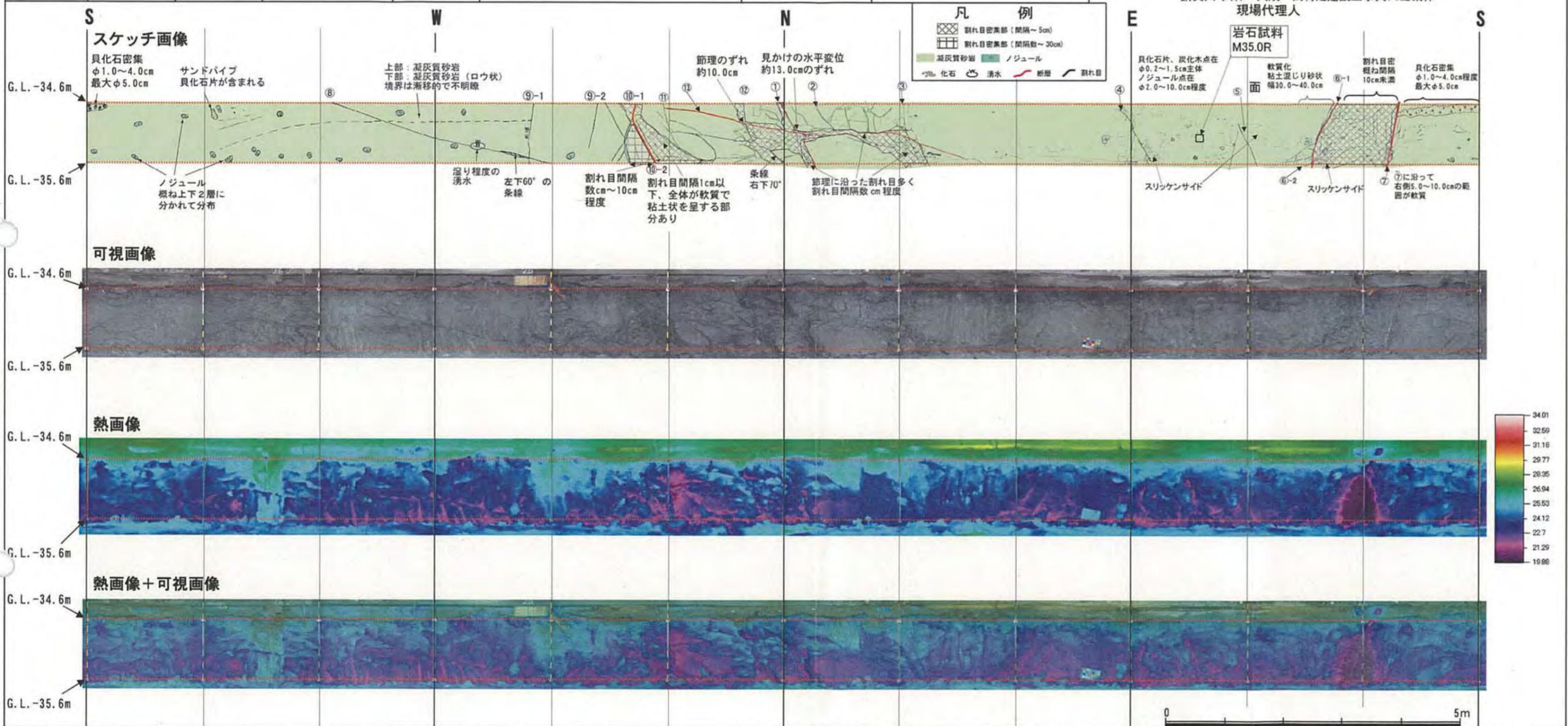
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-026

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	026	日時	2004/7/9 14:00	位置・深度	主立坑 G.L.-34.6m ~ G.L.-35.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 灰白色の凝灰質粗粒から中粒砂岩である。西側壁面の下部はロウ状の凝灰質砂岩で、上部の凝灰質砂岩との境界は漸移的で不明瞭である。化石は貝殻片(φ0.2~1.5cm主体)が認められる。また、S30E~SIにかけて上部に貝化石(φ1.0~4.0cm程度、最大φ5.0cm)が層状に密集して分布している。他にS30Wに生痕化石(サンドパイプ)がみられる。全体にノジュールが多数点している(φ2.0~10.0cm程度)。顕著な湧水は認められず、にじみ出しから湿り程度である。⑧の下方からも湿り程度の湧水が確認される。	断層は化石密集層のずれや節理のずれから①、⑥、⑦、⑩-1、⑬であると判断される。⑥~⑦間は割れ目の間隔が概ね10cm未満の割れ目の多いゾーンで、⑥の上部左側の30.0~40.0cmの範囲が軟質になり粘土状を呈する。また、⑦に沿って右側5.0~10.0cmの範囲が軟質になっている。①、⑬の周辺には割れ目間隔が数cm~10cm程度の割れ目の多いゾーンが認められ、⑩-1付近では一部粘土状を呈する幅10.0cm程度の軟質部をとまう。⑬は上部が左方向に見かけ上10.0~13.0cmの横ずれの変位をしている。他の断層の変位量は不明である。	採水試料 なし
岩相	灰白色凝灰質粗粒から中粒砂岩 (一部ロウ状)	RMR値	39			
風化	α	岩石試料番号	M35.0R			
変質	1	採水試料番号	無			
湧水	有 (にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、炭化木、生痕化石)			

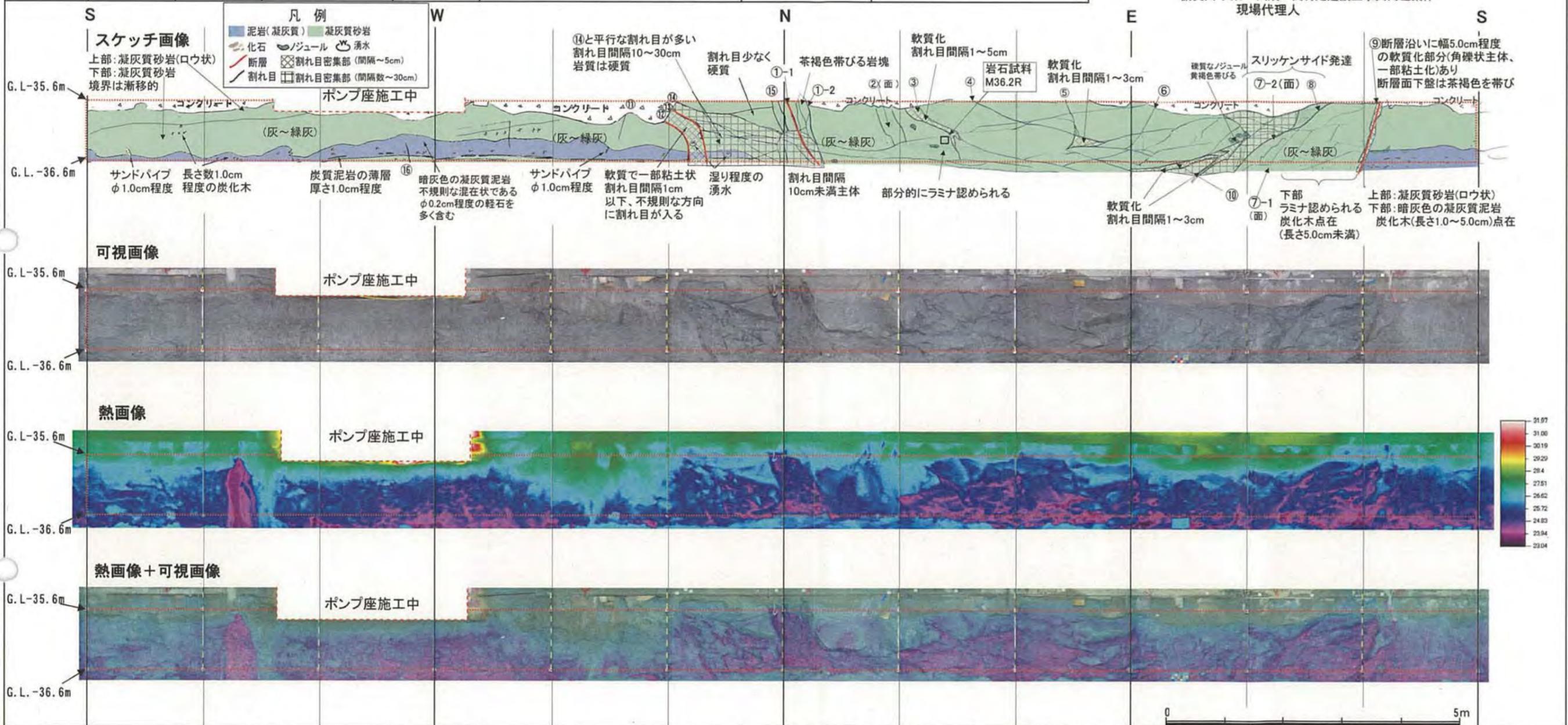
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-027

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	027	日時	2004/7/13 16:00	位置・深度	主立坑 G.L.-35.6m ~ G.L.-36.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	凝灰質砂岩、凝灰質泥岩	電研式岩級	CL	特記事項 凝灰質砂岩を主体とし、西側には上部にロウ状の凝灰質砂岩が認められる(境界は漸移的である)。また、⑨の断層からNIにかけての下部に、φ0.2cm程度の軽石を含んだ層厚30.0~50.0cm以上の凝灰質泥岩が、概ね水平に分布している。凝灰質泥岩と、上部の凝灰質砂岩との境界は不規則な混在状を呈している。 化石はS45EからN30Wにかけて中~下部に炭化木(長さ1.0~5.0cm程度まで)が多数認められる。また、S30W側とN30E側に生痕化石(φ1.0cm程度)が認められる。E側ではノジュールが点在している(φ3.0~20.0cm程度)。 断層は凝灰質泥岩の分布状況から①-1、⑨、⑫、⑬と判断される。①-1の断層の下部には幅0.5~1.0cmの硬質から中硬質の白色の充填鉱物が存在する。また、⑨の断層には幅0.5~1.5cmの硬質~軟質な白、灰、茶褐色の充填鉱物が存在し、周辺に幅5.0cm程度の軟質部をともなう。変位量などの詳細は不明である。③、⑤、⑩の周辺部、⑫~⑬の間で割れ目が多く存在し(割れ目間隔1cm以下~5cm)、軟質部を伴い一部は粘土状を呈する。また、⑧、⑭の周辺の岩質は硬質であるが、割れ目がやや多い(割れ目間隔数cm~30cm)。 ⑫~⑬に挟まれる割れ目の多いゾーン、およびその周辺で湿り程度の湧水が確認される。	採水試料なし
岩相	凝灰質砂岩、凝灰質砂岩(ロウ状)、凝灰質泥岩	RMR値	47		
風化	α	岩石試料番号	M36.2R		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(炭化木、生痕化石)		

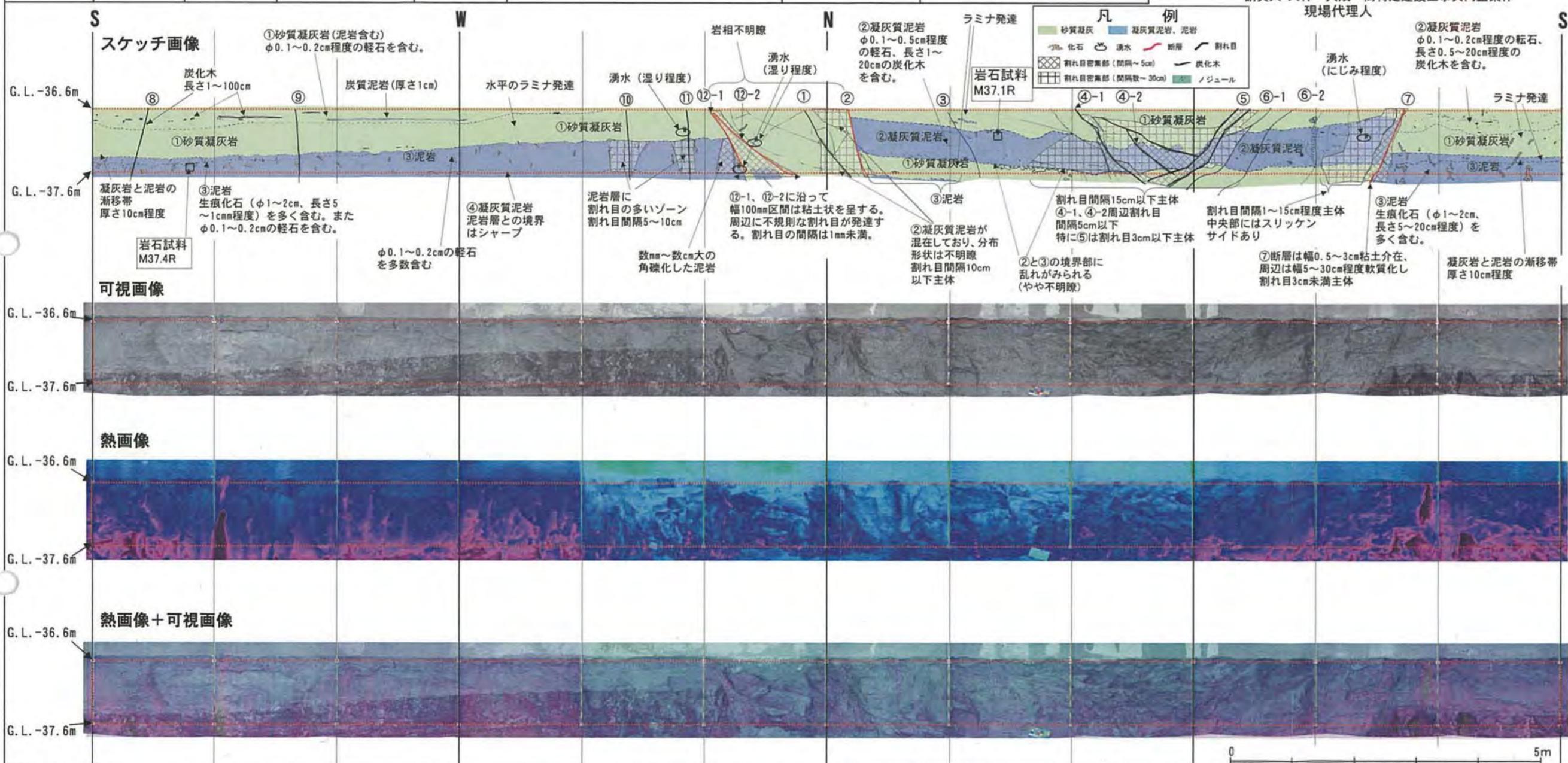
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-028

総括監督員 主任監督員 監督員

シート番号	028	日時	2004/7/28 12:00	位置・深度	主立坑 G.L. -36.6m ~ G.L. -37.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	凝灰岩、泥岩	電研式岩級	CL
岩相	①砂質凝灰岩(灰) ②凝灰質泥岩(暗灰) ③泥岩(黒灰) ④凝灰質泥岩(暗灰)	RMR値	40
風化	α	岩石試料番号	M37.1R, M37.4
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(炭化木、生痕化石)

特記事項

①砂質凝灰岩、②凝灰質泥岩、③泥岩および④凝灰質泥岩が分布する。①砂質凝灰岩は全体にラミナがよく発達している。②凝灰質泥岩はN-SEにかけて層厚50cm前後で、概ね水平から南側傾斜を示す。②凝灰質泥岩とその上部に分布する①砂質凝灰岩との境界は漸移的で、不規則に混在した状態を呈している。③泥岩、④凝灰質泥岩は上部の岩相①砂質凝灰岩、②凝灰質泥岩と比較して若干硬質となる。

化石は炭化木と生痕化石(サンドパイプ)がみられる。炭化木(長さ1~20cm主体、最大100cm)は①砂質凝灰岩および②凝灰質泥岩に点在する。

生痕化石(φ1~2cm、長さ5~20cm程度)は全体に点在するが、特に③泥岩上部に多い。断層は⑫-1、⑫-2、②、⑦であり、それぞれ岩相境界となる。⑦は幅0.5cmの黒褐色粘土を介在、周辺軟質部は幅5~30cm程度。⑫-1~⑫-2は幅8~10cm程度で粘土状を呈し、周辺の軟質部は幅20~80cm程度となる。

湧水は⑦の近傍左側においてにじみ出し程度の湧水箇所が確認された。他には湧水箇所を特定できないもの①から⑫-2付近にかけて岩盤の湿りが認められる。

採水試料なし

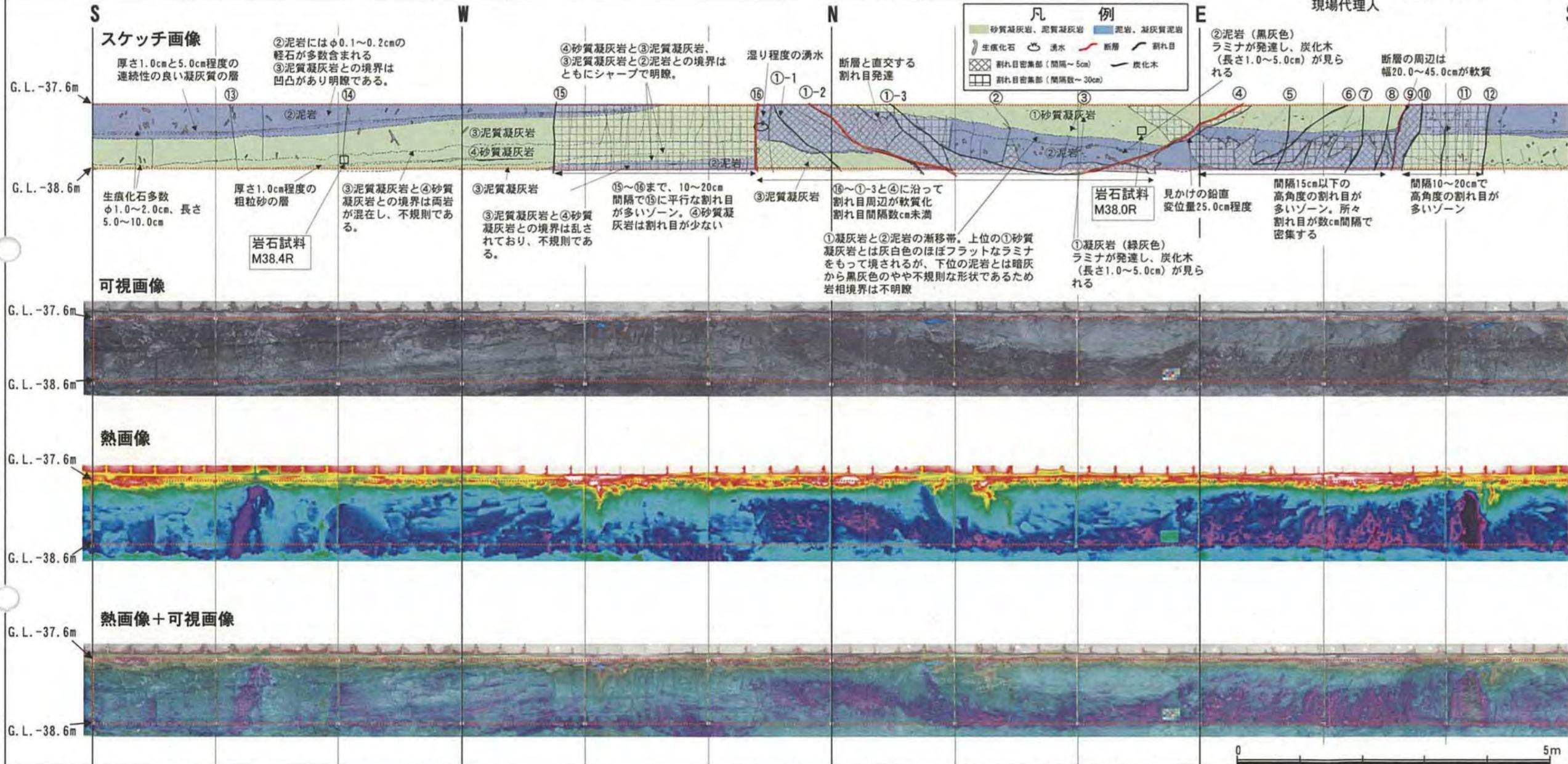
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-029

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	029	日時	2004/7/30 13:30	位置・深度	主立坑 G.L.-37.6m ~ G.L.-38.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	凝灰岩、泥岩	電研式岩級	CL
岩相	①砂質凝灰岩(灰) ②泥岩(暗灰) ③泥質凝灰岩(淡灰) ④砂質凝灰岩(淡緑灰)	RMR値	40
風化	α	岩石試料番号	M38.0R, M38.4R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(炭化木、生痕化石)

特記事項

⑨、⑩の断層により、東西で岩相が変わっている。E側では①砂質凝灰岩、②泥岩が分布し、W側では②泥岩、③泥質凝灰岩、④砂質凝灰岩が確認される。

⑨～①-2間と⑩～⑩間は角礫化マトリックスは粘土状を呈する。特に⑩のN側約25.0cmは角礫化とマトリックスの粘土化が著しい。また、⑩～⑩間と⑩～⑩間は⑨や⑩の断層と平行な走向傾斜の割れ目が10～20cm間隔で入る。④砂質凝灰岩では割れ目が少なく、②泥岩や③泥質凝灰岩では割れ目が目立つ。④～⑩にかけても②泥岩では高角度の割れ目が多く見られる。①-1、①-2、①-3、⑩の割れ目には軟質で黒褐色の介在鉱物が幅0.2～2.5cmで確認される。湧水は⑩の断層付近で湿り程度で確認される。

採水試料なし

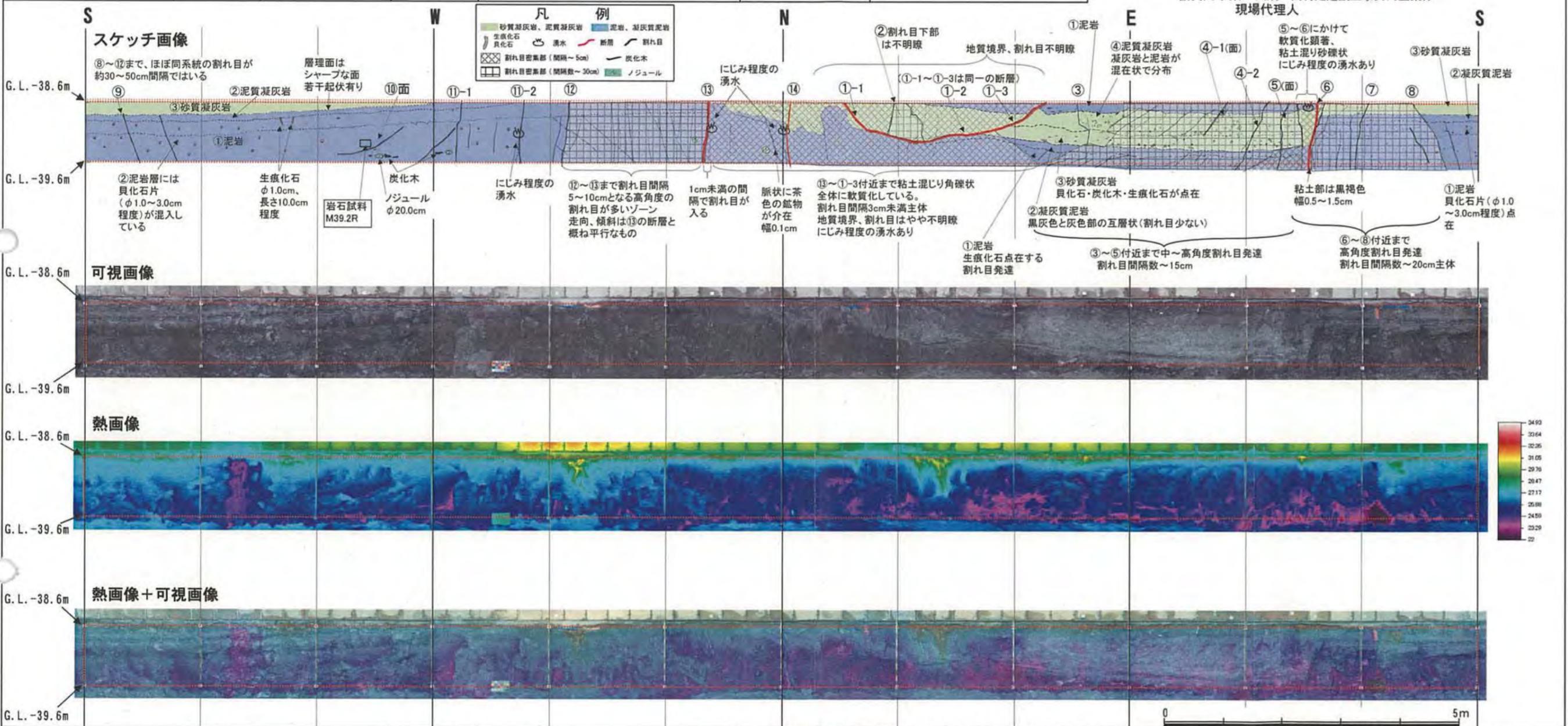
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-030

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	030	日時	2004/8/2 15:00	位置・深度	主立坑 G.L.-38.6m ~ G.L.-39.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	凝灰岩、泥岩	電研式岩級	CL
岩相	①泥岩(暗灰) ②泥質凝灰岩(灰、黒灰) ③砂質凝灰岩(淡緑灰) ④泥質凝灰岩(灰、淡灰)	RMR値	43
風化	α	岩石試料番号	M39.2R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し)	化石	有(炭化木、生痕化石、貝化石)

特記事項

岩種としては、凝灰岩と泥岩が分布する。岩相としては、①泥岩、②泥質凝灰岩、③砂質凝灰岩、④泥質凝灰岩と区分したが、岩相境界の不明瞭な箇所もある。

断層は①-1~①-3(同一の断層)、⑥、⑬、⑭と考えられる。⑥と⑬は同一の断層と推定される。これらの断層は正断層と考えられ、⑥付近では鉛直方向に65cm程度の見かけの変位を示している。断層周辺の岩盤は割れ目が密に発達し軟質化が進行、概ね粘土混り砂礫状、角礫状となる。また、断層に沿って脈状に粘土を介在することもある。

特にN周辺の断層⑬~①-3付近とSEの⑤~⑥付近は割れ目間隔が3cm未満主体となる。

化石は、生痕化石(φ1.0~2.0cm、長さ5.0~10.0cm程度)、炭化木(長さ1.0~5.0cm)、貝化石(φ1.0~3.0cm主体)が認められる。これらの化石のうち、貝化石は泥岩中に多く散在している。また、W~Nにかけてφ10.0~20.0cmのノジュールが点在する。湧水は⑤~⑥、⑪-2、⑬~⑭付近で、いずれもにじみ出し程度の水量の湧水が確認される。

採水試料なし

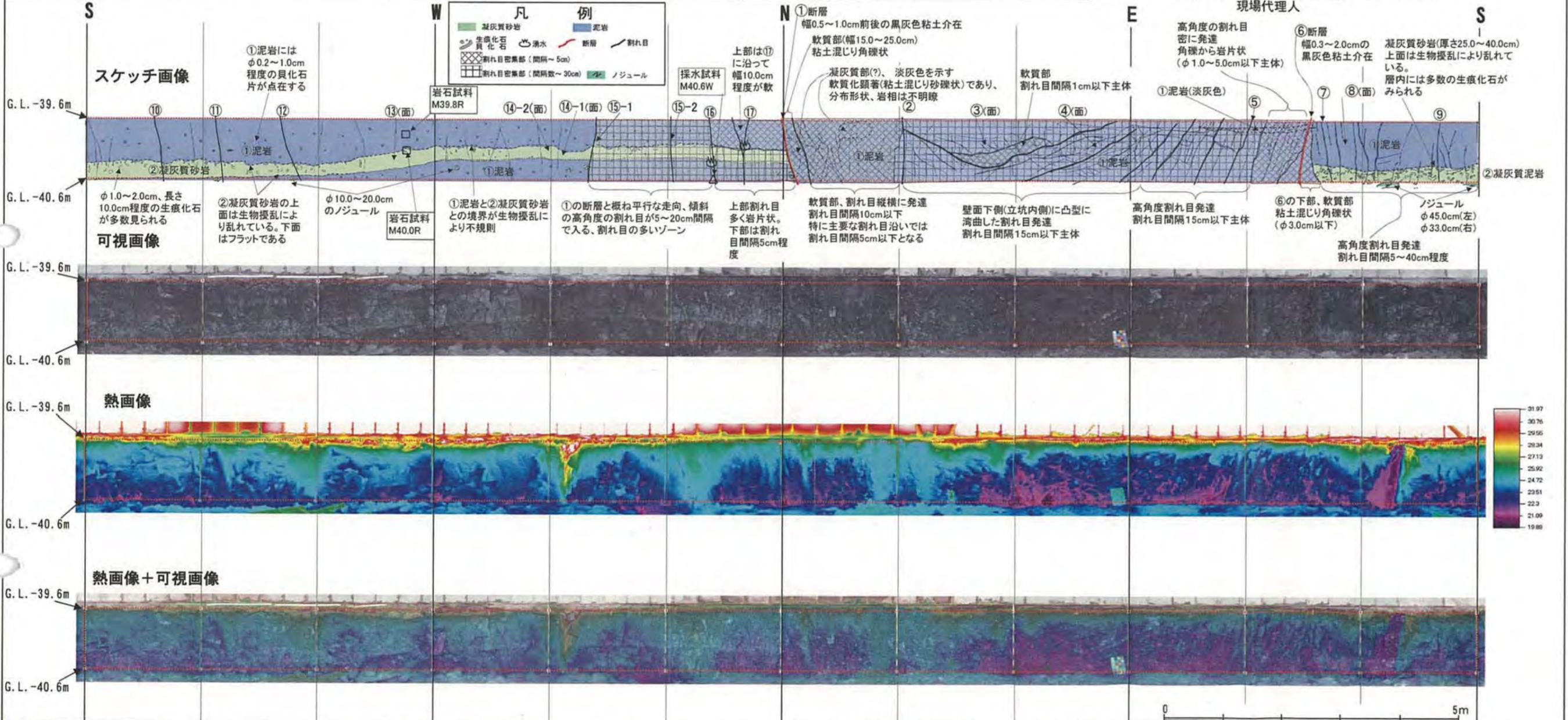
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-031

総括監督員	主任監督員	監督員

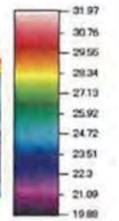
シート番号	031	日時	2004/8/4 13:00	位置・深度	主立坑 G.L. -39.6m ~ G.L. -40.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩、砂岩	電研式岩級	CL
岩相	①泥岩(暗灰) ②凝灰質砂岩(淡灰)	RMR値	45
風化	α	岩石試料番号	M39.8R、M40.0R
変質	1	採水試料番号	M40.6W
湧水	有(湿り、にじみ出し、滴水)	化石	有(炭化木、生痕化石、貝化石)

特記事項
 岩種は泥岩と砂岩である。岩相は①泥岩と②凝灰質砂岩で、断層を境としてE側では①泥岩が、W側では上位より①泥岩、②凝灰質砂岩、①泥岩の順で成層をなして分布する。E側は高角度割れ目が発達している。部分的に淡灰色を示す凝灰質と推定される箇所がみられるが、割れ目が密なことから不明瞭である。W側上位の①泥岩と②凝灰質砂岩との境界は生物擾乱により不明瞭になっている。②凝灰質砂岩の層厚は部分的に変化するものの、概ね30.0cm程度で一定である。
 ①泥岩にはφ0.2~1.0cm主体の貝化石片が点在し、長さ数1.0cmの炭化木がまれに認められる。また、②凝灰質砂岩にはφ0.1~2.0cm、長さ10.0cm程度の生痕化石が多数認められる。ノジュールが数箇所点に在し、大きさは概ねφ10.0~20.0cm程度であるが、最大φ45.0cm程度のものが確認された。断層は岩相のずれより①と②と考えられ、両者は同一の断層と推定される。①、②ともに黒褐色の粘土を介在し、周辺に粘土混じり砂礫から粘土混じり角礫状の軟質部を伴う。湧水は湿り程度が多く、1箇所で滴水が認められた。



0 5m

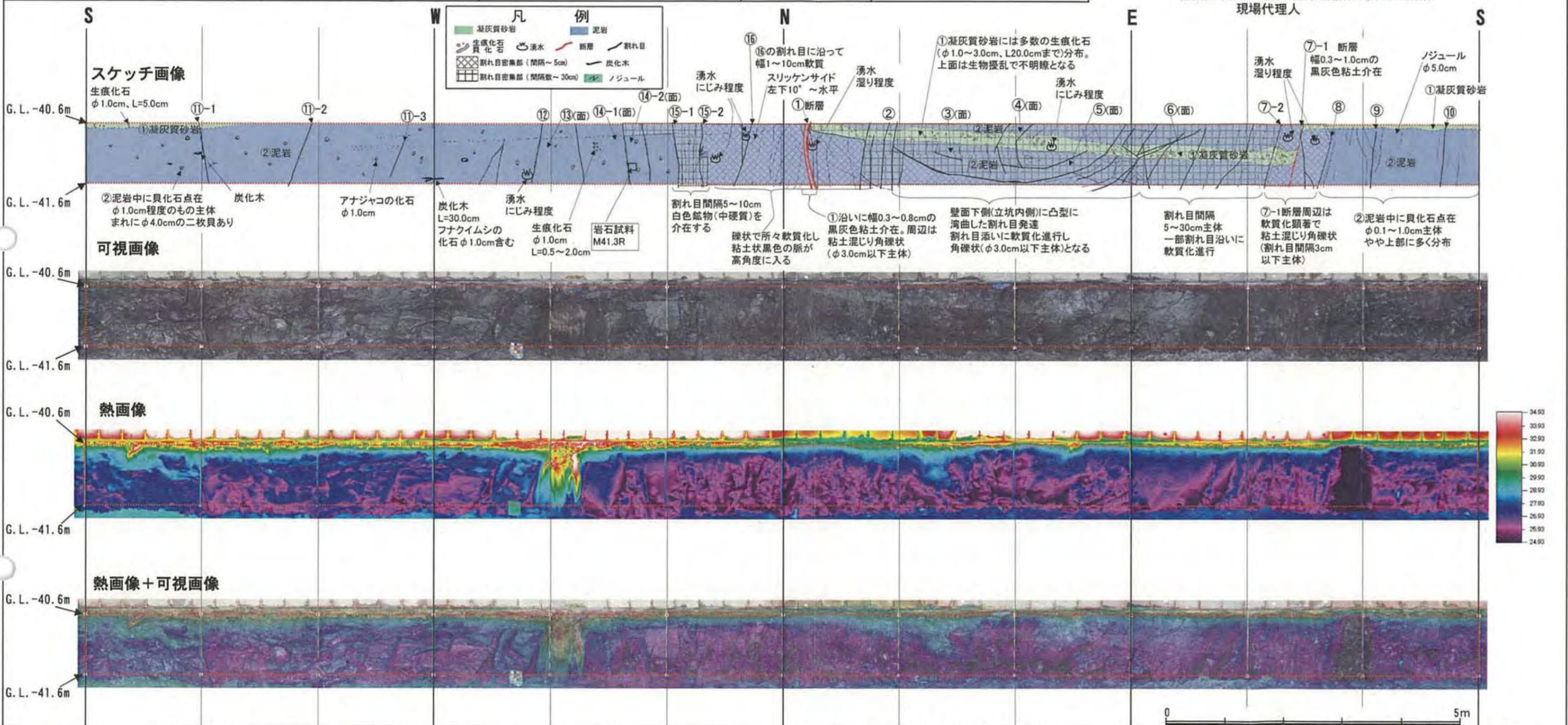
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-032

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	032	日時	2004/8/6 14:00	位置・深度	主立坑 G.L. -40.6m ~ G.L. -41.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩、砂岩	電研式岩級	CL
岩相	①凝灰質砂岩(淡灰) ②泥岩(暗褐灰)	RMR値	41
風化	α	岩石試料番号	M41.3R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(湿り、にじみ出し)	化石	有(炭化木、生痕化石、貝化石)

特記事項

岩種は砂岩及び泥岩である。岩相は①凝灰質砂岩及び②泥岩で、断層を境としてE側では①凝灰質砂岩と②泥岩が分布、W側では大部分を②泥岩が占め、わずかにS付近上端に①凝灰質砂岩が分布する。E側は高角度割れ目が発達し、割れ目沿いに軟質化する。壁面上部から中央付近にかけて分布する①凝灰質砂岩の上面は生物擾乱により不明瞭になっている。W側は割れ目が少なく、割れ目間隔は10~50cm程度となる。②泥岩中には厚さ10.0cm弱の黒灰色部が低角度南側傾斜でみられる。

②泥岩にはφ0.1~1.0cm主体の貝化石片が点在し、長さ数1.0~30.0cm程度までの炭化木がまれに認められる。また、①凝灰質砂岩にはφ1.0~3.0cm、長さ20.0cm程度までの生痕化石が多数認められる。ノジュールが数箇所にて点在し、大きさは概ねφ1.0cm程度である。

断層は岩相のずれより①と⑦-1と考えられ、両者は同一の断層と推定される。①、⑦-1ともに茶褐色粘土を介在し、周辺に粘土混じり角礫状の軟質部を伴う。

湧水は湿り程度が多く、所々ににじみ出しが認められた。

採水試料なし

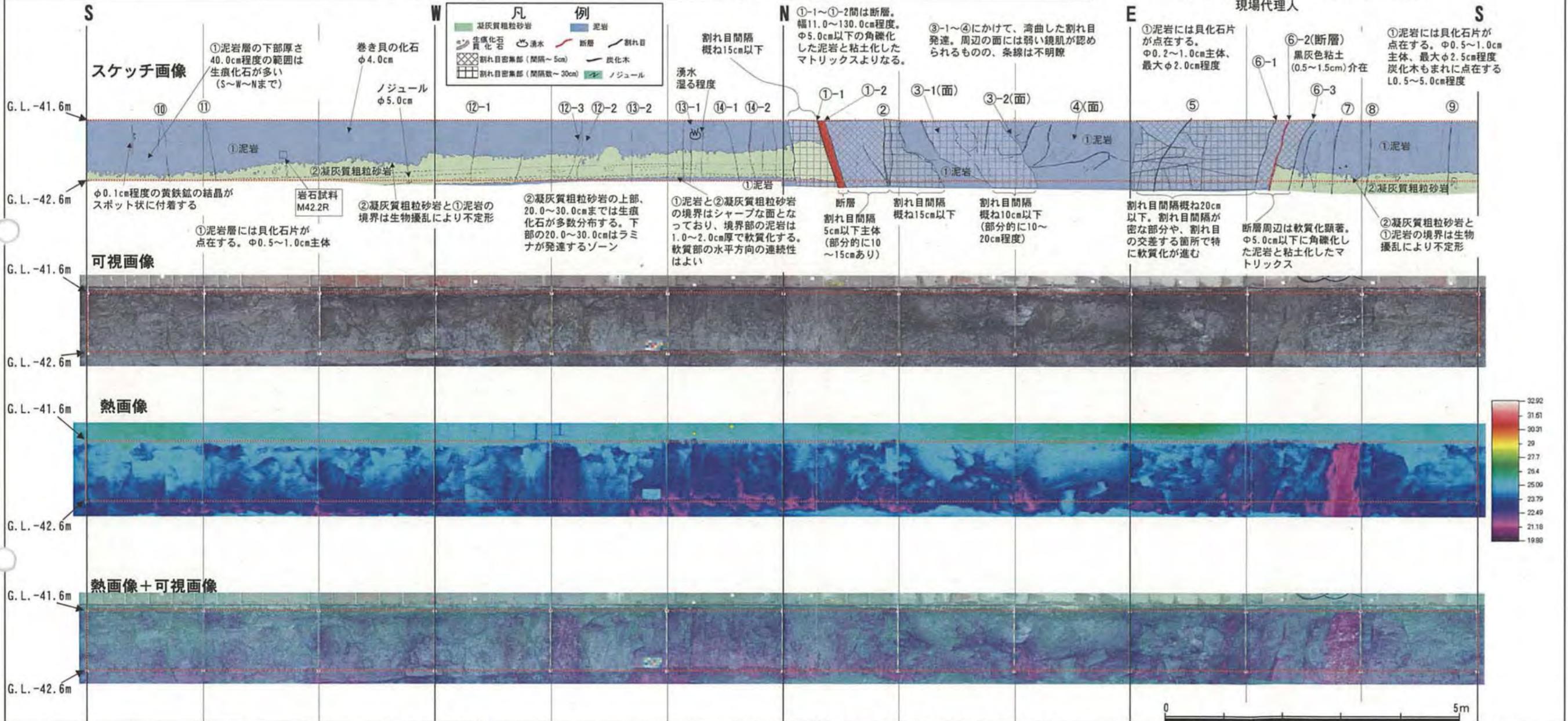
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-033

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	033	日時	2004/8/18 15:30	位置・深度	主立坑 G.L.-41.6m ~ G.L.-42.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩、砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 岩種は泥岩、砂岩である。岩相は①泥岩と②凝灰質粗粒砂岩である。②凝灰質粗粒砂岩は層厚50.0cm程度で、①泥岩中に挟在する。上部の①泥岩と②凝灰質粗粒砂岩との境界は生物擾乱により不定形である。②凝灰質粗粒砂岩と下部の①泥岩との境界はシャープな面となっており、①泥岩の上端厚さ1.0~2.0cm程度は軟質化している。②凝灰質粗粒砂岩の上部、20.0~30.0cmまでは生痕化石が多数認められ、下部の20.0~30.0cmの範囲はラミナが発達している。 ①泥岩にはφ0.2~1.0cm程度の貝化石が点在し、W側にはφ4.0cmの巻貝の化石が認められた。また、①泥岩の下部はφ1.0cm程度で長さ5.0~10.0cmの生痕化石が多数認められる。断層は岩相のずれより①-1~①-2、⑥と判断される。①-1は明瞭に泥岩をせん断している。②凝灰質粗粒砂岩の分布は①-1~①-2間の断層破砕部において不明瞭となる。①-1~①-2間と⑥周辺の幅50.0cm程度は割れ目が多く軟質化しており、φ5.0cm以下に角礫化した岩盤と粘土化したマトリックスよりなる。湧水は⑬付近より湿る程度で確認された。
岩相	①泥岩(暗灰から黒灰)、②凝灰質粗粒砂岩(淡灰)	RMR値	45	
風化	α	岩石試料番号	M42.2R	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	有(湿り、にじみだし)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)	

採水試料なし

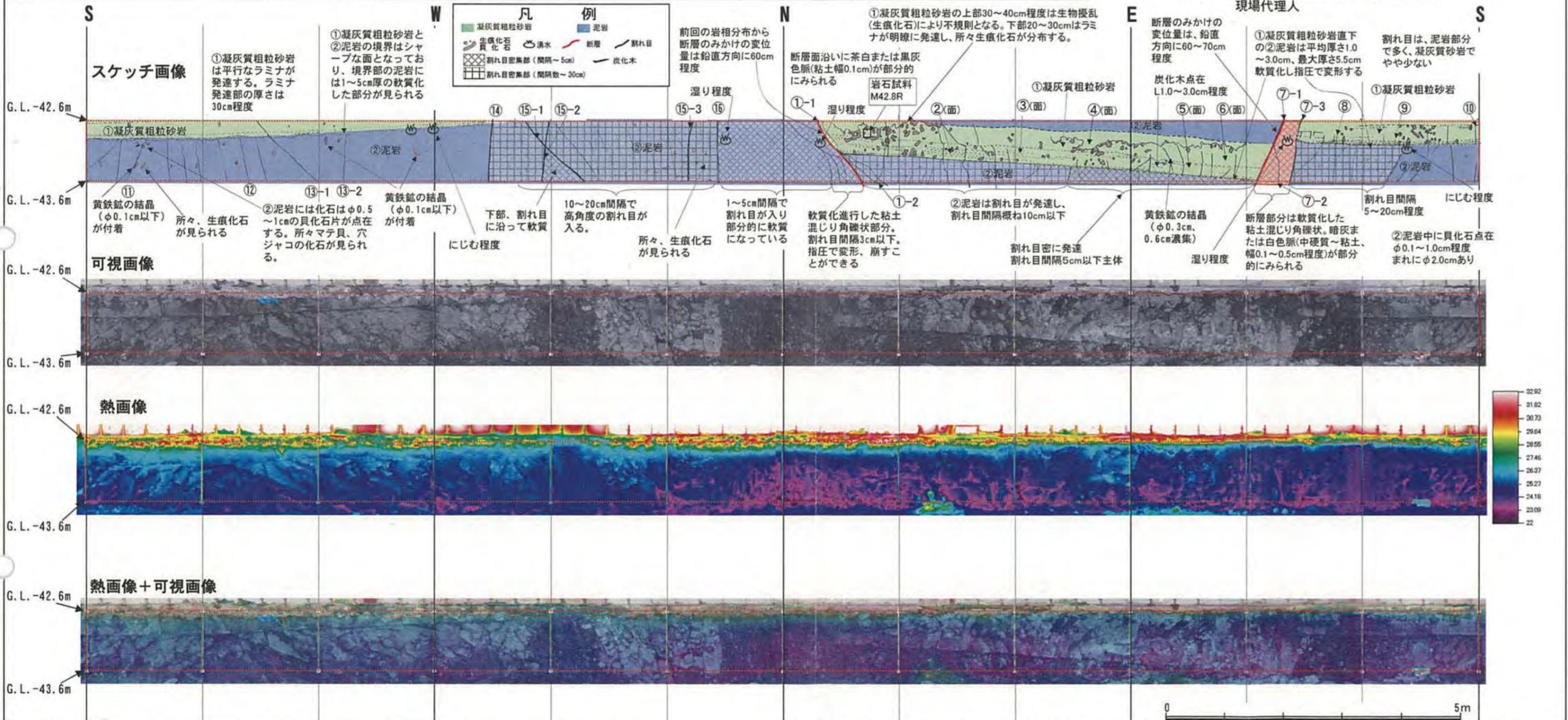
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-034

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	034	日時	2004/8/20 16:00	位置・深度	主立坑 G.L.-42.6m ~ G.L.-43.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩、泥岩	電研式岩級	CL	特記事項 岩種は泥岩、砂岩である。岩相は①凝灰質粗粒砂岩と②泥岩である。断層を境として、E側では②泥岩、①凝灰質粗粒砂岩、②泥岩の順で分布し、W側では①凝灰質粗粒砂岩、②泥岩の順で分布する。①凝灰質粗粒砂岩は層厚50~70cm程度で、上部の②泥岩と①凝灰質粗粒砂岩との境界は生物擾乱により不定型である。また、①凝灰質粗粒砂岩と下位の②泥岩との境界はシャープな面となっており、①泥岩の上端厚さ1~5cm程度は軟質化している。
岩相	①凝灰質粗粒砂岩(淡灰) ②泥岩(暗灰から黒灰)	RMR値	47	
風化	α	岩石試料番号	M42.8R	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	有(湿り、にじみ出し)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)	

採水試料なし

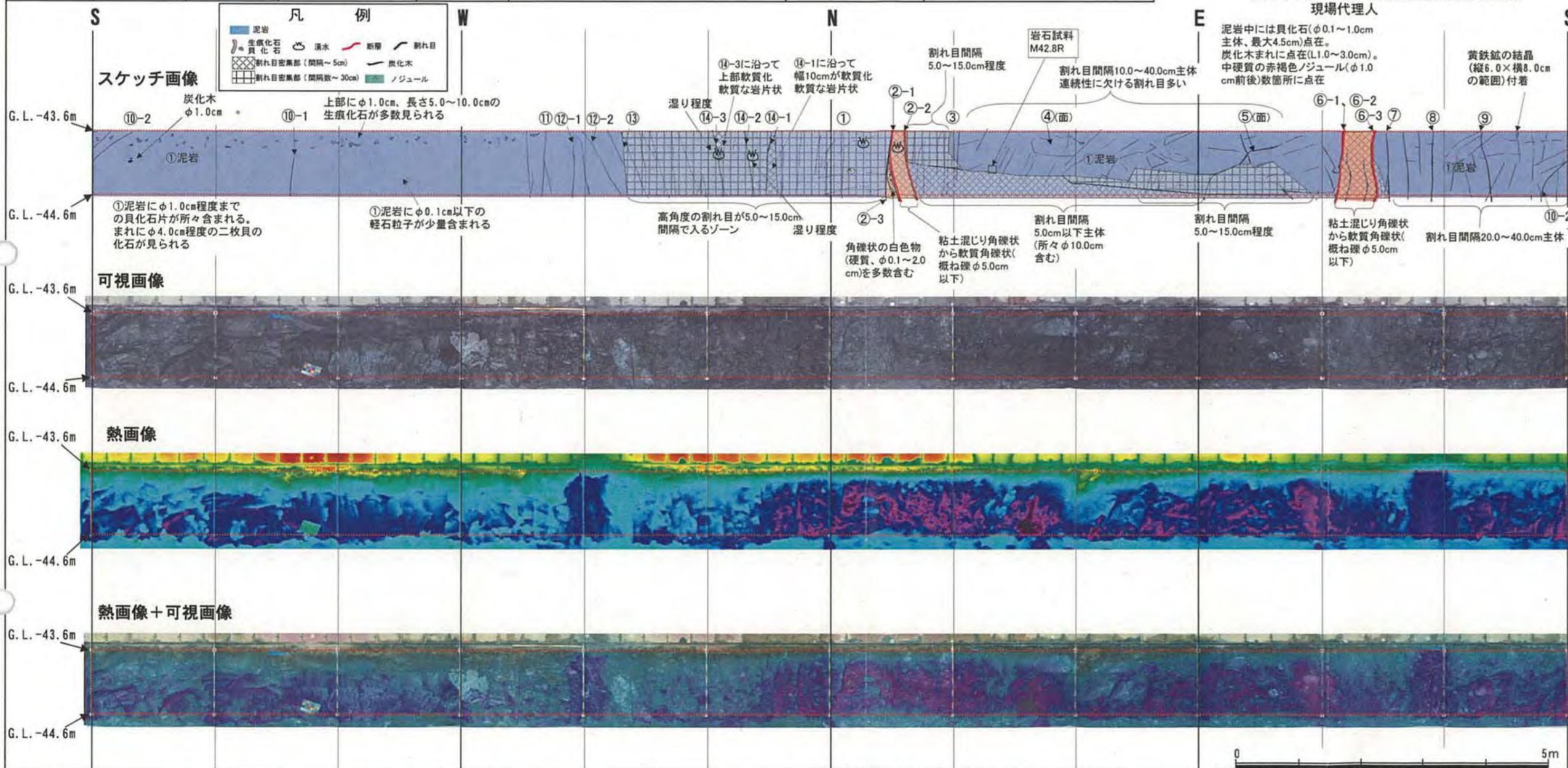
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-035

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	035	日時	2004/8/23 14:00	位置・深度	主立坑 G.L.-43.6m ~ G.L.-44.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



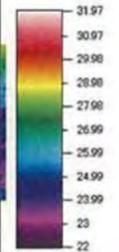
岩種	泥岩	電研式岩級	CL
岩相	①泥岩	RMR値	49
風化	α	岩石試料番号	M44.2R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(湿り)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)

特記事項

岩種は泥岩である。岩相は①泥岩である。W側では①泥岩の上部に生痕化石が多数確認される。また、泥岩中にはφ0.1cm未満の軽石粒子の混入が少量認められた。化石はφ0.1~1.0cmまでの貝化石片が少量点在し、まれにφ4.0cm前後の二枚貝の化石が認められる。またφ1.0~3.0cm程度の炭化木が少量含まれる。E側では茶褐色のφ10.0cm大のノジュールの他に、赤褐色φ1.0cm程度のノジュールが少量認められる。湧水は①~②-2、④-2、④-3において湿り程度で確認される。

割れ目の状況および上部区間との連続性などから、断層は②-1~②-2と⑥-1~⑥-3と判断される。両断層とも、断層部の岩盤は粘土混じり角礫から軟質角礫となる。②-1~②-3には角礫状の白色鉱物(硬質)が介在している。断層の変位は既存の観察結果から鉛直方向に60.0~80.0cm程度ずれた正断層(東側落ち)と推定される。⑬~⑭までは高角度な割れ目が5.0~15.0cm間隔で入るゾーンである。この区間では、割れ目⑭-1や⑭-3に沿って幅10.0cm程度が軟質化している。また、②-2~⑥-1まで下部は5.0cm以下の間隔で割れ目が発達するゾーンとなっている。

採水試料なし



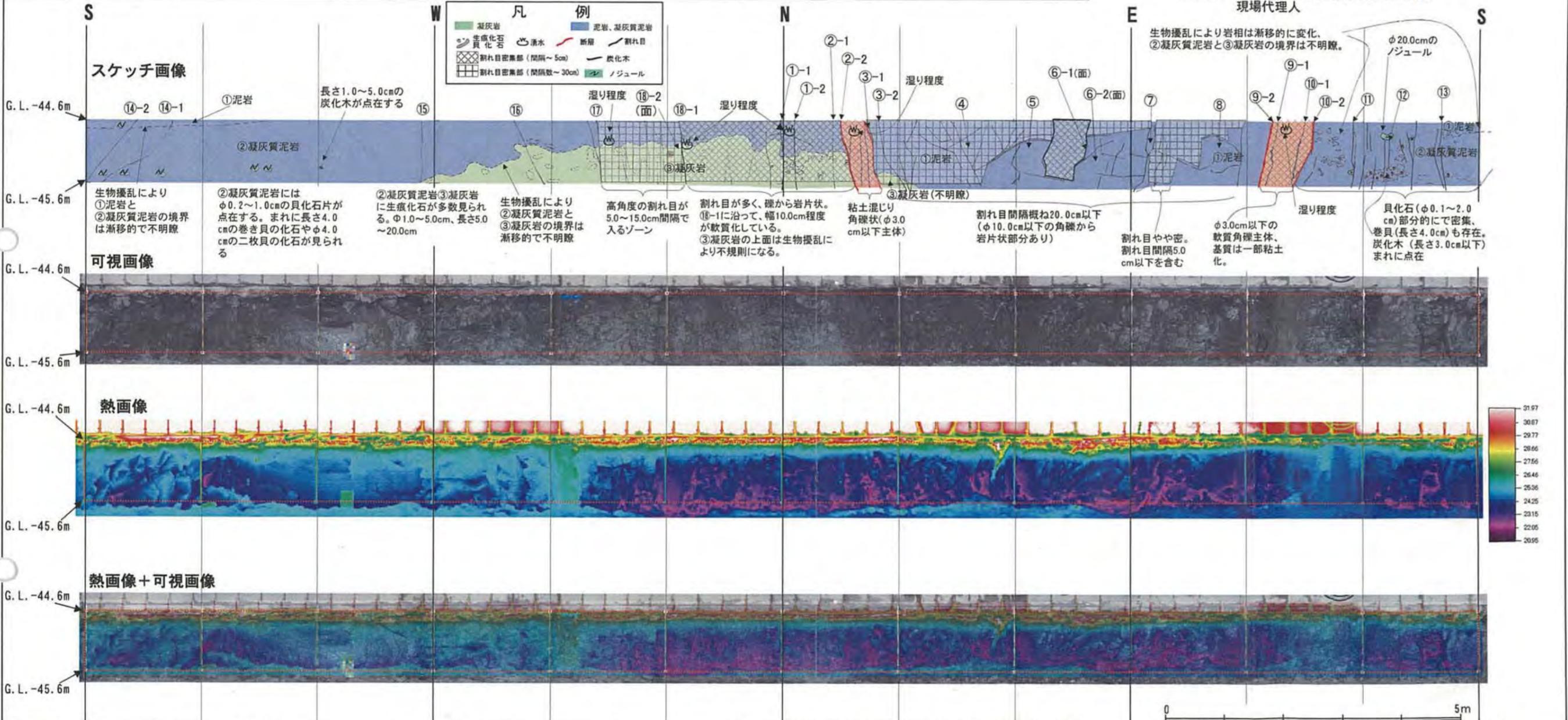
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-036

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	036	日時	2004/8/25 14:30	位置・深度	主立坑 G.L.-44.6m ~ G.L.-45.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩、凝灰岩	電研式岩級	CL	特記事項 岩種は泥岩と凝灰岩である。岩相は①泥岩②凝灰質泥岩③凝灰岩である。各岩相の境界は生物擾乱により不明瞭で、岩相は漸移的に変化している。化石はφ0.1~2.0cmまでの貝化石が少量点在し、まれにφ4.0cm前後の二枚貝の化石や長さ4.0cmの巻き貝の化石が認められる。また長さ1.0~5.0cm程度の炭化木が少量含まれる。他にφ5.0~20.0cm程度のノジュールが確認される。また、φ1.0~5.0cm、長さ5.0~20.0cmの生痕化石が多数認められるが、W側より顕著にみられる。湧水は⑩、⑪付近の軟質部において、湿り程度で確認される。	採水試料なし
岩相	①泥岩(暗灰から黒灰) ②凝灰質泥岩(暗灰から灰) ③凝灰岩(灰から淡灰)	RMR値	53		
風化	α	岩石試料番号	M45.3R		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	有(湿り)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)		

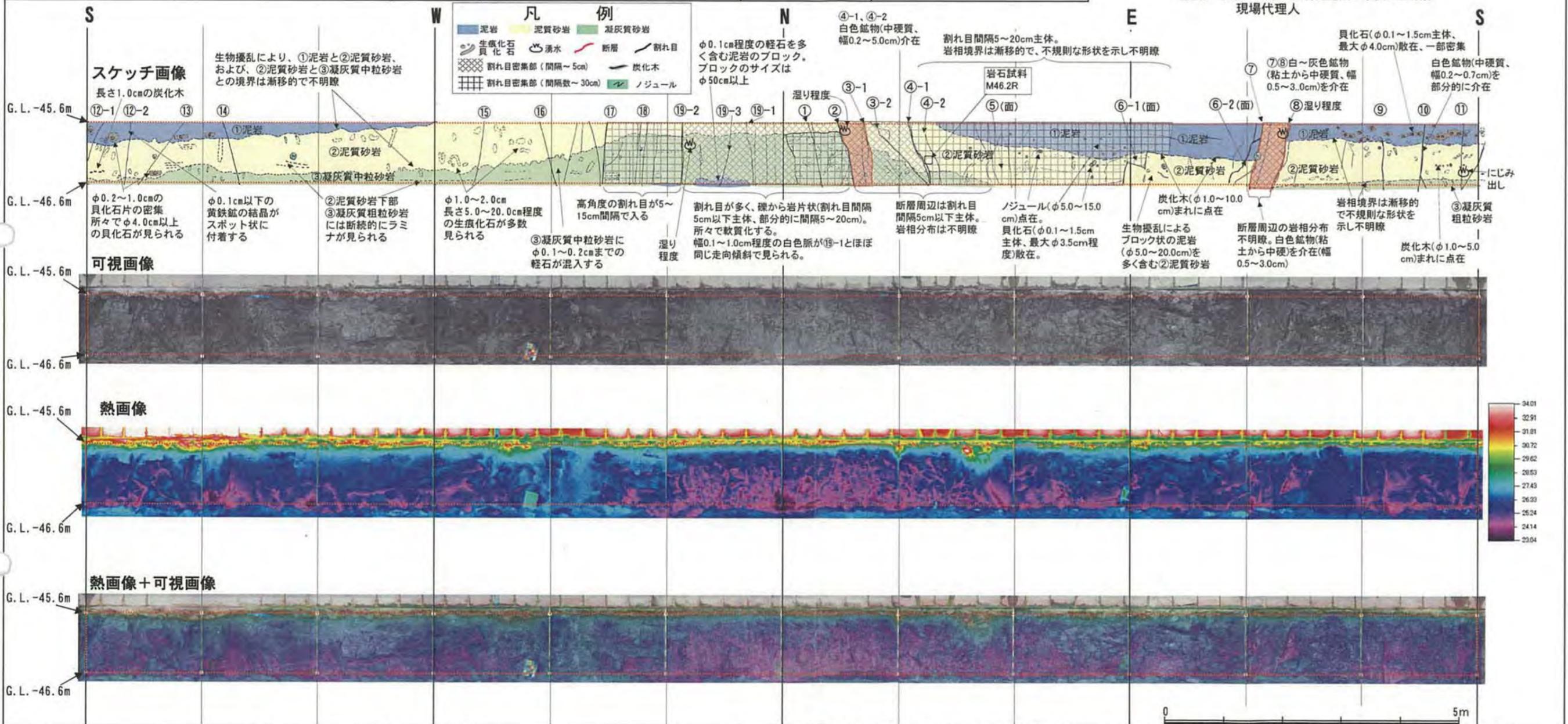
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-037

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	037	日時	2004/8/27 15:00	位置・深度	主立坑 G.L. -45.6m ~ G.L. -46.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩、砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 岩種は泥岩、砂岩、凝灰岩である。岩相は①泥岩②泥質砂岩③凝灰質中粒砂岩である。各岩相の境界は生物擾乱により不明瞭で、岩相は漸移的に変化する。②泥質砂岩下部、③凝灰質粗粒砂岩には断続的にラミナが見られる。N側の下部にはブロック状の泥岩が分布する。化石は主に泥岩中にφ0.1~1.5cm主体の貝化石片が散在、または密集して分布する。まれにφ4.0cm前後の二枚貝の化石が認められる。また長さ1.0~5.0cm主体、長さ10.0cm程度の炭化木が少量含まれる。また、φ1.0~5.0cm、長さ5.0~20.0cmの生痕化石が多数認められる。湧水は②、⑧、⑯-2付近の軟質部において湿り程度、⑪で滲み出しが確認される。
岩相	①泥岩(暗灰から黒灰) ②泥質砂岩(暗灰から灰) ③凝灰質中粒砂岩(灰から淡灰)	RMR値	46	
風化	α	岩石試料番号	M46.2R	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	有(湿り、にじみ出し)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)	

採水試料なし

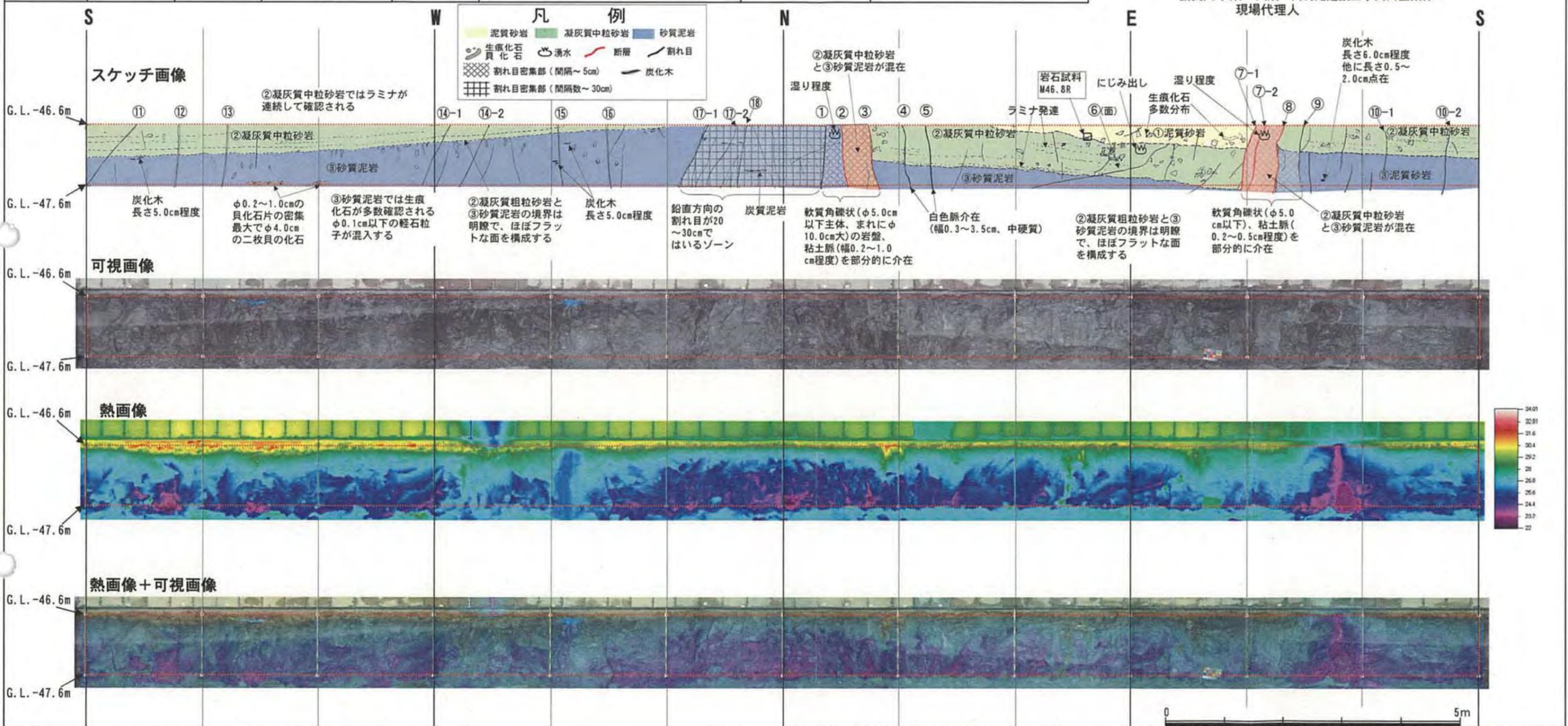
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-038

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	038	日時	2004/8/30 15:30	位置・深度	主立坑 G.L.-46.6m ~ G.L.-47.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩、泥岩	電研式岩級	CL	特記事項 岩種は砂岩、泥岩である。岩相は①泥質砂岩②凝灰質中粒砂岩③砂質泥岩となる。①泥質砂岩と②凝灰質中粒砂岩との岩相境界は漸移的で不規則な形状をなし不明瞭である。②凝灰質中粒砂岩と③砂質泥岩との岩相境界はほぼフラットで明瞭に境される。②凝灰質中粒砂岩の下部約30cm程度は連続性のよい平行なラミナが発達している。また、②砂質泥岩にはφ0.1cm以下の軽石粒子の混入が認められる。二化石は主に泥岩中にφ0.2~1.0cm主体、まれにφ5.0cm前後の二枚貝の貝化石片がSWで密集して分布している。SW以外では貝化石は点在する程度の分布である。
岩相	①泥質砂岩(灰から暗灰) ②凝灰質中粒砂岩(淡灰) ③砂質泥岩(暗灰)	RMR値	59	
風化	α	岩石試料番号	M46.8R	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	有(湿り、にじみ出し)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)	

他に長さ1.0~5.0cm主体、最長10.0cm程度の炭化木が分布する。他にφ1.0~5.0cm、長さ5.0~20.0cmの生痕化石が、①泥質砂岩、②凝灰質中粒砂岩の上部、③砂質泥岩中に多数認められる。岩相のせん断状況や上部区間との連続性などから、断層は②~③および⑦~⑧であると判断される。断層の変位は鉛直方向に70cm前後ずれた正断層(東側落ち)と推定される。断層部の岩盤はφ5.0cm以下の軟質角礫状岩盤を主体とし、せん断面や割れ目沿いに粘土から中硬質の脈(白、灰色)を介在する。湧水は①~②、⑦-2の軟質部において湿り程度、⑥付近でにじみ出しが確認される。

採水試料なし

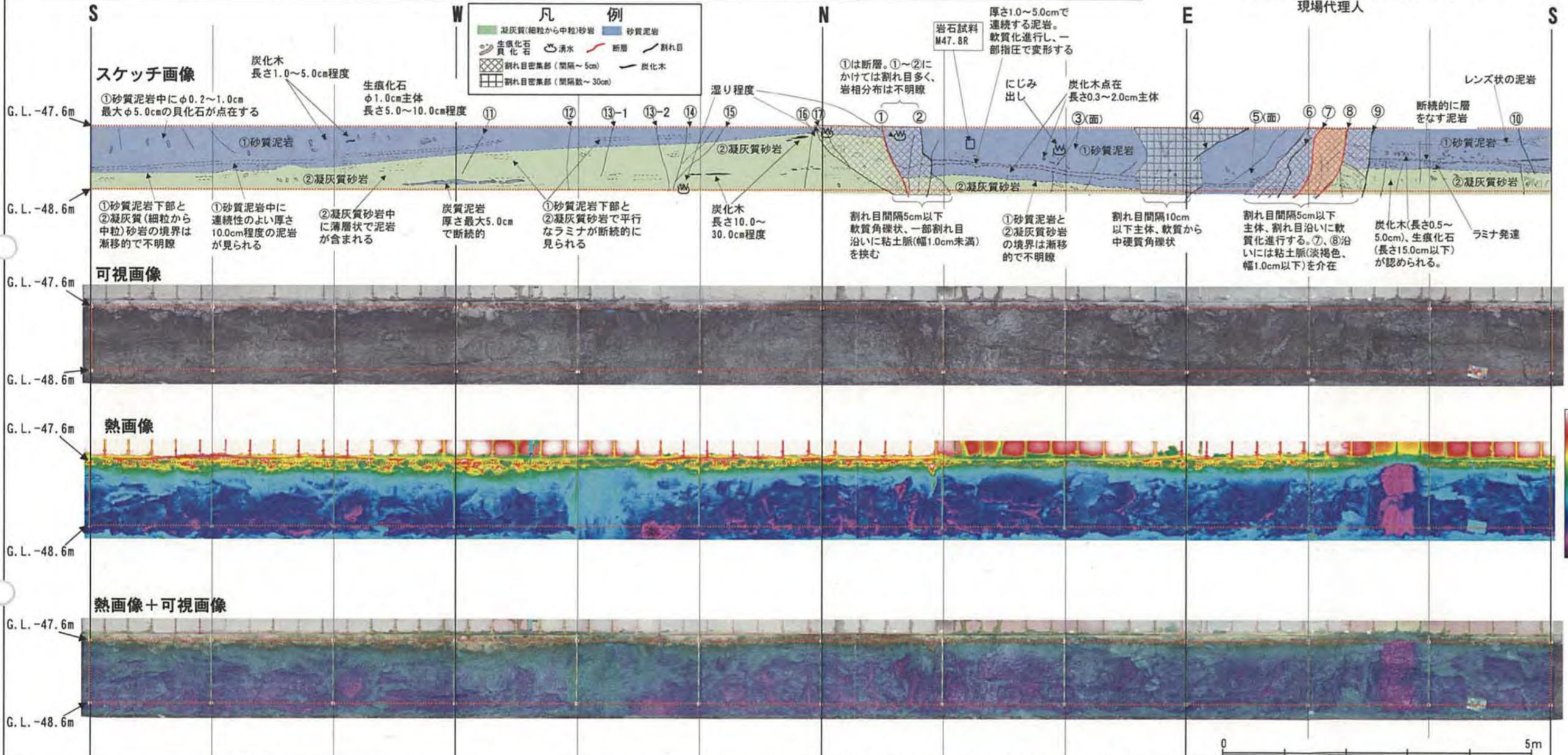
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-039

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	039	日時	2004/9/1 15:30	位置・深度	主立坑 G.L. -47.6m ~ G.L. -48.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩、砂岩	電研式岩級	CL
岩相	①砂質泥岩(暗灰) ②凝灰質(細粒から中粒)砂岩(淡灰)	RMR値	61
風化	α	岩石試料番号	M47.8R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し、湿り)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)

特記事項

岩種は泥岩、砂岩である。岩相は①砂質泥岩②凝灰質(細粒から中粒)砂岩である。①砂質泥岩と②凝灰質砂岩との岩相境界は漸移的で不明瞭である。①泥質砂岩中には連続性のよい厚さ1.0~10.0cm程度(一部断続)の泥岩が認められる。また、①砂質泥岩の下部と②凝灰質砂岩ではラミナが断続的に見られる。①砂質泥岩にはφ0.1cm以下の軽石の混入が認められる。化石は主に①砂質泥岩中にφ0.2~1.0cm主体、まれにφ5.0cm前後の二枚貝の貝化石片が点在する。また、①砂質泥岩では長さ0.3~5.0cm程度、②凝灰質砂岩では長さ最大30.0cm程度の炭化木が認められる。

他にφ1.0cm程度、長さ5.0~15.0cmの生痕化石が①砂質泥岩と②凝灰質砂岩に認められる。岩相のせん断状況や上部区間との連続性などから、断層は①および⑦~⑧であると判断される。断層の変位は鉛直方向に50~60cm程度ずれた正断層(東側落ち)と推定される。断層部の岩盤はφ5.0cm以下の軟質角礫状岩盤を主体とする。また、せん断面や割れ目沿いに軟質化が進み、粘土から中硬質の脈(白、淡褐、灰色)を介在する。湧水は①~②、④、⑥に沿って湿り程度、③付近においてにじみ出し程度で確認される。

採水試料なし

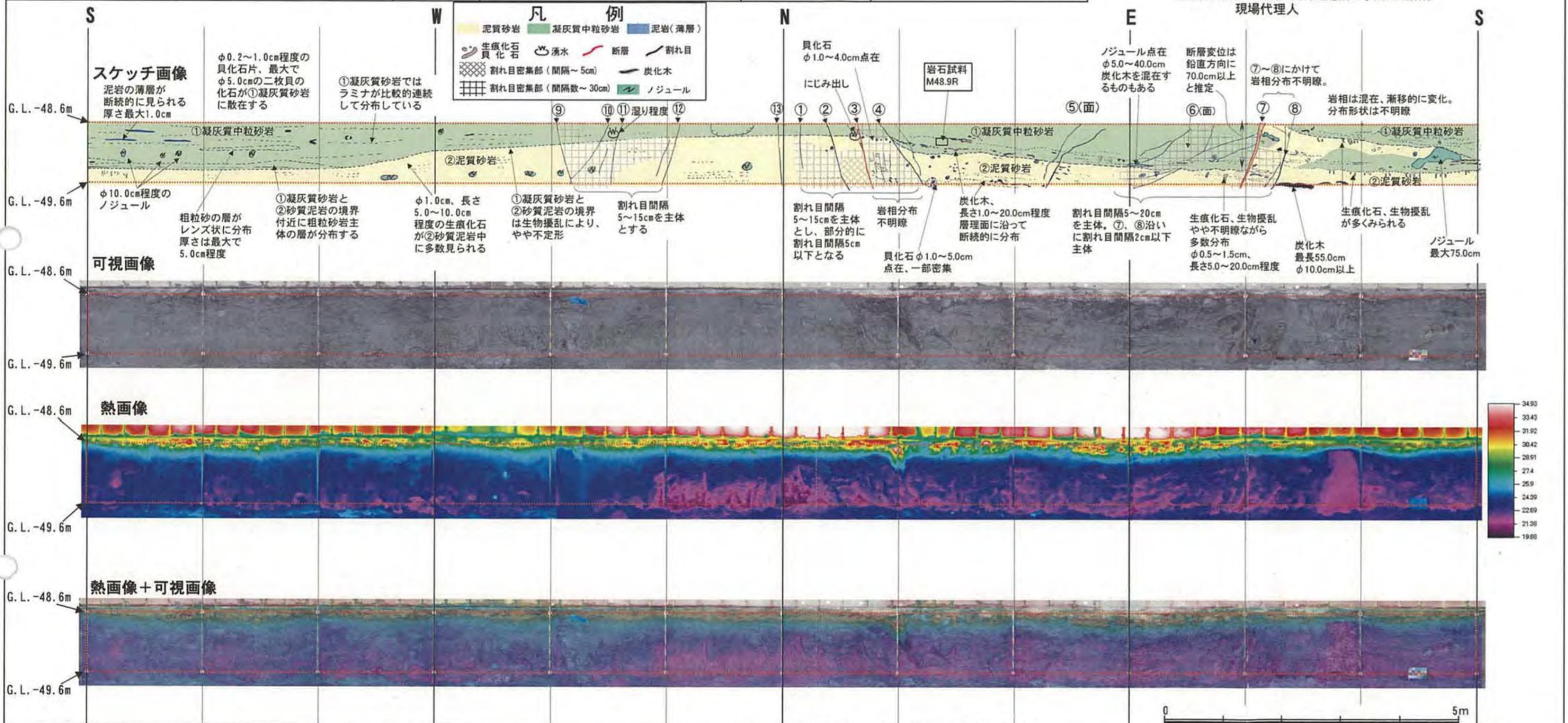
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-040

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	040	日時	2004/9/3 14:30	位置・深度	主立坑 G.L.-48.6m ~ G.L.-49.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-----------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL
岩相	①凝灰質中粒砂岩(淡灰から緑灰) ②泥質砂岩(暗灰から灰)	RMR値	59
風化	α	岩石試料番号	M48.9R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(湿り、にじみ出し)	化石	有(貝化石、生痕化石、炭化木)

特記事項

岩種は砂岩である。岩相は①凝灰質中粒砂岩、②泥質砂岩である。①凝灰質中粒砂岩と②泥質砂岩とは概ねフラットな岩相境界で境されるが、岩相自体は漸移的に変化し、混在状をなすこともあり、岩相境界が不明瞭な箇所もある。両岩ともに比較的よくラミナが発達している。②泥質砂岩にはφ0.1cm以下の軽石の混入が認められる。

貝化石はφ0.2~1.0cm主体の貝化石片、まれにφ5.0cm前後の二枚貝が点在する。炭化木は長さ1.0~20.0cm程度主体、最長75.0cm程度のものが認められる。生痕化石は②泥質砂岩上部にφ0.5~1.5cm、長さ5.0~20.0cm程度のもので多く認められる。

岩相のせん断状況や上部区間との連続性などから、断層は③および⑦であると判断される。ただし、岩相分布に不明瞭な部分があることから変位量を明確に判断できない。現状からの推定で鉛直方向に30~70cm程度ずれた正断層(東側落ち)と考えられる。断層部の岩盤はφ5.0cm以下の軟質角礫から中硬質岩片状となる。せん断面沿いには粘土から中硬質の脈(白、淡褐、灰色)を介在する。湧水は③付近で湿り程度、③付近においてにじみ出し程度で確認される。

採水試料なし

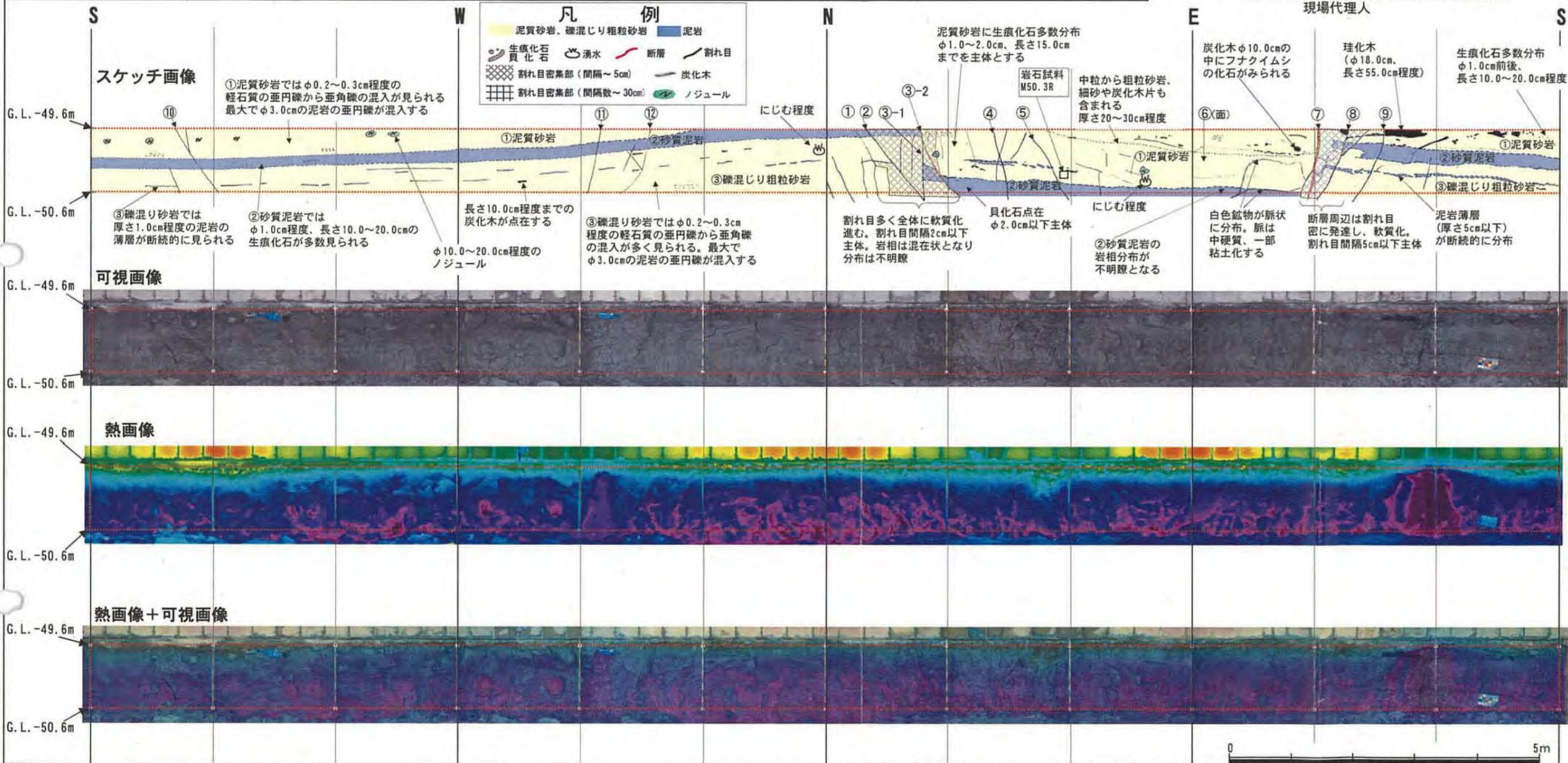
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-041

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	041	日時	2004/9/6 15:00	位置・深度	主立坑 G.L. -49.6m ~ G.L. -50.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩、泥岩	電研式岩級	CL
岩相	①泥質砂岩 (暗灰から灰)、②砂質泥岩 (暗灰) ③礫混じり粗粒砂岩 (灰)	RMR値	59
風化	α	岩石試料番号	M50.3R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有 (にじみ出し)	化石	有 (生痕化石、炭化木、貝化石)

特記事項

岩種は砂岩と泥岩である。岩相は①泥質砂岩、②砂質泥岩、③礫混じり粗粒砂岩である。各岩相は漸移的に変化し、境界はやや不明瞭である。

①泥質砂岩にはE付近上部に中粒から粗粒砂岩部分を挟む。また、軽石質、泥岩の垂円礫から垂角礫の混入が見られる。③礫混じり粗粒砂岩ではφ0.2~0.3cmの垂円礫から垂角礫が多数混入し、最大でφ3.0cmの泥岩の垂円礫が認められる。礫種は白色または緑灰色の軽石、黒灰色の硬質な泥岩、同じく黒灰色で軟質な凝灰質泥岩である。長さ10.0~20.0cm程度、最長75.0cm程度の炭化木が認められる。炭化木の他に珪化木も見られた。

生痕化石はφ0.5~1.5cm、長さ10.0~20.0cm程度のものが多く認められる。貝化石はわずかに点在する程度でφ2.0cm以下主体となる。岩相のせん断状況や上部区間との連続性などから、断層は③-2および⑦であると判断される。岩相分布にやや不明瞭な箇所があるものの、鉛直方向に60~80cm程度程度ずれた正断層(東側落ち)と考えられる。断層部の岩盤はφ5.0cm以下の軟質角礫状を主体とする。せん断面沿いには粘土から中硬質の脈(白、灰色)を介在する。湧水は⑩付近で湿り程度、NおよびE付近においてにじみ出し程度で確認される。

採水試料なし

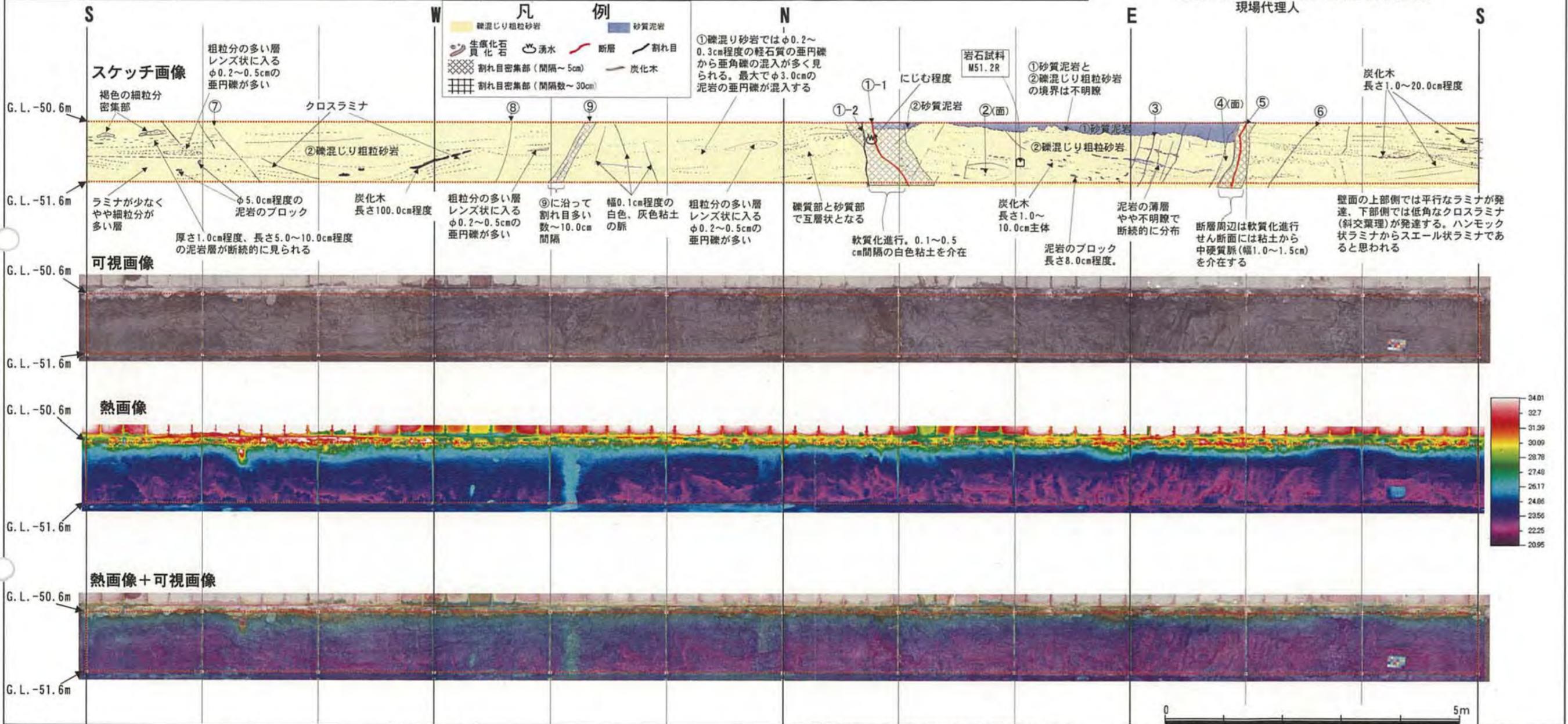
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-042

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	042	日時	2004/9/8 15:30	位置・深度	主立坑 G.L. -50.6m ~ G.L. -51.6m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩、砂岩	電研式岩級	CL
岩相	①砂質泥岩(暗灰) ②礫混じり粗粒砂岩(灰)	RMR値	60
風化	α	岩石試料番号	M51.2R
変質	1	採水試料番号	無
湧水	有(にじみ出し)	化石	有(炭化木)

特記事項

岩種は泥岩と砂岩である。岩相は①砂質泥岩、②礫混じり粗粒砂岩である。①砂質泥岩はやや不明瞭なもの、壁面上部N~ENEにかけて分布している。②礫混じり粗粒砂岩は、部分的にラミナの不明瞭な箇所のみみられるもの、概ね壁面上部側は平行なラミナ、下部側は低角のクロスラミナが発達し、上部の平行なラミナに切られており、ハンモック状からスエール状のラミナであると考えられる。ラミナは中粒から粗粒の砂質部、礫質部、一部泥岩の薄層などが互層状をなしており、なかには厚さ最大10.0cm程度の粗粒分主体のレンズ状(長さ100~300cm程度)の分布が確認される。①礫混じり粗粒砂岩では軽石質、泥岩の垂円礫から垂角礫が多数混入し、最大でφ3.0cmの泥岩の垂円礫が認められる。

岩種は白色または緑灰色の軽石、黒灰色の硬質な泥岩、同じく黒灰色で軟質な凝灰質泥岩である。化石は、長さ10.0~20.0cm主体、最長100.0cm程度の炭化木が認められる。岩相のせん断状況や上部区間との連続性などから、断層は①-1および⑤であると判断される。比較できる明確な岩相分布がみられないため詳細な変位量は不明であるが、これまでの状況から鉛直方向に60~80cm程度程度ずれた正断層(東側落ち)と推測される。断層部の岩盤は軟質化が進行し、φ10cm以下の軟質角礫状を主体とし、一部軟質砂状となる。せん断面沿いには粘土から中硬質の脈(白、灰色)を介在する。湧水は①-1~①-2付近においてにじみ出し程度で確認される。

採水試料
なし

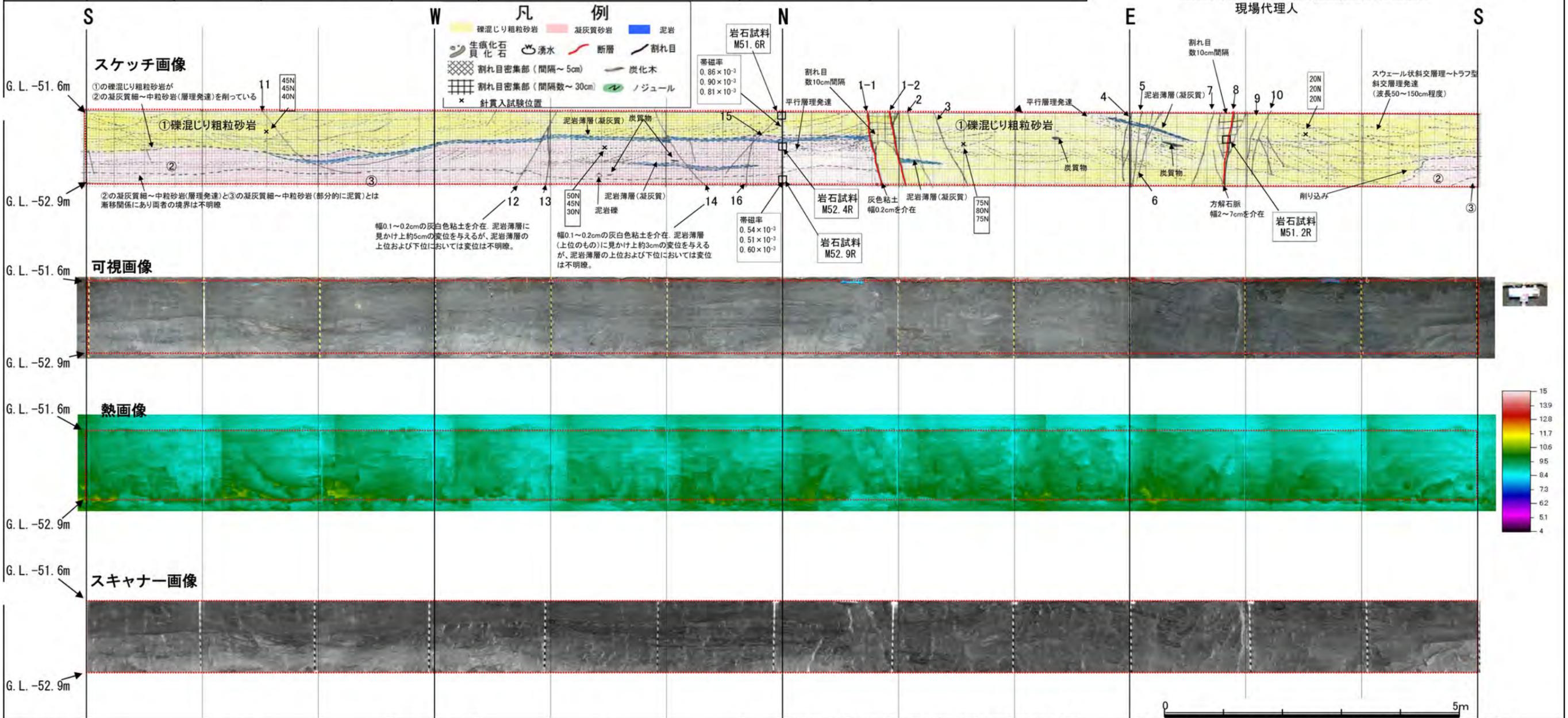
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-043

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	043	日時	2005/2/25 7:00	位置・深度	主立坑 G.L. -51.6m ~ G.L. -52.9m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------	-------	-------------------------------	--------	--

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 岩種は、上位より①礫混じり粗粒砂岩、②凝灰質細~中粒砂岩(層理発達)、③凝灰質細~中粒砂岩(部分的に泥質)である。①と②の境界は明瞭であり、①が②を削削しているなど不連続な箇所が観察される。②と③は漸移関係にあり、両者の境界は不明瞭である。 ①の礫混じり粗粒砂岩は最大2cm、平均2~3mmの暗灰色または緑灰色泥岩の垂円礫を多く含み、波長50~150cm程度のスウェール状斜交層理~トラフ型斜交層理が発達する。②の凝灰質細~中粒砂岩(層理発達)は、最上部に凝灰質の泥岩薄層(厚さ10cm程度)を有し、平行層理および斜交層理が発達する。最大1cm、平均2~3mmの軽石、1~10cm程度の泥岩礫を含む。③の凝灰質細~中粒砂岩(一部泥質)は、塊状層理である。
岩相	①礫混じり粗粒砂岩(灰色~緑灰色) ②凝灰質細粒~中粒砂岩(層理発達)(灰色) ③凝灰質細~中粒砂岩(部分的に泥質)(灰色~明灰色)	RMR値	58	
風化	α	岩石試料番号	M51.6R(礫混じり粗粒砂岩)・M52.4R(凝灰質中粒砂岩)・M52.9R(凝灰質細粒砂岩)・M52.1(断層充填物)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	無	化石	無	

断層は1-1、1-2および8であり、幅0.2cm程度の灰白色粘土及び幅2~7cm程度の方解石脈が介在している。①礫混じり粗粒砂岩と②凝灰質細~中粒砂岩との岩相境界を基準とすると、見かけの鉛直変位量は90cm以上である。

採水試料 無

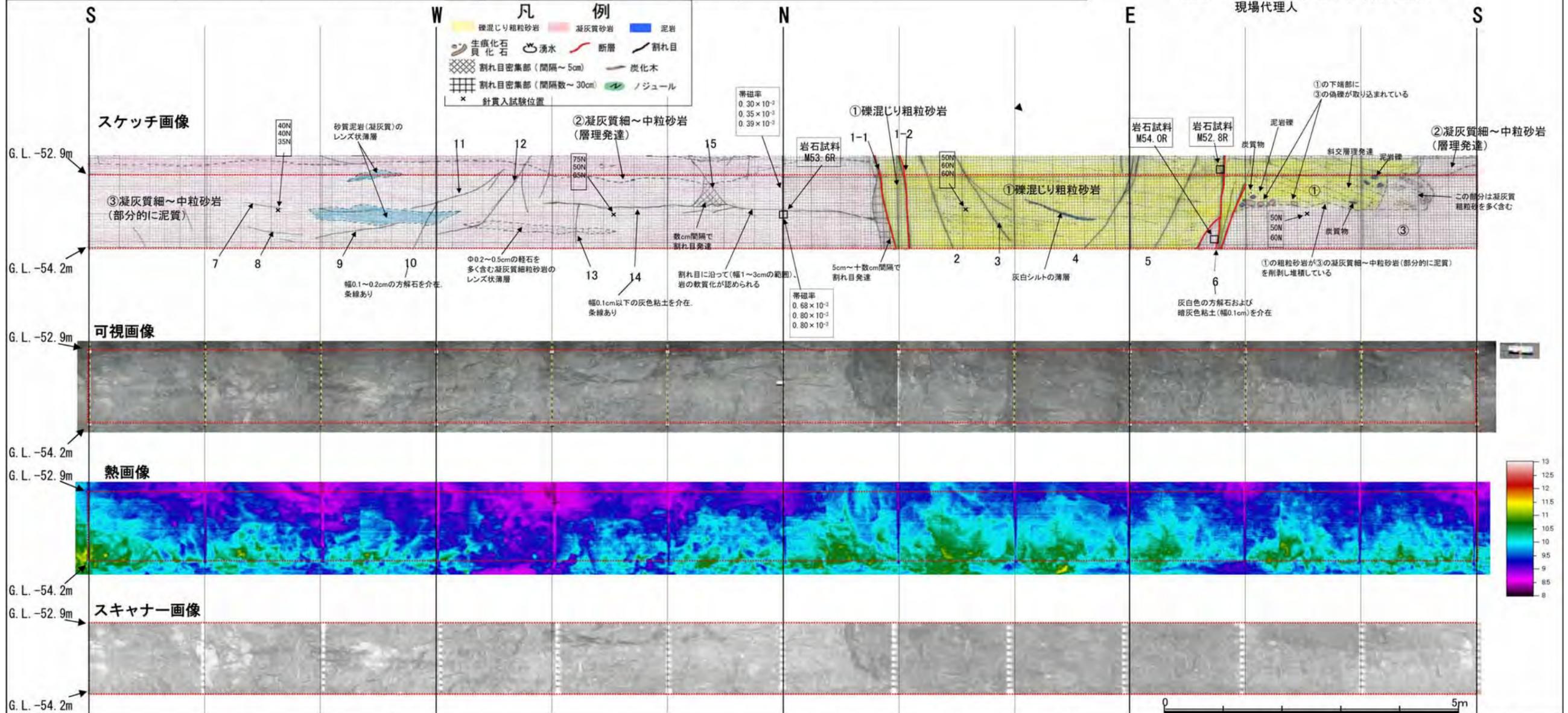
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-044

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

シート番号	044	日時	2005/3/2 7:00	位置・深度	主立坑 G.L. -52.9m ~ G.L. -54.2m	観察・撮影者	
-------	-----	----	------------------	-------	-------------------------------	--------	--



岩種	砂岩	電研式岩級	CL	特記事項 岩種は、①礫混じり粗粒砂岩、②凝灰質細～中粒砂岩(層理発達)および③凝灰質細～中粒砂岩(部分的に泥質)である。①と③の境界は明瞭であり、①が③を削刺しているなど不連続な箇所が観察される。①の礫混じり粗粒砂岩は最大2cm、平均2～3mmの暗灰色または緑灰色泥岩の垂直礫を多く含み、平行層理が認められる。②の凝灰質細～中粒砂岩(層理発達)には平行層理が認められ、最大1cm、平均2～3mmの軽石を含む。③の凝灰質細～中粒砂岩(一部泥質)は塊状無層理であるが、岩相変化が大きく泥質部を混在する。また、泥岩(凝灰質)のレンズ状薄層、軽石を多く含む凝灰質細粒砂岩のレンズ状薄層を含む。 断層は1-1、1-2および6であり、1-1は割れ目密集部を伴い、6は灰白色の方解石および暗灰色粘土(幅0.1cm)を介在している。割れ目14沿いの一部では、幅1～3cmの範囲で岩の軟質化が認められる。
岩相	①礫混じり粗粒砂岩(灰色～緑灰色) ②凝灰質細～中粒砂岩(層理発達)(灰色) ③凝灰質細～中粒砂岩(部分的に泥質)(灰色)	RMR値	55	
風化	α	岩石試料番号	M53-6R(凝灰質中粒砂岩)・M52-8R(礫混じり粗粒凝灰岩)・M54-0R(凝灰質細粒砂岩)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	無	化石	無	

採水試料なし

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-045

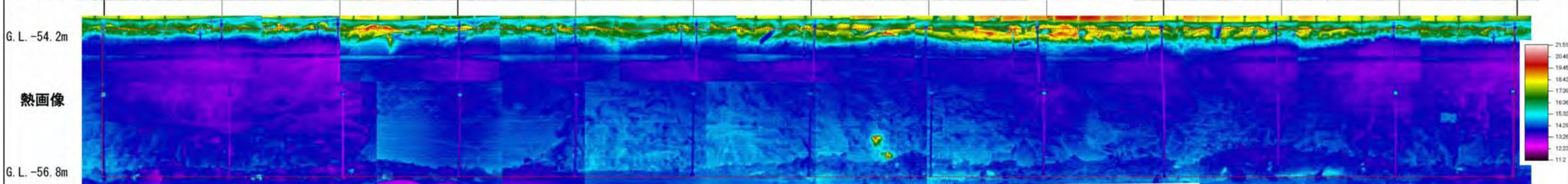
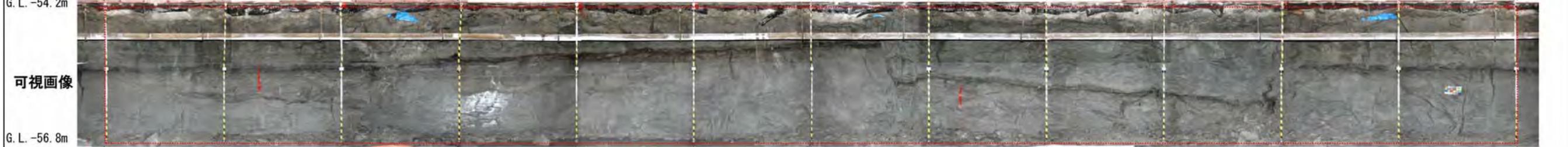
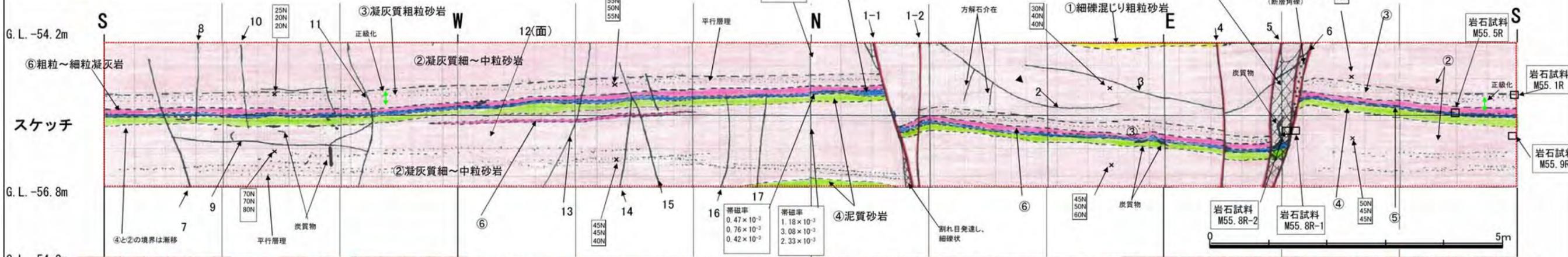
シート番号	045	日時	2005/3/16 16:00~21:00	位置・深度	STEP045, 046 G.L. -54.2 m ~ G.L. -56.8 m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

凡例

泥岩	泥質砂岩	細礫混じり粗粒砂岩	凝灰質砂岩	凝灰岩
生成化石	貝化石	湧水	断層	割れ目
割れ目密集部(間隔~5cm)	割れ目密集部(間隔数~30cm)	断層ガウジ	植物片・炭質物	岩相境界線
断層角礫	ノジュール	葉理		

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩・泥岩・凝灰岩	電研式岩級	G.L. -54.2m~-55.5m CL G.L. -55.5m~-56.8m CL
岩相	①細礫混じり粗粒砂岩(灰色) ②凝灰質細粒~中粒砂岩(灰色) ③凝灰質粗粒砂岩(灰色) ④泥質砂岩(灰色~暗灰色) ⑤泥岩(暗灰色) ⑥粗粒~細粒凝灰岩(暗灰色~明灰色)	RMR値	G.L. -54.2m~-55.5m 56 G.L. -55.5m~-56.8m 56
風化	α	岩石試料番号	M55. 1R(凝灰質中粒砂岩)・M55. 5R(泥質砂岩および泥岩)・M55. 9R(凝灰質中粒砂岩)・M55. 8R-1(断層6下盤側方位試料)・M55. 8R-2(断層6上盤側の断層角礫)
変質	1	採水試料番号	無
湧水	無	化石	無

特記事項

岩種は、①細礫混じり粗粒砂岩、②凝灰質細~中粒砂岩、③凝灰質粗粒砂岩、④泥質砂岩、⑤泥岩、⑥粗粒~細粒凝灰岩である。

①細礫混じり粗粒砂岩は最大2cm、平均2~3mmの暗灰色泥岩の垂直礫を多く含む。②凝灰質細粒~中粒砂岩および③凝灰質粗粒砂岩は、平行層理が認められ、最大1cm、平均2~3mmの軽石を含む。また、③には層厚約20cmの範囲で正級化が認められる。⑤泥岩およびその下位に分布する④泥質砂岩には、炭質物が多く認められる。⑥粗粒凝灰岩は少量の軽石(径2~5mm)を含む。

断層は1-1、1-2および4、5、6であり、見かけの鉛直変位量は約90cmである。1-1は幅0.1~0.5cmの灰色粘土を介し、6は幅約10cmの断層角礫帯を伴う。また、5と6にはさまれた部分は岩の軟質化が認められる。

割れ目2沿いの一部では、幅1~2cmの範囲で岩が細礫状を呈する。割れ目7、11および12は条線・鏡肌、割れ目13、16および17は鏡肌を伴う。

採水試料なし

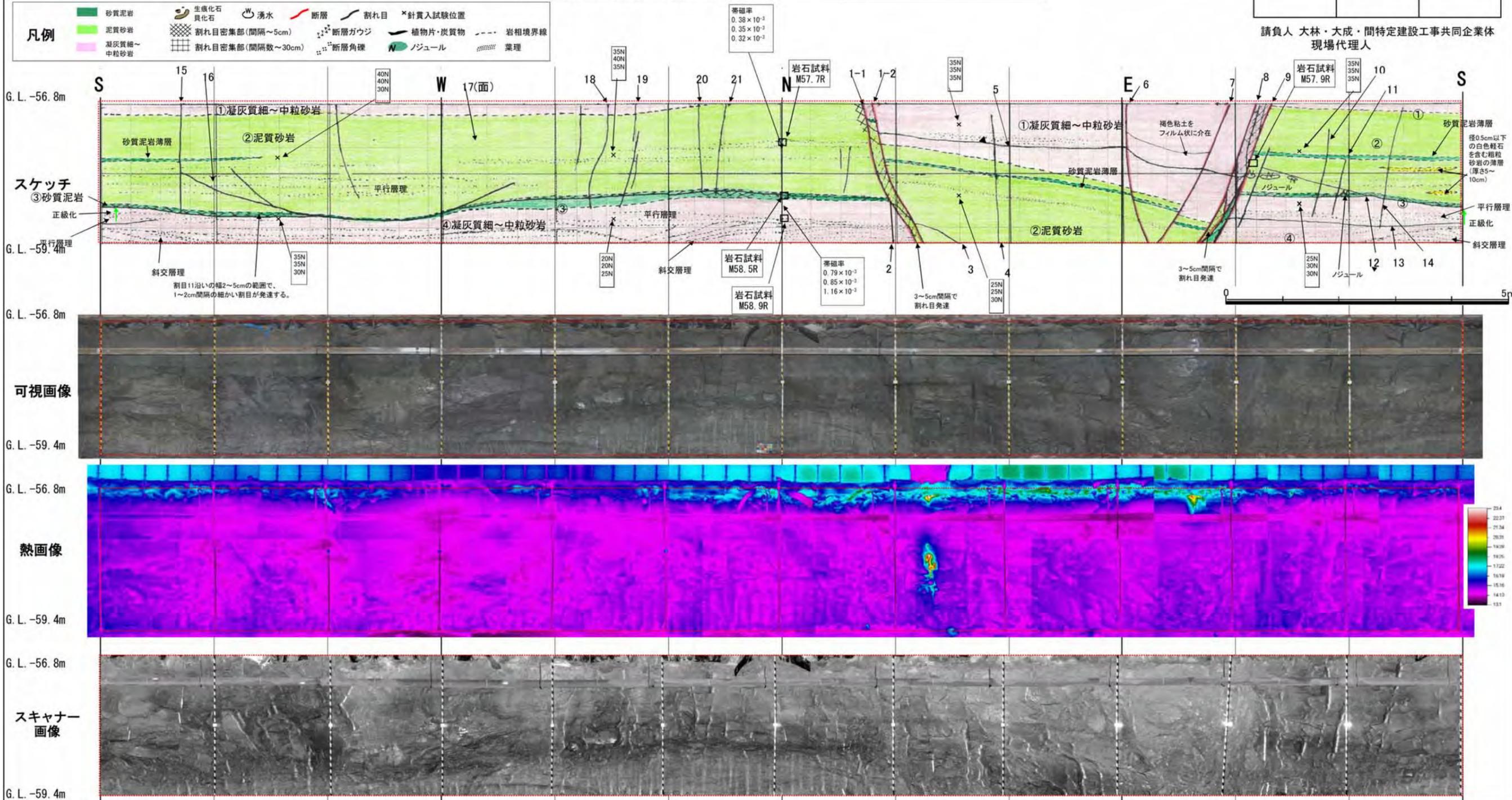
A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-046

シート番号	046	日時	2005/3/22 13:00~17:00	位置・深度	STEP047, 048 G.L. -56.8 m~G.L. -59.4 m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩・泥岩・凝灰質砂岩	電研式岩級	G.L. -56.8m~-58.1m CL G.L. -58.1m~-59.4m CL	特記事項 岩種は、①凝灰質細粒～中粒砂岩、②泥質砂岩(凝灰質)、③砂質泥岩、④凝灰質細粒～中粒砂岩である。 ①の凝灰質細粒～中粒砂岩は平行層理が認められ、平均0.2~0.3cmの軽石を含む。 ②の泥質砂岩(凝灰質)には平行層理が認められ、径0.5cm以下の軽石を含む粗粒砂岩の薄層を部分的に挟む。 ④凝灰質細～中粒砂岩は、下部で斜交層理、上部で平行層理が発達する。平行層理発達部では上方細粒化が認められる。 断層は1-1、1-2、6、7、8および9であり、1-1と1-2に挟まれた部分、8と9に挟まれた部分は、間隔3~5cmで割れ目が発達している。これらの割れ目は、断層の走向よりやや東側の走向を示し、上から見て断層面に対して10~30度で交差するものがある。③砂質泥岩沿いに発達する低角割れ目12は、厚さ0.1~0.2cmの灰色～明灰色粘土を介在し、また、割れ目沿いの幅2~5cmの範囲で、1~2cm間隔の細かい割れ目が発達する。割れ目16は灰白色の方解石(幅0.1cm)を介在している。割れ目20、21は厚さ0.1cmの灰色粘土を介在する。
岩相	①凝灰質細粒～中粒砂岩(灰色) ②泥質砂岩(凝灰質)(灰色～暗灰色) ③砂質泥岩(暗灰色) ④凝灰質細粒～中粒砂岩(灰色)	RMR値	G.L. -56.8m~-58.1m 57 G.L. -58.1m~-59.4m 57	
風化	α	岩石試料番号	M57.7R(泥質砂岩)・M58.5R(砂質泥岩)・M58.9R(凝灰質中粒砂岩)・M57.9R(断層下盤側の定方位試料)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	無	化石	無	

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-047

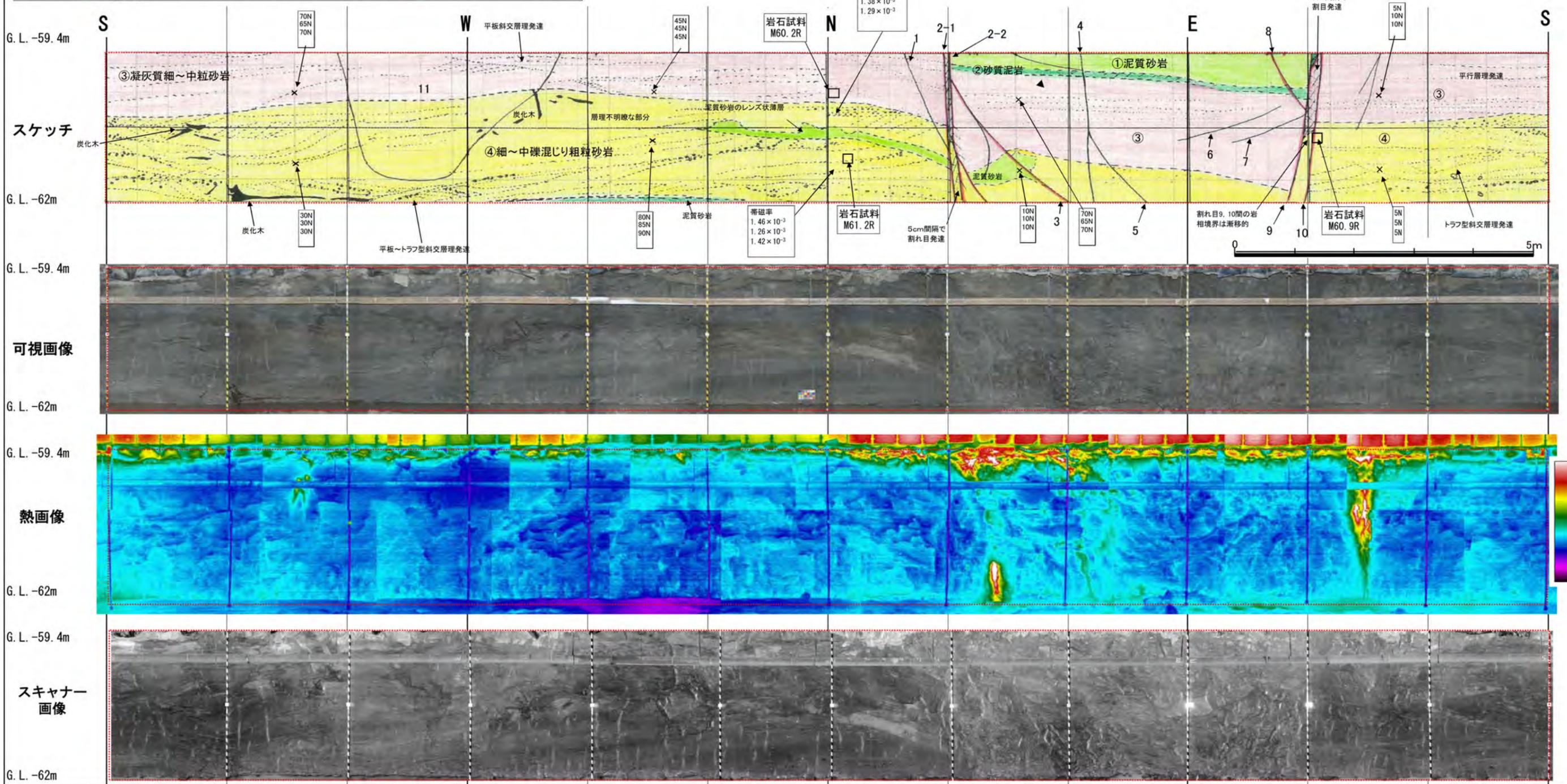
シート番号	047	日時	2005/3/26 8:00~11:30	位置・深度	STEP049,050 G.L. -59.4m~G.L. -62.0m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

凡例

砂質泥岩	生痕化石	湧水	断層	割れ目	*針貫入試験位置
泥質砂岩	貝化石				
細~中礫混じり粗粒砂岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	断層ガウジ	植物片・炭質物	岩相境界線	
粗粒砂岩	割れ目密集部(間隔数~30cm)	断層角礫	ノジュール	葉理	
凝灰質砂岩					

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



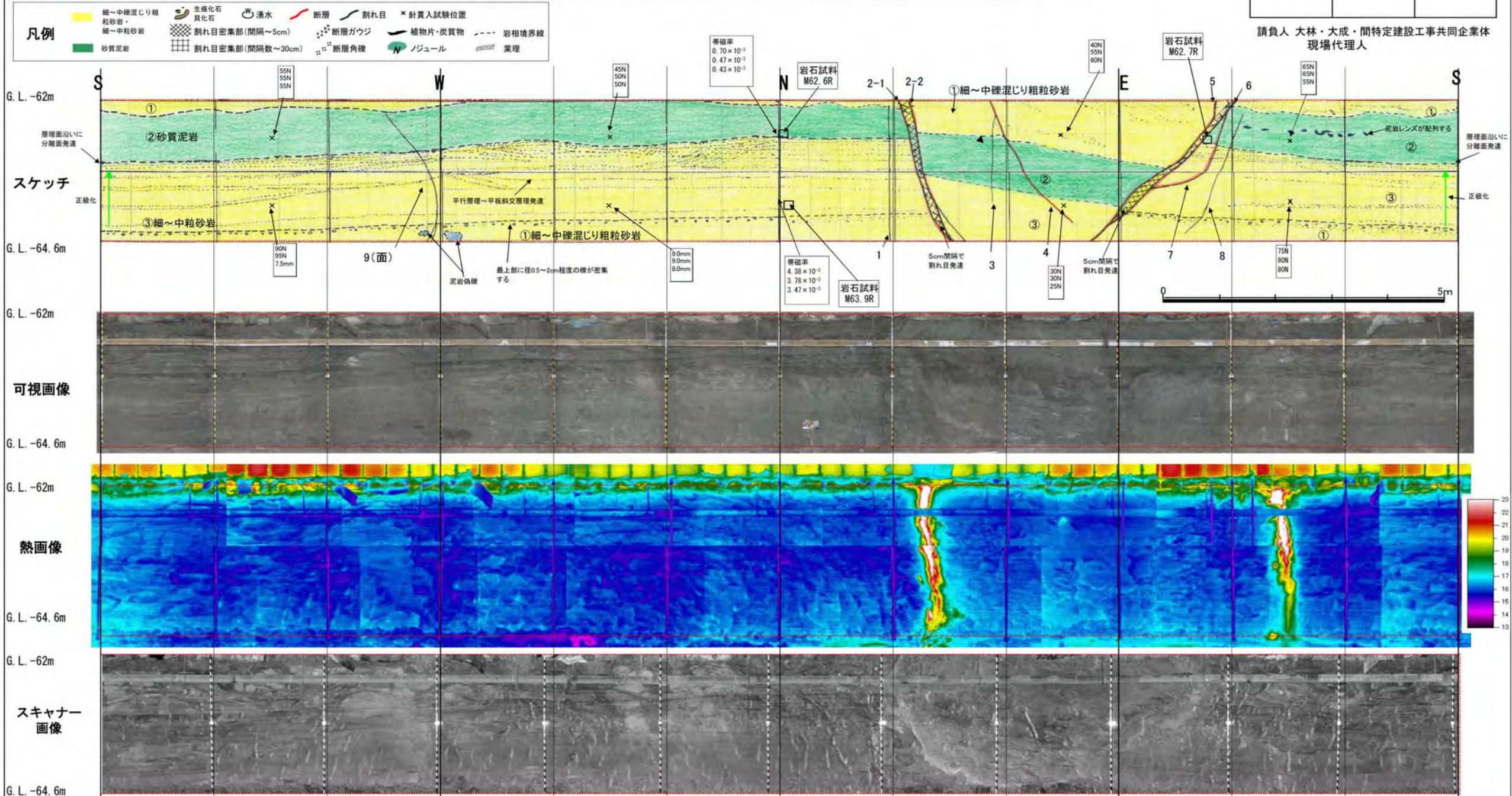
岩種	砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -59.4m~-60.7m CL	<p>特記事項</p> <p>岩種は、①泥質砂岩、②砂質泥岩、③凝灰質細~中粒砂岩、④礫混じり粗粒砂岩である。</p> <p>③凝灰質細~中粒砂岩は、平行層理および平板斜交層理が発達し、少量の礫(径2~4mm)を含む。④礫混じり粗粒砂岩は淘汰が悪く、シルト分を多く含む。全体に平板~トラフ型斜交層理(波長50~200cm)が発達するが、西側壁面では、堆積構造が不明瞭で炭化木が多く含まれる部分が認められる。また、南西壁面最下部には縦30~3cm、長さ200cm程度の炭化木が認められる。含まれる礫は濃飛流紋岩、チャート、泥岩、砂岩が主である。濃飛流紋岩、チャート礫は径1~3cm程度の亜角礫であり、泥岩および砂岩礫は径3~10cm程度の垂円~円礫である。大略の礫構成比は、泥岩・砂岩：濃飛流紋岩：チャート=4：5：1。</p> <p>断層は2-1、2-2および8、9、10であり、2-1は上盤(断層右側)に幅5~10cm程度の断層角礫帯を伴い、2-1と2-2に挟まれた部分は割れ目が5cm程度の間隔で発達する。また、2-1、2-2ともに灰色粘土0.5cmを介在する。9と10に挟まれた部分の一部では5cm程度の間隔で割れ目が発達しており、10は条線を伴い、灰色粘土(幅0.3cm)を介在している。</p> <p>割れ目11は条線および鏡肌を伴う。</p>	採水試料なし
岩相	①泥質砂岩(灰色) ②砂質泥岩(暗灰色) ③凝灰質細~中粒砂岩(灰色~暗灰色) ④細~中礫混じり粗粒砂岩(灰色~暗灰色)	RMR値	G.L. -59.4m~-60.7m 63 G.L. -60.7m~-62m 63		
風化	α	岩石試料番号	M60.2R(凝灰質中粒砂岩) M61.2R(細~中礫混じり粗粒砂岩) M60.9R(細~中礫混じり粗粒砂岩・断層10の下盤側方位試料)		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	無	化石	有 炭化木(レベル1)		

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-048

総括監督員	主任監督員	監督員

シート番号	048	日時	2005/3/30~3/31 21:00~0:30	位置・深度	STEP051,052 G.L. -62.0 m~G.L. -64.6 m	観察・撮影者	
-------	-----	----	------------------------------	-------	--	--------	--



岩種	砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -62m~-63.3m CL G.L. -63.3m~-64.6m CL
岩相	① 細~中礫混じり粗粒砂岩 (灰色~暗灰色) ② 砂質泥岩 (暗灰色) ③ 細~中粒砂岩 (灰色~暗灰色)	RMR値	G.L. -62m~-63.3m 64 G.L. -63.3m~-64.6m 64
風化	α	岩石試料番号	M62.6R (砂質泥岩) M63.9R (中粒砂岩) M62.7R (砂質泥岩・断層6の下盤側 定方位試料)
変質	1	採水試料番号	無
湧水	無	化石	無

特記事項

岩種は、① 細~中礫混じり粗粒砂岩、② 砂質泥岩、③ 細~中粒砂岩である。
 スケッチ範囲上部に分布する① 細~中礫混じり粗粒砂岩は淘汰が悪く、シルト分を多く含む。③ 細~中粒砂岩は、平行層理および平板斜交層理が発達し、中粒砂から細粒砂へと正級化している。スケッチ範囲下部に分布する① 細~中礫混じり粗粒砂岩では、③ 細~中粒砂岩との境界付近に径0.5~2cmの礫の密集が認められる。

断層は2-1、2-2および4、5、6、7であり、2-1は上盤(断層右側)に幅5~10cm程度の断層角礫帯を伴い、灰色粘土0.5cmを介在する。2-2では鏡肌認められる。2-1と2-2に挟まれた部分は割目が5cm程度の間隔で発達する。5は条線を伴う。5と6に挟まれた部分は、5cm程度の間隔で割目が発達している。また、7に平行して方解石脈(幅0.1cm)が発達している。

採水試料なし

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-049

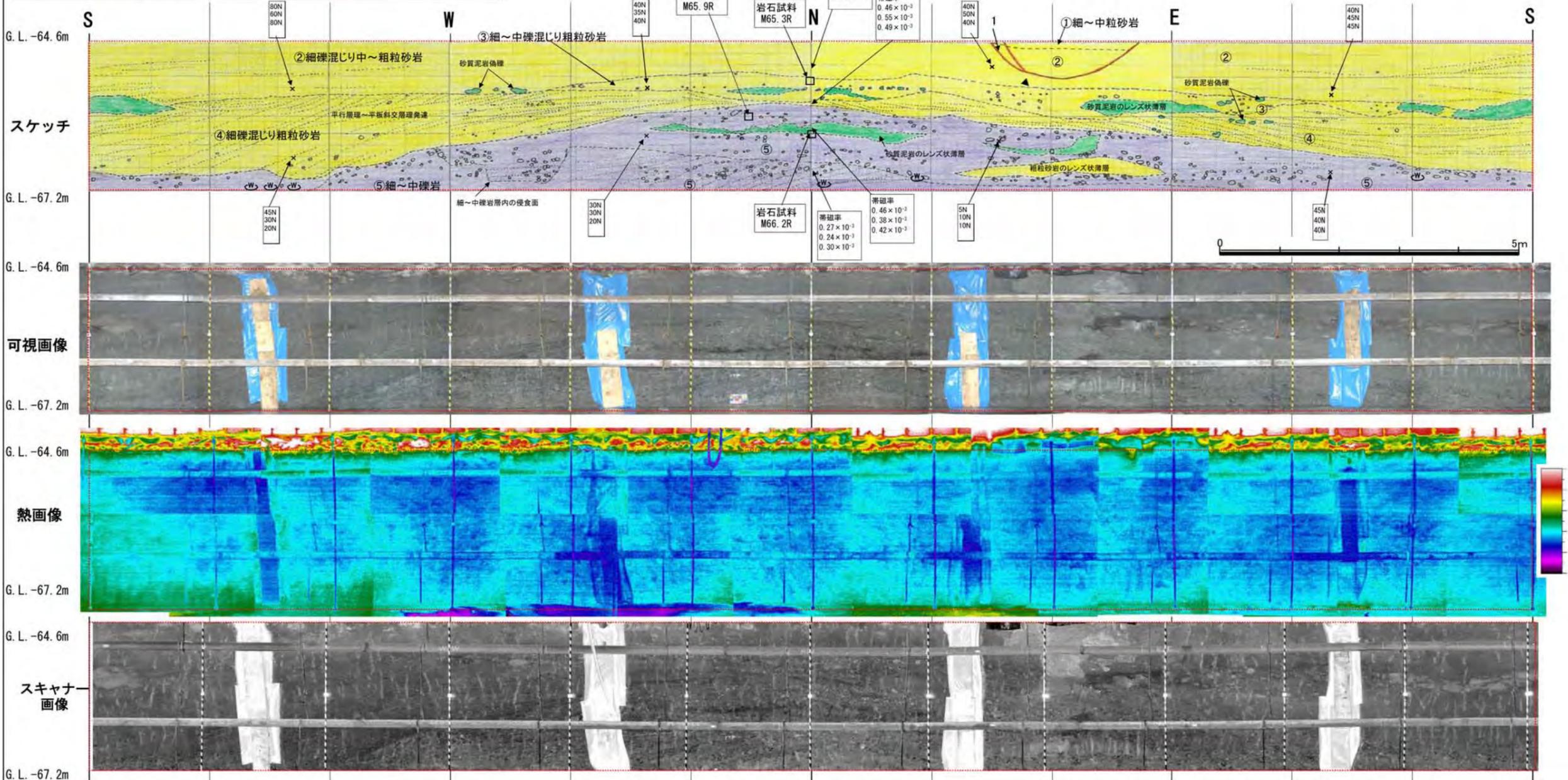
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

シート番号	049	日時	2005/4/2~4/3 22:00~1:30	位置・深度	STEP53, 54 G.L. -64.6m ~ G.L. -67.2m	観察・撮影者	
-------	-----	----	----------------------------	-------	---	--------	--

凡例

砂岩	生物化石 貝化石	湧水	断層	割れ目	針貫入試験位置
砂質泥岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	植物片・炭質物	岩相境界線	N ノジュール	葉理
礫岩	割れ目密集部(間隔数~30cm)				



岩種	砂岩・泥岩・礫岩	電研式岩級	G.L. -64.6~-65.9 CL G.L. -65.9~-67.2 CL	特記事項 岩種は、①細~中粒砂岩、②細礫混じり中~粗粒砂岩、③細~中礫混じり粗粒砂岩、④細礫混じり粗粒砂岩、⑤細~中礫岩である。 ③細~中礫混じり粗粒砂岩は径1~5cmの砂質泥岩、濃飛流紋岩の垂直礫を含む。また、径10~30cm程度の砂質泥岩のレンズ状薄層や偽礫を含む。④細礫混じり粗粒砂岩は少量の軽石(径0.1~0.5cm程度)、径10~20cm程度の砂質泥岩の偽礫を含み、平板斜交層理が発達する。⑤細~中礫岩は、平均3~4cm、最大径20cmの垂直~垂直角礫を主体とし、少量の軽石(1~2cm程度)を含む。また、砂質泥岩層、粗粒砂岩層をレンズ状に挟む。礫種は濃飛流紋岩、泥岩、石英斑岩、チャートが主で、その大略の構成比は、濃飛流紋岩：泥岩：石英斑岩：チャート=6:2:1:1である。 断層1は、前観察区間から続く断層であり、断層下盤側(断層内側)に、②層の上位に位置する①層が分布している。断層面には条線を伴う。 ⑤細~中礫岩層において、滲出程度の湧水が認められる。	採水試料なし
岩相	①細~中粒砂岩(灰色~暗灰色) ②細礫混じり中~粗粒砂岩(灰色~暗灰色) ③細~中礫混じり粗粒砂岩(灰色~暗灰色) ④細礫混じり粗粒砂岩(灰色~暗灰色) ⑤細~中礫岩(灰色)	RMR値	G.L. -64.6~-65.9 66 G.L. -65.9~-67.2 62		
風化	α	岩石試料番号	M65.3R(細~中礫混じり粗粒砂岩) M65.9R(細~中礫岩) M66.2R(細~中礫岩の砂質泥岩の偽礫)		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	滲出	化石	無		

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-050

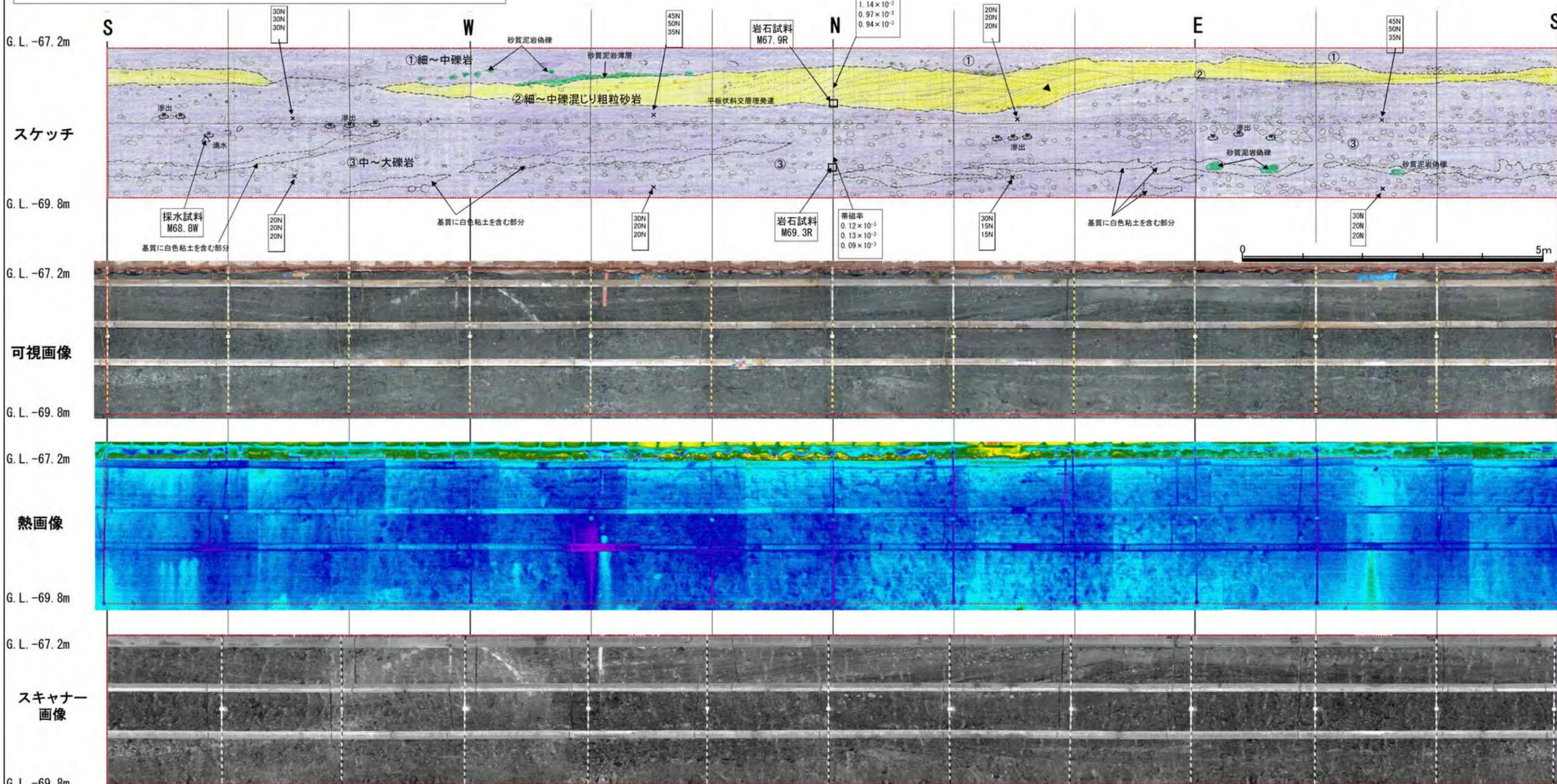
シート番号	050	日時	2005/4/7 1:00~4:30	位置・深度	STEP55, 56 G.L. -67.2 m ~ G.L. -69.8 m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-----------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	砂岩		生物化石 貝化石		湧水		断層		割れ目		針貫入試験位置
	砂質泥岩		割れ目密集部(間隔~5cm)		植物片・炭質物		岩相境界線		N		ノジュール
	礫岩		割れ目密集部(間隔数~30cm)		葉理						



岩種	砂岩・礫岩	電研式岩級	G.L. -67.2m ~ -68.5m CL G.L. -68.5m ~ -69.8m CL	特記事項 岩種は、①細～中礫岩、②細～中礫混じり粗粒砂岩、③中～大礫岩である。 ①細～中礫岩は、粘土～粗粒砂の基質と、平均3～4cmの垂円～垂角礫から構成される。礫種は濃飛流紋岩が主であり、泥岩（明灰色を呈する）、石英斑岩、チャートを伴う。泥岩は垂角礫が多く、その他のものは垂円礫が多い。また、泥岩の偽礫も存在する。②細～中礫混じり粗粒砂岩は、径数mm～5cm程度の濃飛流紋岩、泥岩（明灰色）の垂円礫を含み、平板状斜交層理が発達する。③中～大礫岩は、粘土～粗粒砂の基質と、平均径5～20cm程度、最大径30cm程度の垂円礫から構成され、基質の一部に白色粘土（凝灰質?）に富む部分が認められる。礫種は濃飛流紋岩が主で、石英斑岩、チャートを伴う。その大略の構成比は濃飛流紋岩：その他=9：1程度である。また、径30cm程度の泥岩（明灰色）の偽礫も認められる。 本観察範囲において、割れ目および断層は認められない。 ③中～大礫岩層において、滲出～滴水程度の湧水が認められる。	採水試料 M68.8W 未計測
岩相	①細～中礫岩、②細～中礫混じり粗粒砂岩（灰色）、③中～大礫岩（灰色）	RMR値	G.L. -67.2m ~ -68.5m 60 G.L. -68.5m ~ -69.8m 60		
風化	α	岩石試料番号	M67.9R(細～中礫混じり粗粒砂岩) M69.3R(中～大礫岩の基質)		
変質	1	採水試料番号	M68.8W		
湧水	滲出～滴水	化石	無		

A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-051

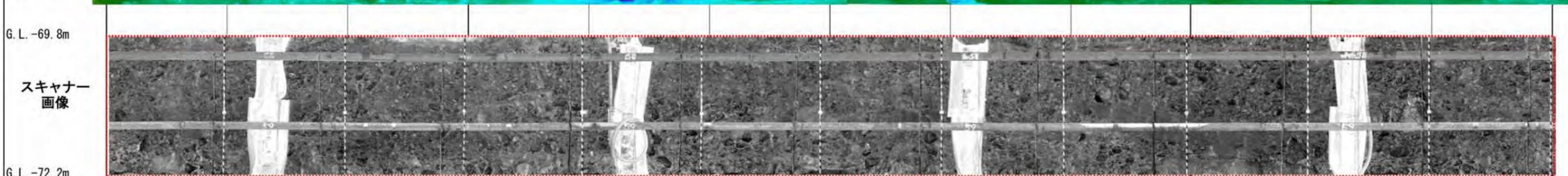
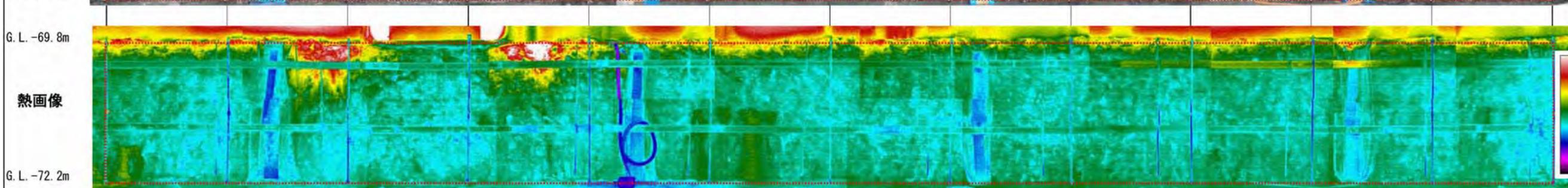
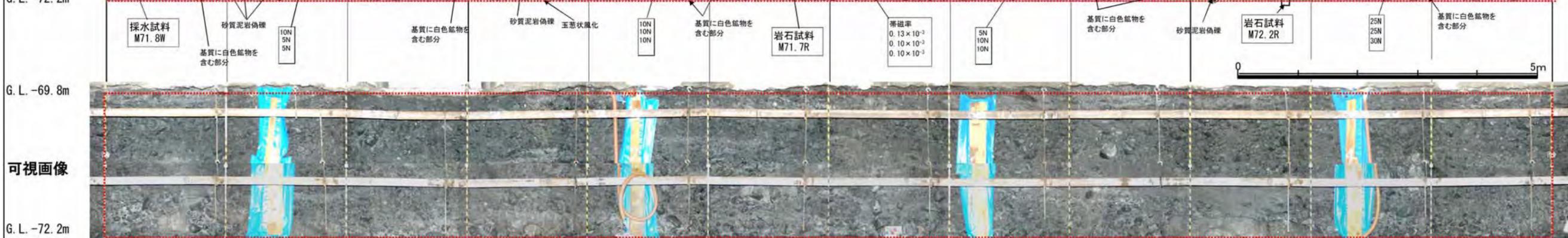
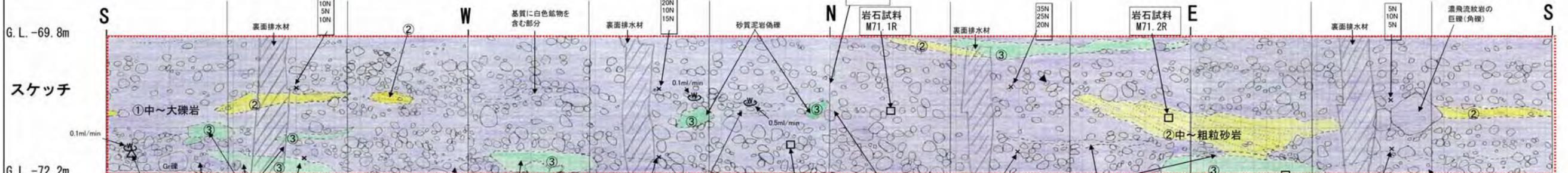
シート番号	051	日時	2005/4/14~4/15 21:00~1:30	位置・深度	STEP57, 58 G.L. -69.8m~G.L. -72.2m	観察・撮影者	
-------	-----	----	------------------------------	-------	---------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

砂岩	生体化石 貝化石	湧水	断層	割れ目	針貫入試験位置
砂質泥岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	植物片・炭質物	岩相境界線		
礫岩	割れ目密集部(間隔数~30cm)	ノジュール	葉理		



岩種	礫岩・砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -69.8m~-71.1m D G.L. -71.1m~-72.2m D	特記事項 岩種は、①中~大礫岩、②中~粗粒砂岩、③砂質泥岩である。 ①中~大礫岩は、粘土~粗粒砂の基質と平均3~5cm、最大90cm程度の垂円~垂角礫から構成され、②および③のレンズ状薄層や偽礫(径50cm~200cm以上)を含む。基質に白色鉱物を多く含む部分が認められる。 ②中~粗粒砂岩は、部分的に細礫混じりで、平板斜交層理様のラミナが見られる。 ③砂質泥岩は、偽礫~薄層状に分布する。 礫種は9割以上が濃飛流紋岩である。壁面南側では花崗岩礫(径約50cm)が認められたほか、わずかに灰白色のチャート礫が含まれる。 本観察範囲において、割れ目・断層は認められない。 一箇所あたり0.1~0.5L/分の湧水が認められる。	採水試料 M71.8W
岩相	①中~大礫岩(灰色) ②粗~中粒砂岩(灰色) ③砂質泥岩(灰色)	RMR値	G.L. -69.8m~-71.1m 35 G.L. -71.1m~-72.2m 35		4/14 pH=9.98 水温=17.07
風化	α	岩石試料番号	M71.1R(中~大礫岩の基質) M71.7R(中~大礫岩の基質) M71.2R(粗粒砂岩) M72.2R(砂質泥岩)		
変質	1	採水試料番号	M71.8W		
湧水	滴水	化石	無		

A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-052

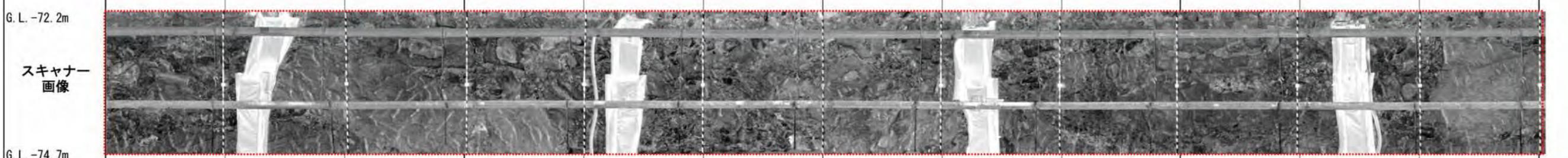
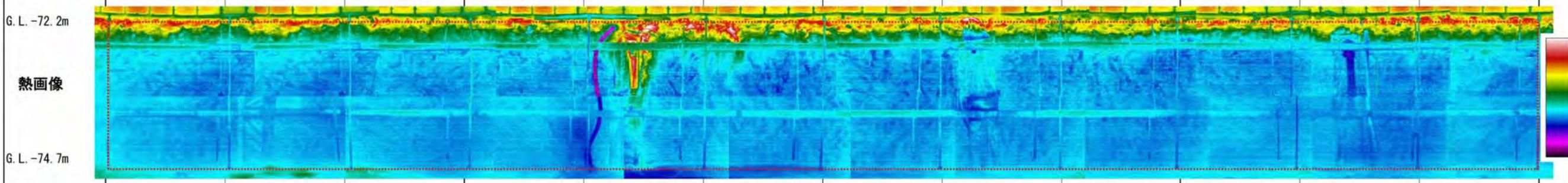
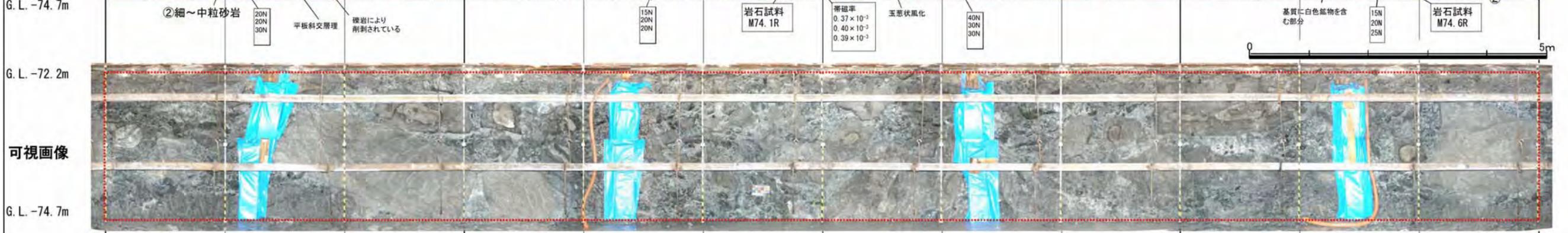
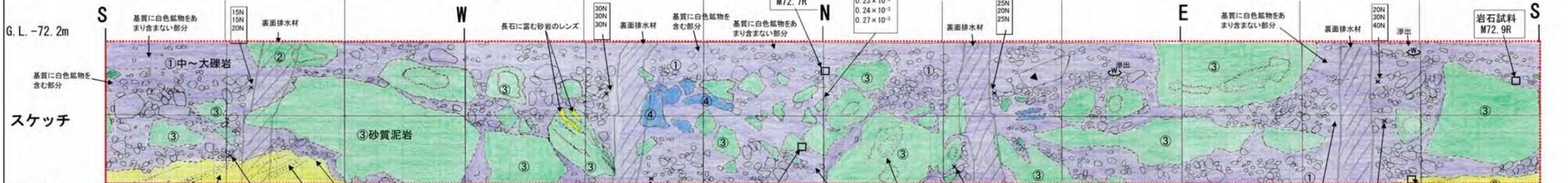
シート番号	052	日時	2005/4/18 13:00~16:30	位置・深度	STEP59, 60 G.L. -72.2m~G.L. -74.7m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	---------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

泥岩	砂質泥岩	砂岩	礫岩	生成化石 貝化石	湧水	断層	割れ目	針貫入試験位置
割れ目密集部(間隔~5cm)	植物片・炭質物	岩相境界線	ノジュール	葉理				
割れ目密集部(間隔数~30cm)								



岩種	礫岩・砂岩	電研式岩級	G.L. -72.2m~-73.5m D G.L. -73.5m~-74.7m D	特記事項 岩種は、①中〜大礫岩、②細〜中粒砂岩、③砂質泥岩、④泥岩である。 ①中〜大礫岩は粘土〜粗粒砂の基質と平均3~10cm、最大50cm程度の垂円〜垂角礫から構成され、基質には白色鉱物(粘土鉱物?)が含まれる。③の砂質泥岩の礫(径50cm程度~300cm以上)と、④の泥岩の礫(径30~40cm)が多く認められ、③砂質泥岩の礫には径0.3~1cm程度の灰色または黒色の泥岩レンズが含まれる。礫種は濃飛流紋岩、ホルンフェルス、花崗岩、チャートが主であり、構成比は濃飛流紋岩が8割程度を占める。一般に、大礫〜巨礫は濃飛流紋岩であり、その他の礫種は径10cm以下である。 ②細粒〜中粒砂岩は、平板斜交層理が発達し、一部では少量の細礫が含まれる。層の上面は①の中〜大礫岩によって削割され、大きく凹凸している。 本観察範囲において割れ目・断層は認められない。 ①中〜大礫岩層において、滲出程度の湧水が認められる。 採水試料なし
岩相	①中〜大礫岩(灰色~明灰色) ②細粒〜中粒砂岩(灰色) ③砂質泥岩(灰色) ④泥岩(暗灰色~灰色)	RMR値	G.L. -72.2m~-73.5m 36 G.L. -73.5m~-74.7m 36	
風化	α	岩石試料番号	M72.7R(中〜大礫岩の基質) M72.9R(中〜大礫岩の基質) M74.1R(砂質泥岩の礫) M74.6R(細〜中粒砂岩)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	滲出	化石	無	

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-053

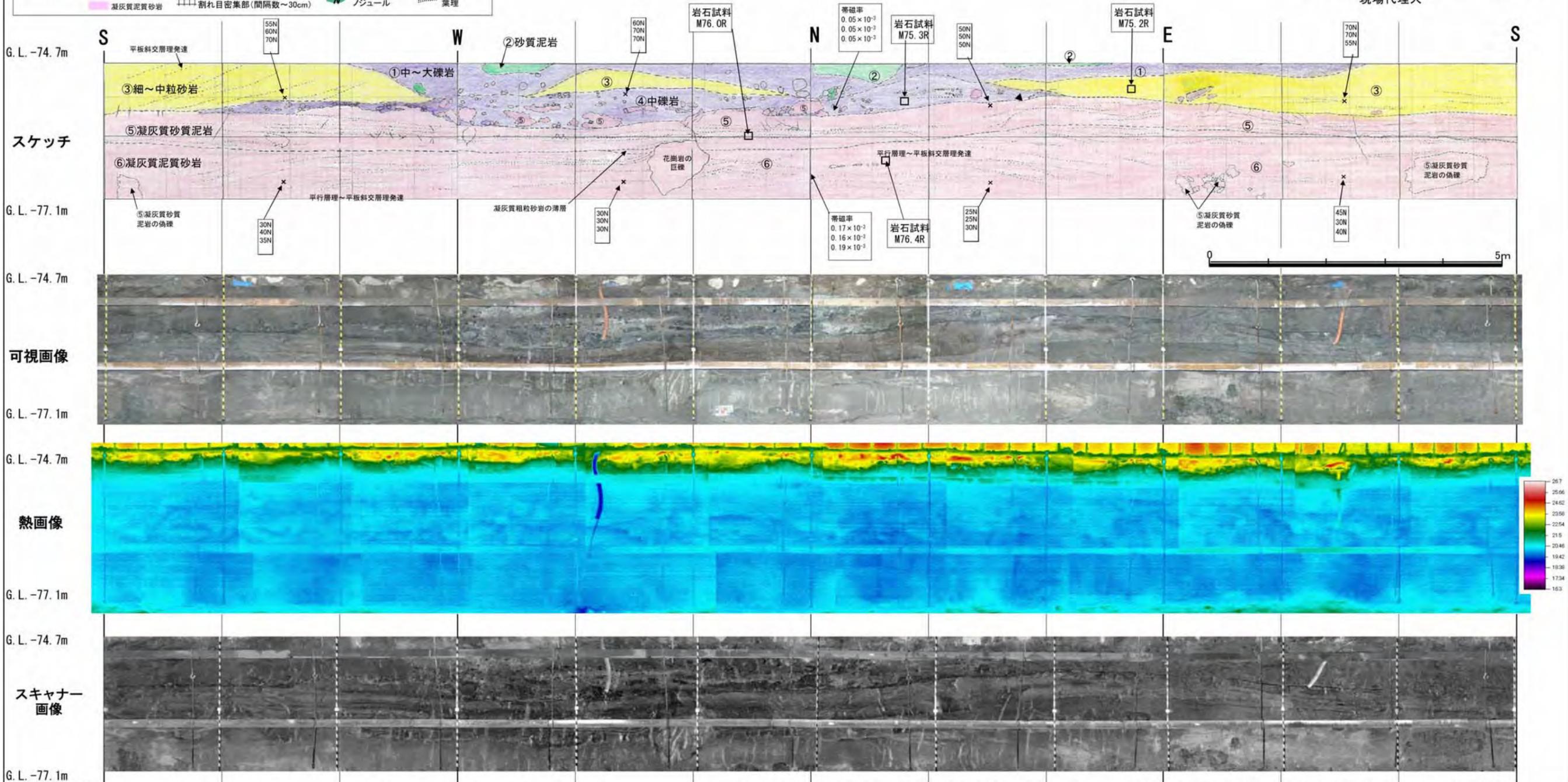
シート番号	053	日時	2005/4/21 5:30~9:00	位置・深度	STEP61, 62 G.L. -74.7m~G.L. -77.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	------------------------	-------	---------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

砂岩	生物化石	湧水	断層	割れ目	* 針貫入試験位置
砂質泥岩	貝化石				
礫岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	植物片・炭質物	---	岩相境界線	
凝灰質泥質砂岩	割れ目密集部(間隔数~30cm)	N ノジュール		葉理	



岩種	砂岩・泥岩・礫岩	電研式岩級	G.L. -74.7m~-76m D G.L. -76m~-77.1m D	特記事項 岩種は、①中~大礫岩、②砂質泥岩、③細~中粒砂岩、④中礫岩、⑤凝灰質砂質泥岩、⑥凝灰質泥質砂岩である。 ①中~大礫岩は、粘土~粗粒砂粒径の基質と平均3~10cm、最大30cm程度の垂円~垂角礫から構成され、②の砂質泥岩礫(径30cm~100cm以上)が認められる。基質には白色の粘土鉱物が含まれる。 ③細粒~中粒砂岩は、平板斜交層理が発達し、一部で少量の細礫を含む。層の上面は①の中~大礫岩によって削刺されている。 ④中礫岩は粘土~粗粒砂粒径の基質と平均3~5cm程度の垂円礫~垂角礫から構成される。下位の⑤凝灰質砂質泥岩を削刺しており、同岩の礫を多く含む。 ⑤凝灰質砂質泥岩は青灰色~灰色を呈し、黒色泥岩の薄層による葉理が発達する。 ⑥凝灰質泥質砂岩は明灰色~灰色を呈するが、掘削面は酸化により暗灰色に変色している。シルト岩~細粒砂岩が主体であるが、部分的に粗粒砂岩が分布する。 本観察範囲において、連続性のある断層・割れ目は認められない。
岩相	①中~大礫岩(灰色~明灰色) ②砂質泥岩(灰色) ③細~中粒砂岩(灰色) ④中礫岩(灰色~明灰色) ⑤凝灰質砂質泥岩(青灰色~灰色) ⑥凝灰質泥質砂岩(灰色~明灰色)	RMR値	G.L. -74.7m~-76m 39 G.L. -76m~-77.1m 39	
風化	α	岩石試料番号	M75. 2R(細粒砂岩) M75. 3R(中礫岩の基質) M76. OR(凝灰質砂質泥岩) M76. 4R(凝灰質泥質砂岩)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	無	化石	無	

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-054

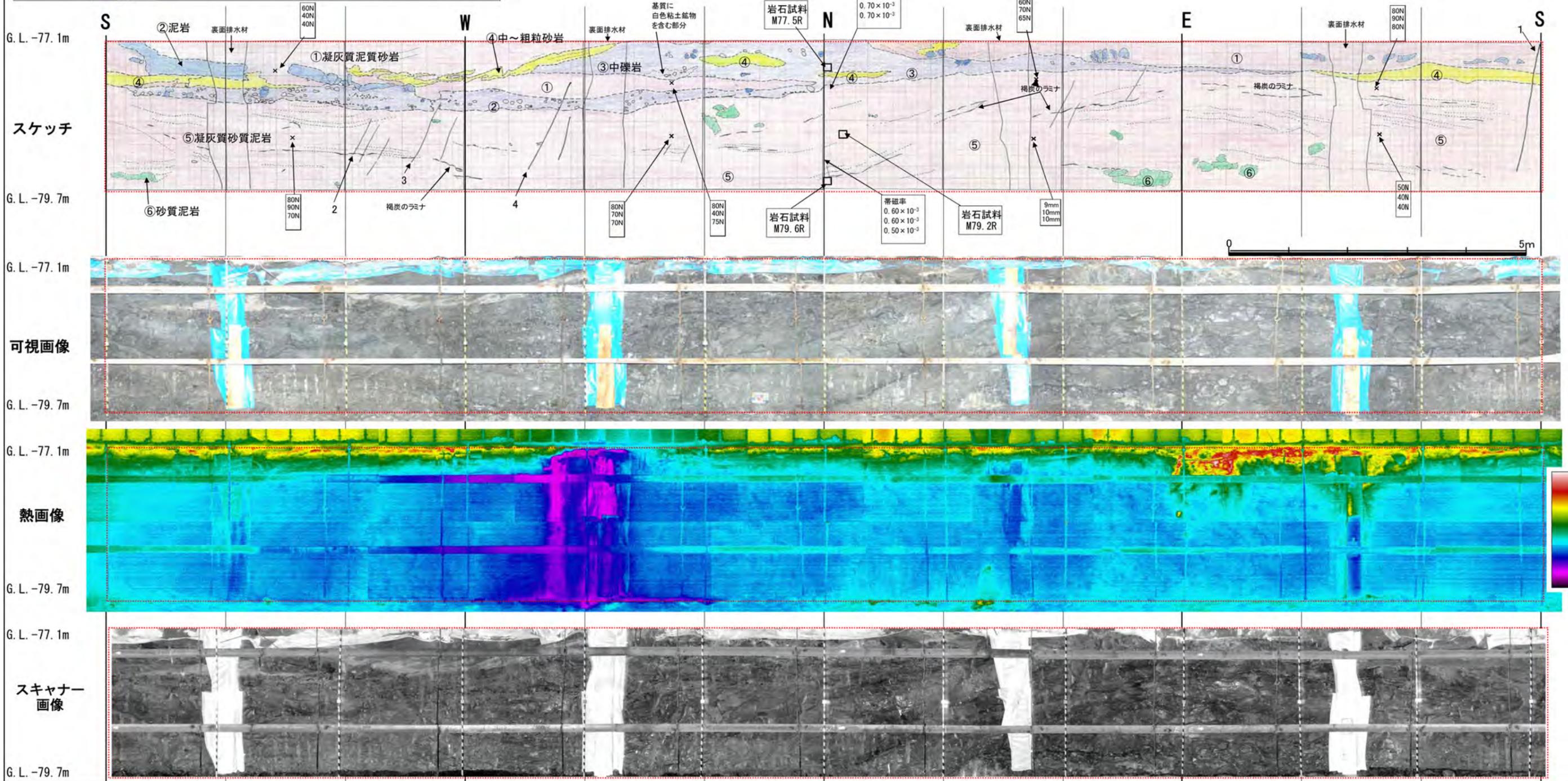
シート番号	054	日時	2005/4/25 9:00~12:30	位置・深度	STEP63, 64 G.L. -77.1m~G.L. -79.7m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	---------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

凡例

凝灰質泥質砂岩	生痕化石	湧水	断層	割れ目	針貫入試験位置
中～粗粒砂岩	貝化石				
中礫岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	植物片・炭質物	岩相境界線		
砂質泥岩	割れ目密集部(間隔数~30cm)	N ノジュール	葉理		
泥岩					

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	礫岩・砂岩・泥岩・凝灰質砂岩・凝灰質泥岩・	電研式岩級	G.L. -77.1m~-78.4m D G.L. -78.4m~-79.7m D	特記事項 ①凝灰質泥質砂岩：シルト岩～細粒砂岩が主体で、部分的に粗粒砂岩が分布する。一部に泥岩偽礫を含む。 ②泥岩：暗灰色を呈し、偽礫として分布する。 ③中礫岩：茶灰色～暗灰色を呈する。層厚は10～50cmで変化が著しく、南側では粗粒砂岩(④)に漸移する。礫岩層の下面境界は明瞭で、小さな凹凸がある。上面境界は全般に不明瞭で、大きな波状面をなし、一部で砂岩に漸移する。平均的な礫径は1～5cm。主な礫種は花崗岩(優白色、垂角礫)、チャート(淡褐色～灰白色、垂角礫～垂円礫)、流紋岩(暗緑色、垂円礫)など。泥岩偽礫を含む。 ④中粒～粗粒砂岩：全般に暗灰色を呈し、淘汰の悪い砂岩が主体である。一部は優白色のアルコース質砂岩。礫岩層から側方に漸移した薄層、礫岩中の小レンズ、湾曲した外形をもつ偽礫薄層などとして分布している。アルコース質砂岩中にはしばしば平行葉理が発達している。 ⑤凝灰質砂質泥岩：一般に灰色～暗灰色を呈する。凝灰質な塊状岩であり、部分的に淡緑色や茶褐色を帯びている。本層の上位には1～5cm程度の大きさで不定形～角礫状の暗色泥岩パッチが含まれる。中～下位には厚さ1～3cmの黒灰色を示す褶炭～炭質泥岩のラミナが多い。このようなラミナの上または下位には、厚さ10～20cm程の黒褐色を帯びた炭質泥岩が接していることが多い。この泥岩は時に茶灰色と暗緑灰色の細かい縞状をなすことがある。 ⑥砂質泥岩：⑤層中に偽礫として分布する。
岩相	①凝灰質泥質砂岩(灰色) ②泥岩(暗灰色) ③中礫岩(茶灰色～暗灰色) ④中粒～粗粒砂岩(暗灰色) ⑤凝灰質砂質泥岩(灰色～暗灰色) ⑥砂質泥岩(灰色)	RMR値	G.L. -77.1m~-78.4m 43 G.L. -78.4m~-79.7m 43	
風化	α	岩石試料番号	M77.5R(中礫岩の基質) M79.2R(凝灰質泥質砂岩) M79.6R(凝灰質泥質砂岩中の炭質泥岩)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	無	化石	無	

A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-055

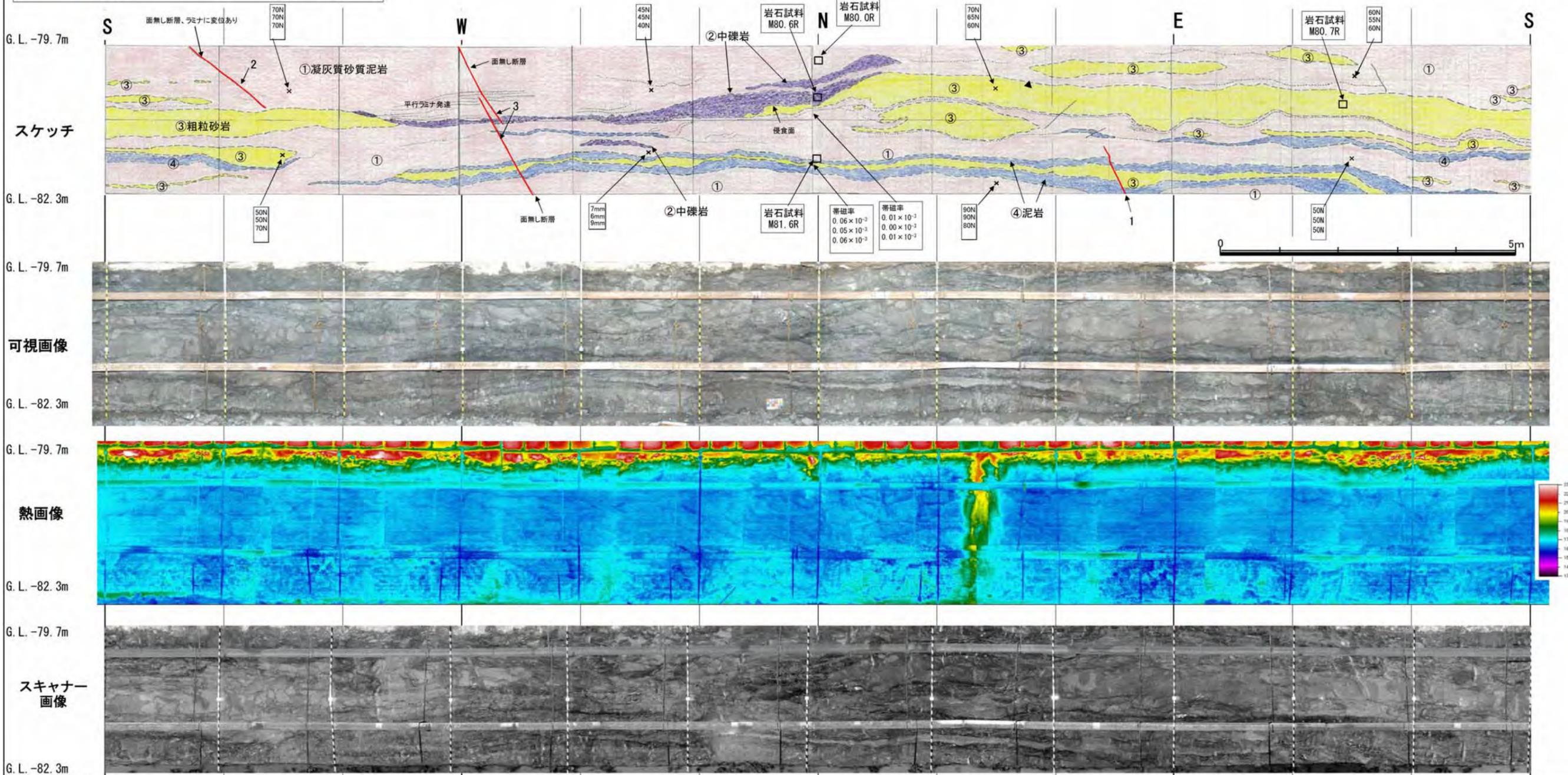
シート番号	055	日時	2005/4/27~28 20:30~0:30	位置・深度	STEP65, 66 G.L. -79.7m~G.L. -82.3m	観察・撮影者	
-------	-----	----	----------------------------	-------	---------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

 泥岩	断層	割れ目	針貫入試験位置
 粗粒砂岩	植物片・炭質物	岩相境界線	葉理
 凝灰質砂質泥岩			
 中礫岩			



岩種	凝灰質砂質泥岩・礫岩・砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -79.7m~-81m G.L. -81m~-82.3m	D D	特記事項 岩種は、①凝灰質砂質泥岩、②中礫岩、③粗粒砂岩である。 ①凝灰質砂質泥岩は、中礫岩(②)と粗粒砂岩(③)の上下位層準にまともな層準で、所々に連続性の良い炭質物に富むラミナ、およびレンズ状の粗粒砂岩を挟在する。西側壁面の中礫岩(②)の上位で、ラミナが密集して認められる。下位層準ではラミナの発達で特徴づけられ、所々に粗粒砂岩(③)と炭質物を含み暗灰~黒色を呈する泥岩(④)を挟在する。 ②中礫岩は、平均3~5cm前後の垂角~垂円礫を粗粒砂質基質中に含み、希に最大10~15cm前後の大礫を伴う。礫種は、花崗岩、チャート、濃飛流紋岩類などで、凝灰質泥岩の偽礫を含む。北側壁面では、中礫岩が粗粒砂岩(③)を顕著な侵食面で覆っている。 ③粗粒砂岩は、壁面中央部において層厚50cm前後で良く連続するとともに、その上下位の層準にもレンズ状に観察される。粗粒砂岩はアルコース質で、粗粒砂~極粗粒砂粒径の石英や長石の粒子から主に構成され、堆積構造に乏しく塊状を呈する。 ④泥岩は、ラミナの発達で特徴づけられ、しばしば層厚数cm以下の粗粒砂岩のレンズないし薄層を伴う。 面無し断層が、西側および南西側壁面において、ラミナと凝灰質砂質泥岩中の粗粒砂岩と炭化物を含む泥岩の変位として確認される。密着しており、断層ガウジなどの破砕物質は認められない。	採水試料 なし
岩相	①凝灰質砂質泥岩(灰色~緑灰色) ②中礫岩(灰色~明灰色) ③粗粒砂岩(白色~明灰色) ④泥岩(暗灰色~灰色)	RMR値	G.L. -79.7m~-81m G.L. -81m~-82.3m	43 43		
風化	α	岩石試料番号	M80.0R(凝灰質砂質泥岩) M80.6R(中礫岩) M81.6R(凝灰質砂質泥岩) M80.7R(粗粒砂岩)			
変質	1	採水試料番号		無		
湧水	無	化石		無		

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-056

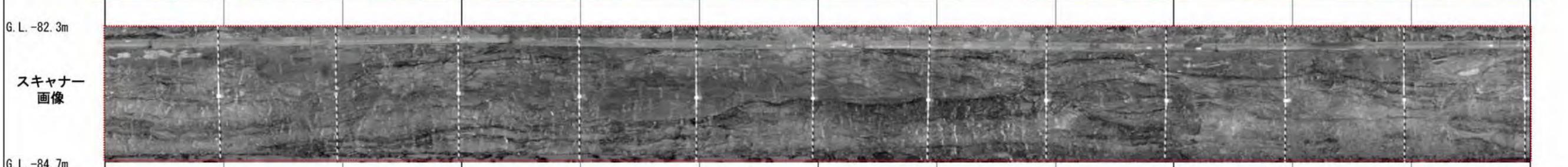
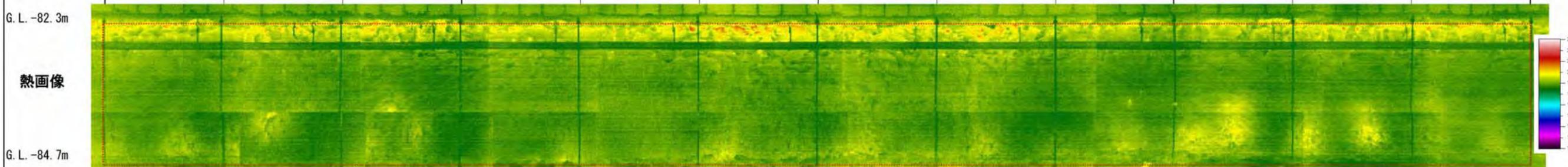
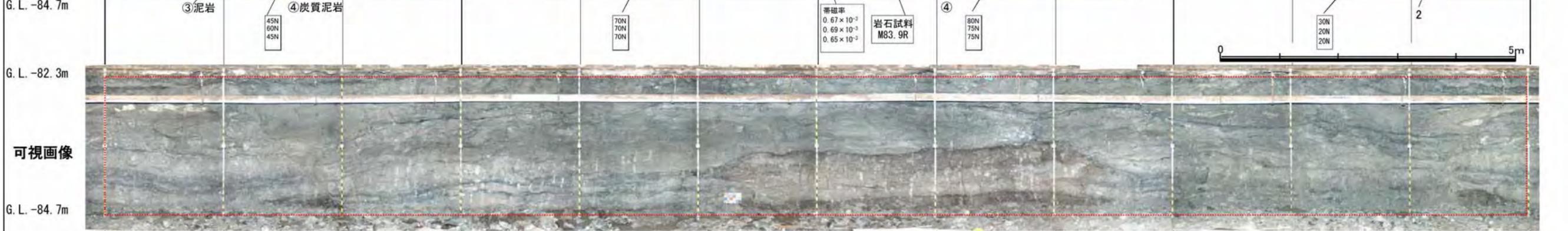
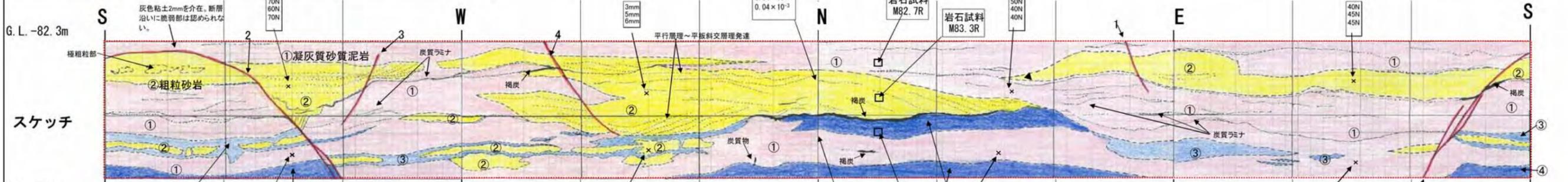
シート番号	056	日時	2005/5/8 12:10~15:30	位置・深度	STEP67, 68 G.L. -82.3m~G.L. -84.7m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	---------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

凝灰質砂~泥岩	生成化石 貝化石	湧水	断層	割れ目	* 針貫入試験位置
粗粒砂岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	植物片・炭質物	岩相境界線		
泥岩	割れ目密集部(間隔数~30cm)	ノジュール	葉理		
炭質泥岩					



岩種	砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -82.3m~-83.6m D G.L. -83.6m~-84.7m D
岩相	①凝灰質砂質泥岩(灰~緑灰) ②粗粒砂岩(灰~暗灰) ③泥岩(暗灰~茶灰) ④炭質泥岩(黒茶)	RMR値	G.L. -82.3m~-83.6m 76 G.L. -83.6m~-84.7m 75
風化	α	岩石試料番号	M82.7R(凝灰質砂質泥岩) M83.3R(中~粗粒砂岩) M83.9R(炭質泥岩)
変質	1	採水試料番号	無
湧水	無	化石	無

特記事項

岩種は①凝灰質砂質泥岩、②粗粒砂岩、③泥岩、④炭質泥岩である。
 ①凝灰質砂質泥岩は灰色の砂質部(層厚3~5cm)と、淡緑色の泥質部(層厚1~5cm)からなる縞状を呈し、部分的に茶灰色のやや炭質ならミナを伴う。炭質ならミナは、堆積面に平行に分布する場合と、割れ目の充填物のような産状を示す場合が見られる。②粗粒砂岩は、①層中に不連続に分布するほか、③層の泥岩中にレンズ状薄層として分布する。局所的に、極粗粒砂岩または中粒砂岩に漸移する。極粗粒砂岩相には濃飛流紋岩の細円礫が少量含まれる。③泥岩は暗灰~茶灰色を呈し、①層中に砂岩(②層)と互層して帯状に不連続に分布する。一部に褐炭ならミナを伴う。④炭質泥岩は黒茶色を呈し、茶灰色の泥岩に漸移する。層の上部または下部に、厚さ3~5cm程度の褐炭が濃集する傾向がある。また、中間は一般に褐炭ならミナが互層する。全体として、層状岩で割れ目性がある。

連続性を有する割れ目は1~4の4条が認められ、1, 3, 4は面なし断層である。2は正断層であり、割れ目面に条線・鏡肌を伴い、灰色粘土2mmを介在する。断層沿いに脆弱部は認められない。

採水試料なし

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-057

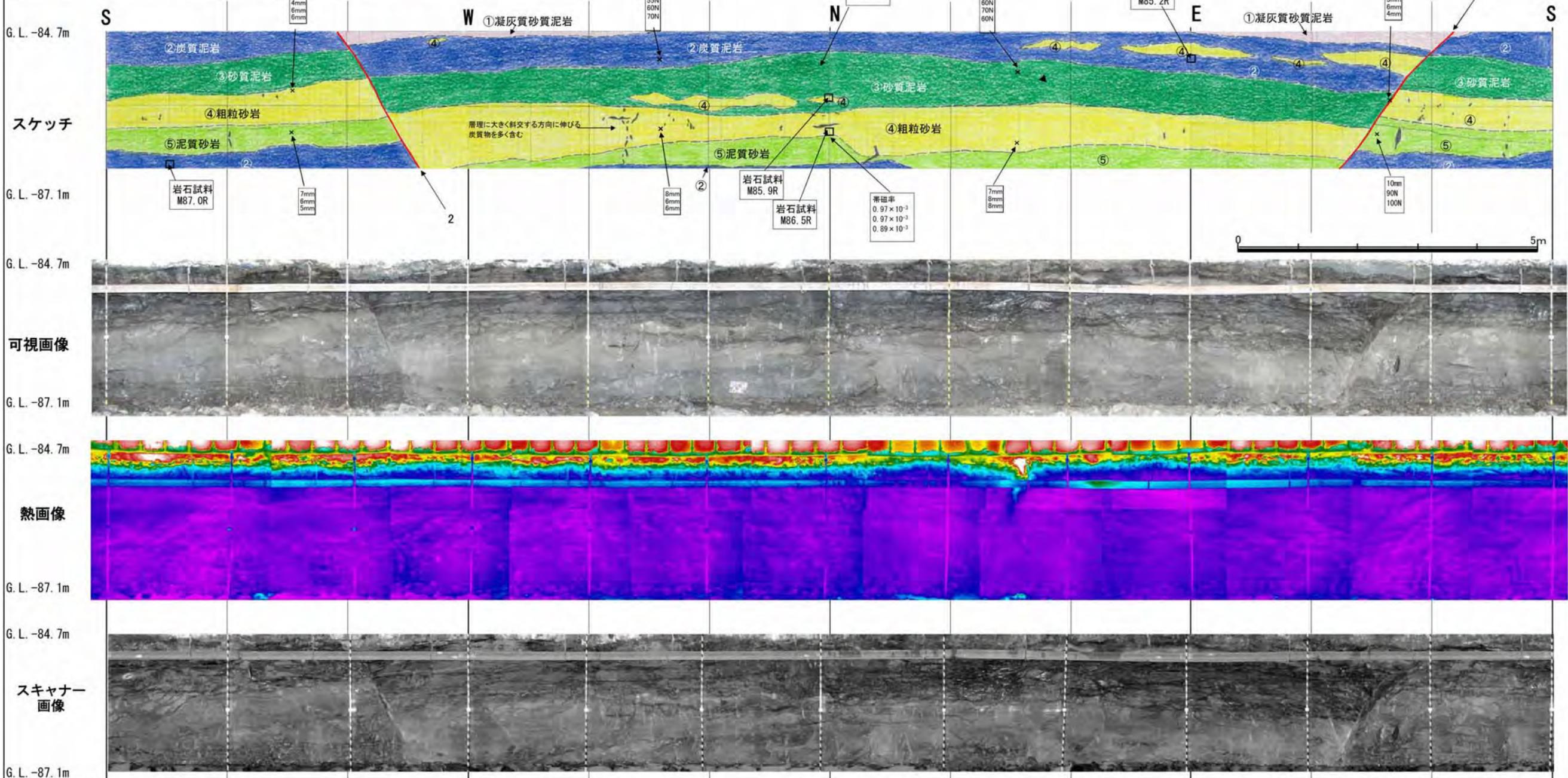
シート番号	057	日時	2005/5/10 1:00~4:30	位置・深度	STEP69, 70 G.L. -84.7m~G.L. -87.1m	観察・撮影者	
-------	-----	----	------------------------	-------	---------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

凡例

凝灰質砂質泥岩	生物化石	湧水	断層	割れ目	針貫入試験位置	岩石試料採取位置
粗粒砂岩	貝化石					
泥質砂岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	断層ガウジ	植物片・炭質物	岩相境界線		
砂質泥岩	割れ目密集部(間隔数~30cm)	断層角礫	N ノジュール	葉理		
炭質泥岩						

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	凝灰質砂質泥岩・砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -84.7m~-86m D G.L. -86m~-87.1m D	特記事項 岩種は、①凝灰質砂質泥岩、②炭質泥岩、③砂質泥岩、④粗粒砂岩、⑤泥質砂岩である。 ①凝灰質砂質泥岩は壁面最上部にわずかにみられ、所々に連続性の良い炭質物に富むラミナ、および連続性の悪い粗粒砂岩を挟む。 ②炭質泥岩は、灰色を呈する泥岩と炭質物に富み暗灰~黒色を呈する泥岩から主に構成される。層厚1~3cm前後の炭層が頻りに挟まれ、側方に数mにわたりよく連続するとともに、炭層はしばしば炭質物に富むラミナに漸移的に変化する。また、所々に層厚数mm~30cm程度の粗粒砂岩を、側方に連続性の悪いレンズ状、ないし数m以上によく連続する層状に挟む。 ③砂質泥岩は、細~中粒砂を含む泥岩で、全体に堆積構造に乏しく塊状を呈することで特徴づけられる。ラミナが希に観察される。また、連続性の悪い粗粒砂岩を伴う。 ④粗粒砂岩は、一般に粗粒砂~極粗粒砂粒径の石英や長石の粒子から主に構成され、堆積構造に乏しく塊状を呈する。最上部の層厚10cm前後に見られる細粒砂岩(上方細粒化に伴う)は、下位の粗粒砂岩と不明瞭な境界を介して接する。層理に直交しない大きく斜交する炭質物が所々に散在して見られ、とくに南南東および北西側壁面でやや密集して分布する。 ⑤泥質砂岩は、粗粒砂粒径の石英や長石の粒子から主に構成され、細粒砂岩からなる質中にやや泥質分を富むことで特徴づけられる。堆積構造に乏しく塊状を呈する点で、上位の粗粒砂岩と同じ岩相的特徴を示す。また、泥質砂岩と粗粒砂岩との境界は、砂粒径の漸移的な変化を伴わず急激な岩相変化を示すものの、明瞭な岩相境界面を伴わない。 連続性のよい割れ目は2条である。割れ目1と2は、0.1mm程度の灰白色を呈する脈および粘土を面上に伴う、正断層成分を有する割れ目である。
岩相	①凝灰質砂質泥岩(青灰色~黒茶灰色) ②炭質泥岩(暗色~暗灰色) ③砂質泥岩(灰色~明灰色) ④粗粒砂岩(白色~明灰色) ⑤泥質砂岩(灰白色~明灰色)	RMR値	G.L. -84.7m~-86m 39 G.L. -86m~-87.1m 39	
風化	α	岩石試料番号	M86.5R(粗粒砂岩) M85.9R(砂岩) M85.2R(炭質泥岩) M87.0R(炭質泥岩)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	無	化石	無	

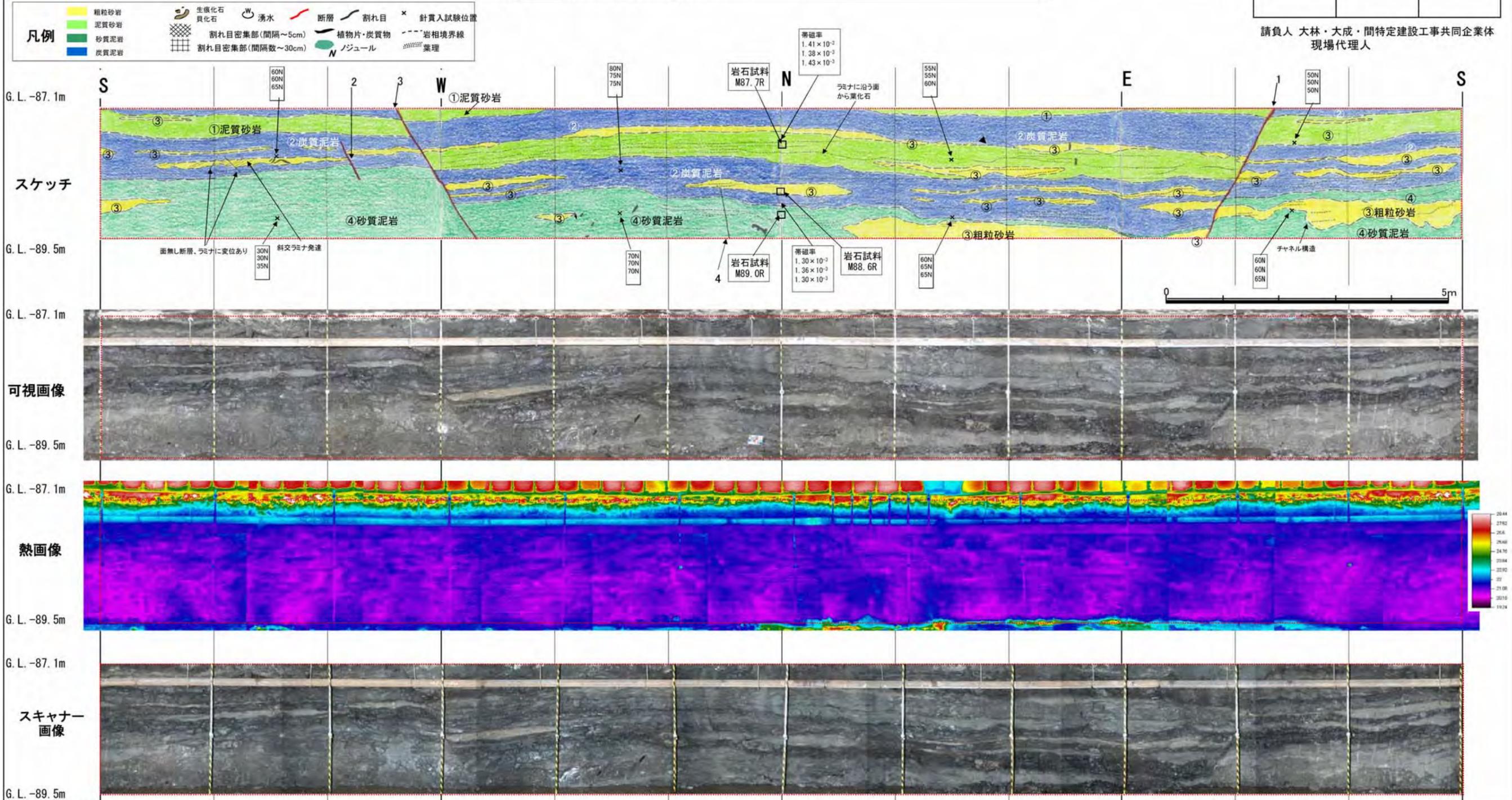
A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-058

シート番号	058	日時	2005/5/12 18:30~22:00	位置・深度	STEP71,72 G.L. -87.1m~G.L. -89.5m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	--------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -87.1m~-88.4m D G.L. -88.4m~-89.5m D	特記事項 岩種は、①泥質砂岩(灰白色~明灰色)、②炭質泥岩(暗色~暗灰色)、③粗粒砂岩(白色~明灰色)、④砂質泥岩(灰色~明灰色)である。 ①泥質砂岩は、側方によく連続し炭質物の配列によるラミナの発達で特徴づけられる。 ②炭質泥岩は、灰色を呈する泥岩と炭質物に富み暗灰~黒色を呈する泥岩から主に構成される。炭質泥岩は、泥質砂岩をはさんで上下の層準に見られ、下位の層準では層厚1~3cmの連続性の良い垂直層や、斜交ラミナの発達する粗粒砂岩を挟在する。 ③粗粒砂岩は、粗粒砂~極粗粒砂粒径の石英や長石の粒子から主に構成される。粗粒砂岩は、層厚数cm~30cm前後で層状~レンズ状に発達する。南東側壁面における最大層厚60cm前後の粗粒砂岩は、下位の砂質泥岩を削り込むチャンネル構造を有する。 ④砂質泥岩は、炭質物の濃集する平行ラミナや斜交ラミナを伴う。層理に高角に交わる炭質物が、北西側壁面の砂質泥岩中に観察される。連続性のよい割れ目は4条である。割れ目1と3は、厚さ2mm前後の灰色粘土を挟在する、正断層成分を有する割れ目である。面無し断層が、南西側壁面において、炭質泥岩中の粗粒砂岩薄層とラミナの変位、および炭質泥岩と砂質泥岩の境界面の変位として確認される。	採水試料 なし
岩相	①泥質砂岩(灰白色~明灰色) ②炭質泥岩(暗色~暗灰色) ③粗粒砂岩(白色~明灰色) ④砂質泥岩(灰色~明灰色)	RMR値	G.L. -87.1m~-88.4m 39 G.L. -88.4m~-89.5m 38		
風化	α	岩石試料番号	M87.7R(泥質砂岩) M88.6R(細礫混じり粗粒砂岩) M89.0R(砂質泥岩)		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	無	化石	有(葉化石、レベルI)		

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-059

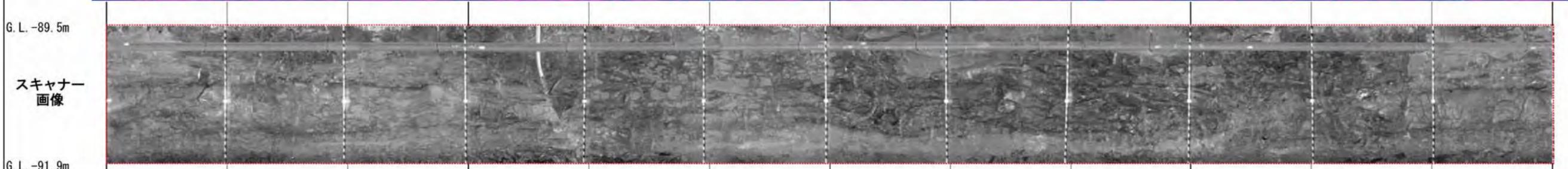
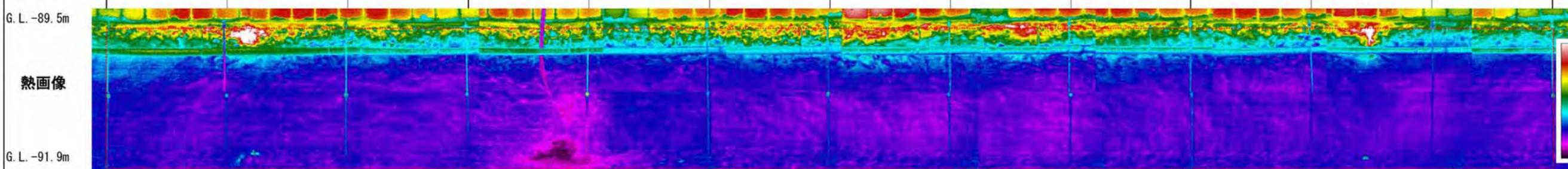
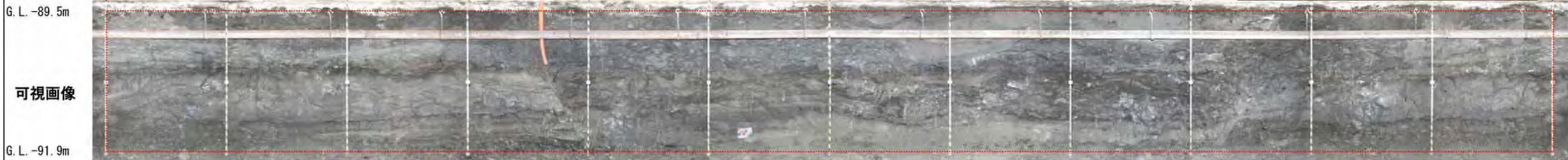
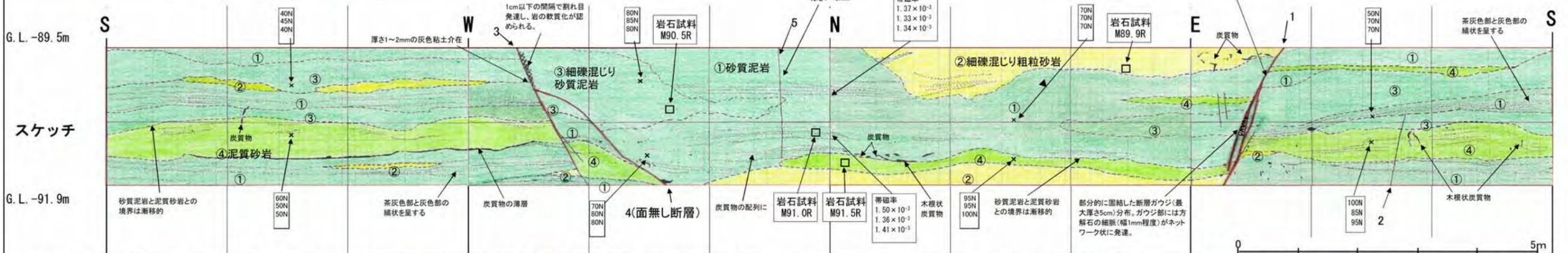
シート番号	059	日時	2005/5/16~5/17 20:30~0:00	位置・深度	STEP073, 074 G.L. -89.5 m~G.L. -91.9 m	観察・撮影者	
-------	-----	----	------------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

凡例

	砂質泥岩		生痕化石		湧水		断層		割れ目		針貫入試験位置		断層ガウジ
	泥質砂岩		割れ目密集部(間隔~5cm)		植物片・炭質物		岩相境界線		ノジュール		葉理		
	細礫混じり粗粒砂岩		割れ目密集部(間隔数~30cm)										

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	泥岩・砂岩	電研式岩級	G.L. -89.5m~-90.8m D G.L. -90.8m~-91.9m D	特記事項 岩種は、①砂質泥岩、②細礫混じり粗粒砂岩、③細礫混じり砂質泥岩、④泥質砂岩である。 ①砂質泥岩は概ね茶灰色を呈し、部分的に茶灰色部とやや砂質な灰色部との縞状を呈する。また、炭質物の配列によるラミナも部分的に認められるほか、観察範囲最下部に分布する砂質泥岩層の上には炭質物の薄層が分布する。 ②細礫混じり粗粒砂岩はアルコース質であり、径2~5mmの細礫を少量含む。 ③細礫混じり砂質泥岩は、数mm~十数mmの炭質物片を混在し、細礫サイズの花崗岩由来の砕屑物（花崗岩礫、長石片、石英片）を少量含む。砂質泥岩との境界は漸移的である。 ④泥質砂岩は、弱い平行層理が部分的に発達し、上位の①層および③層とは漸移関係にある。 本観察範囲には連続性を有する割れ目は5条あり、そのうち割れ目1および3は断層、割れ目4は面無し断層である。割れ目1の断層は、方解石（幅2~5mm）と灰色粘土（幅1~2mm）を介在し、部分的に固結した断層ガウジ（最大厚さ5cm）や鏡肌を伴う。割れ目3の断層は、灰色粘土（1~2mm）を介在し、部分的に断層沿いに割れ目発達部を伴う。	採水試料 なし
岩相	①砂質泥岩（茶灰色~灰色） ②細礫混じり粗粒砂岩（灰色） ③細礫混じり砂質泥岩（茶灰色） ④泥質砂岩（灰色~明灰色）	RMR値	G.L. -89.5m~-90.8m 41 G.L. -90.8m~-91.9m 41		
風化	α	岩石試料番号	M89.9R(礫混じり粗粒砂岩) M90.5R(礫混じり砂質泥岩) M91.0R(砂質泥岩) M91.5R(泥質砂岩)		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	無	化石	有：木の根（炭化木片）		

A工区地質記載シート

番号：A1-請負-計測工(地質)-060

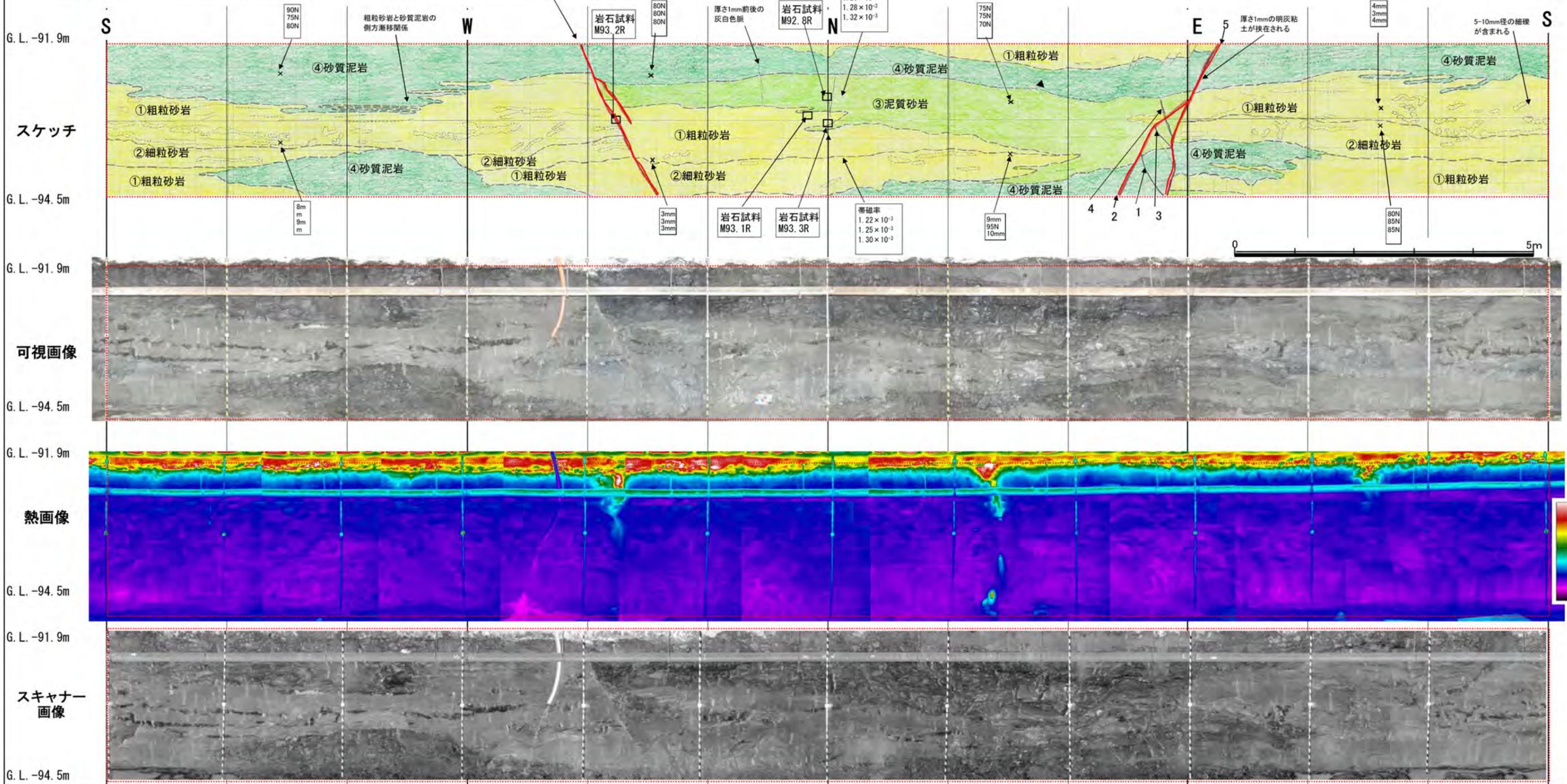
シート番号	060	日時	2005/5/18 13:30~17:30	位置・深度	STEP75, 76 G.L. -91.9 m~G.L. -94.5 m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	粗粒砂岩・中粒砂岩		断層		割れ目		針貫入試験位置		岩石試料採取位置
	泥質砂岩		植物片・炭質物		岩相境界線		葉理		
	砂質泥岩		砂岩中の暗灰色部						



岩種	粗粒砂岩・細粒砂岩・泥質砂岩・砂質泥岩	電研式岩級	G.L. -91.9m~-93.2m D G.L. -93.2m~-94.5m D	特記事項 岩種は、①粗粒砂岩、②細粒砂岩、③泥質砂岩、④砂質泥岩、である。 ①粗粒砂岩と②細粒砂岩は、全体に灰白色～明灰色を呈し、側方に良く連続する。粗粒砂岩と細粒砂岩は、石英や長石粒子から主に構成される。粗粒砂岩は、東側壁面で最大径1cm程度の花崗岩の岩片を伴う。平行ラミナと斜交ラミナが部分的に観察される。暗灰色を呈するレンズ状～層状の部分が、層理面にほぼ平行に配列する。 ③泥質砂岩は、概して灰色～明灰色で塊状を呈する。泥質砂岩は、不淘汰な泥質砂岩の基質中に、粗粒砂～極粗粒砂粒径の粒子を基質支持で含む層相をなす。 ④砂質泥岩は、全体に灰色～黒灰色を呈し、炭質物の濃集するラミナを頻りに伴う。層理にほぼ直交する炭質物が、北西および南西側壁に認められる。連続性良い割れ目は6条である。割れ目2、5、6は断層で、割れ目1、3、4はせん断節理である。このうち、1～5の断層とせん断節理は、東側壁面付近に集中して分布している。割れ目2は、正断層の変位センスを有する断層である。割れ目5、6は、厚さ1～2mmの灰色粘土ないし灰白色を呈する脈を挟む。割れ目5の変位センスは不明である。割れ目6は正断層の変位センスを示す。
岩相	①粗粒砂岩(灰白色～明灰色) ②細粒砂岩(灰白色～明灰色) ③泥質砂岩(灰色～明灰色) ④砂質泥岩(灰色～黒灰色)	RMR値	G.L. -91.9m~-93.2m 43 G.L. -93.2m~-94.5m 42	
風化	α	岩石試料番号	M92.8R(泥質砂岩) M93.1R(粗粒砂岩) M93.2R(断層沿いの白色脈) M93.3R(粗粒砂岩中に挟まれる褐色を呈するレンズ状の細粒砂岩)	
変質	1	採水試料番号	無	
湧水	無	化石	無	

採水試料なし

A工区地質記載シート

番号: A1-請負-計測工(地質)-061

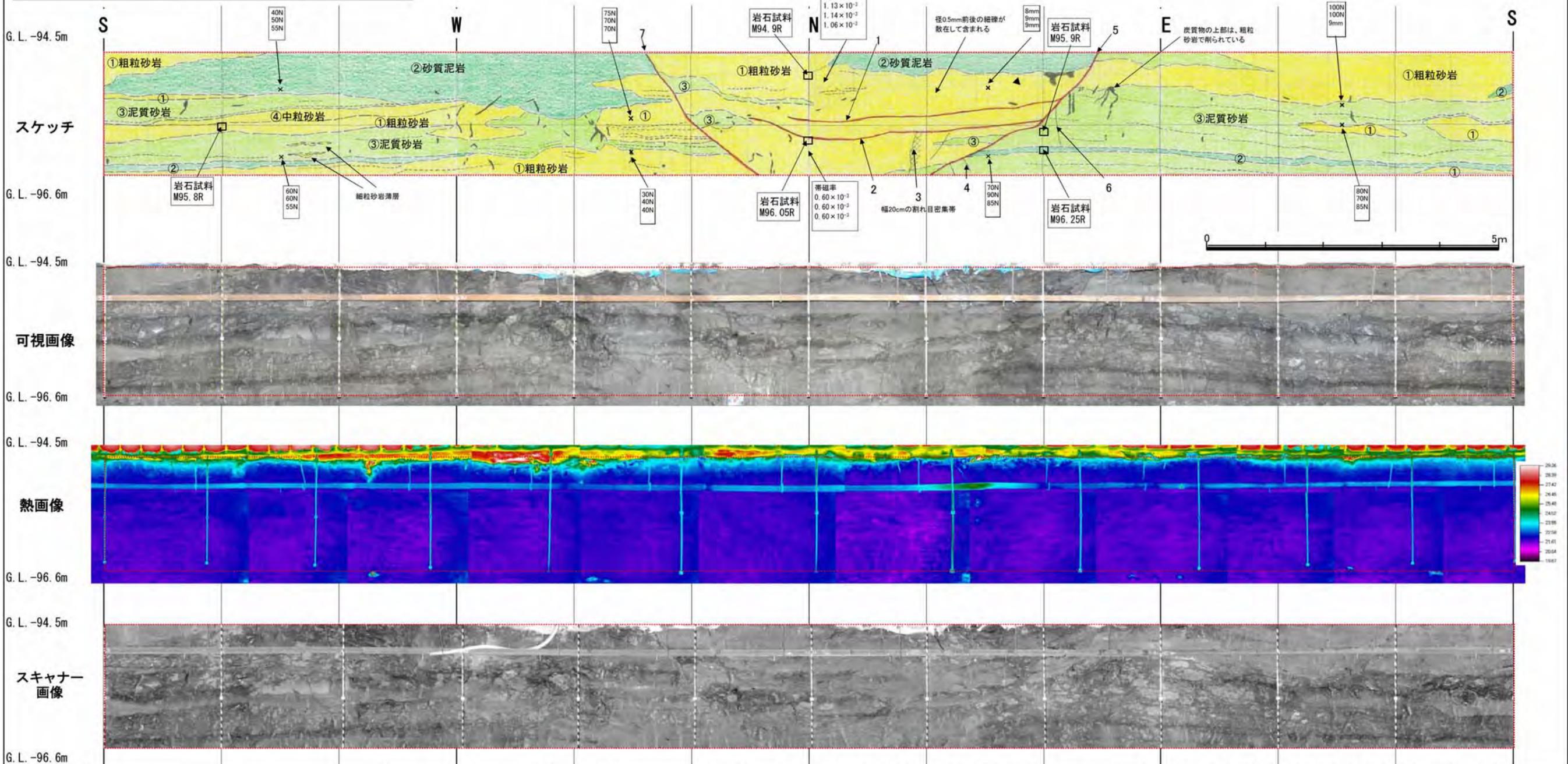
シート番号	061	日時	2005/5/20 12:00~15:00	位置・深度	STEP077, 078 G.L. -94.5 m ~ G.L. -96.6 m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

凡例

砂質砂岩	断層	割れ目	針貫入試験位置
泥質砂岩	割れ目密集部(間隔~5cm)	植物片・炭質物	
粗粒砂岩・中粒砂岩	岩相境界線	葉理	

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -94.5m ~ -95.8m D G.L. -95.8m ~ -96.6m D	特記事項 岩種は、①粗粒砂岩、②砂質泥岩、③泥質砂岩、④中粒砂岩である。 ①粗粒砂岩は、全体に灰色～灰白色を呈するアルコウス質の粗粒砂岩である。平行ラミナの発達が生じ観察される。粗粒砂岩は、層理に大きく斜交する炭質物を所々に含む。また、5-10mm径の細礫が基質支持で観察されることがある。 ②砂質泥岩は、全体に暗灰色～灰色を呈し、西側壁面付近の塊状をなす部分、および北東側壁面のラミナの発達する岩相からなる。塊状を呈する砂質泥岩は、炭質物の含有量に乏しい傾向にある。ラミナの発達する砂質泥岩は、炭質物に富む。 ③泥質砂岩は、全体に灰色～明灰色を呈し、炭質物の配列による連続性の良いラミナの発達で特徴づけられる。連続性の悪い細粒砂岩薄層が、南西側壁面に見られる。 ④中粒砂岩は、全体に灰色～灰白色を呈し、南西側壁面にのみ露出する。堆積構造に乏しいものの、不明瞭ながら上方細粒化が認められる。 連続性の良い割れ目は7条である。割れ目1、2、5、7は断層である。割れ目3、4、6はせん断節理である。割れ目1、2、5、7の断層は、急傾斜する条線を有し、そのうち割れ目7の断層は0.1~0.2cmの灰白色脈を、割れ目5の断層は0.1~0.2cmの茶灰粘土を伴う。断層は上区間とのつながりから正断層と推定されるが、変位量は不明である。割れ目3のせん断節理は、10cm間隔で発達する幅20cm前後の割れ目の密集帯である。	採水試料 なし
岩相	①粗粒砂岩(灰色～灰白色) ②砂質泥岩(暗灰色～灰色) ③泥質砂岩(灰色～明灰色) ④中粒砂岩(灰色～灰白色)	RMR値	G.L. -94.5m ~ -95.8m 40 G.L. -95.8m ~ -96.6m 40		
風化	α	岩石試料番号	M94.9R(粗粒砂岩) M96.05R(細粒～中粒砂岩) M95.9R(泥質砂岩) M96.25R(砂質泥岩) M95.8R(細粒～中粒砂岩)		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	無	化石	無		

A工区地質記載シート

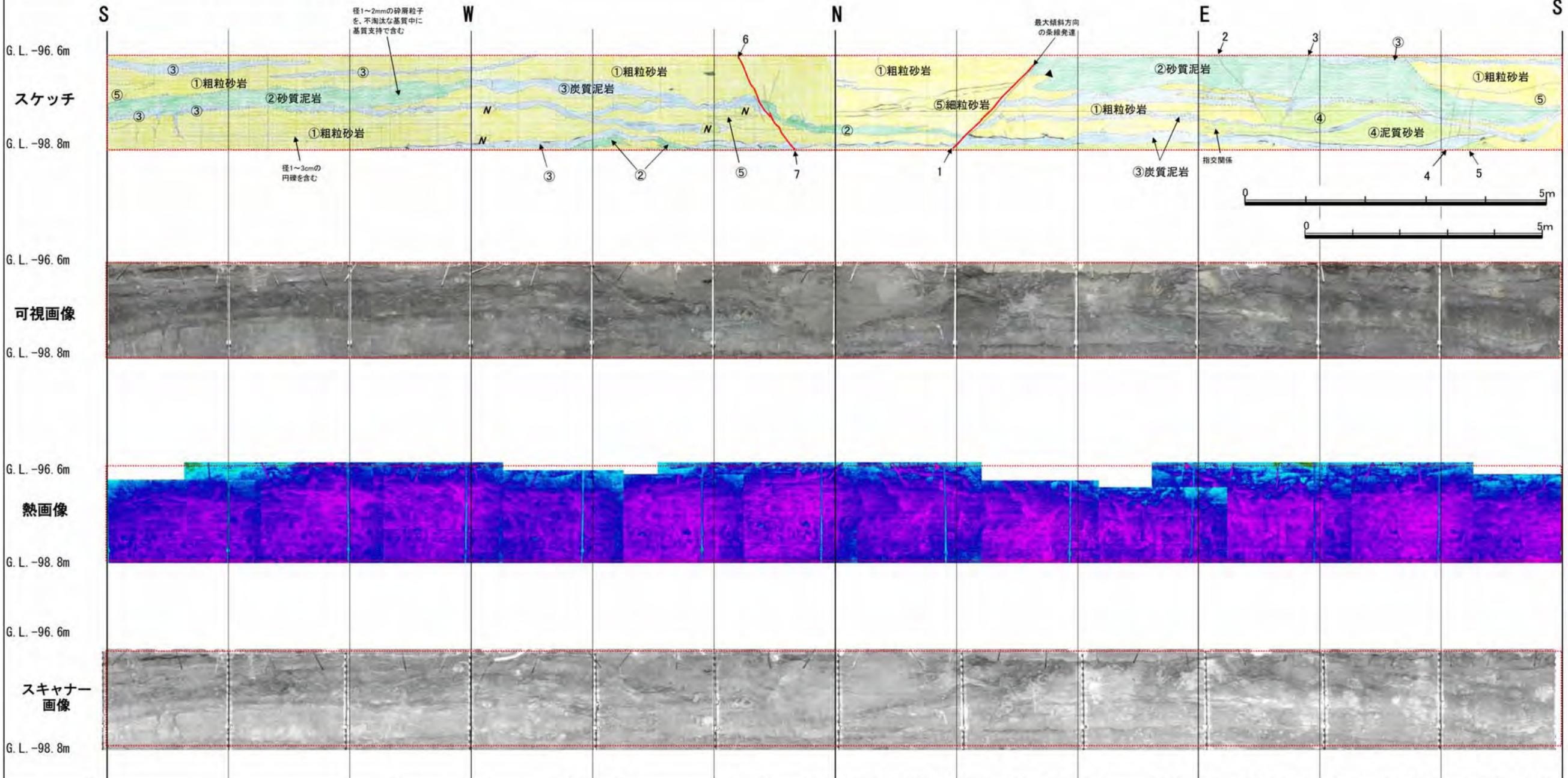
番号：A1-請負-計測工(地質)-062

シート番号	062	日時	2005/5/24 9:00~12:00	位置・深度	STEP079, 080 G.L. -96.6m~G.L. -98.8m	観察・撮影者	
-------	-----	----	-------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	炭質泥岩	断層	割れ目
	砂質砂岩	植物片・炭質物	ノジュール
	泥質砂岩	岩相境界線	葉理
	粗粒・細粒砂岩		



岩種	砂岩・泥岩	電研式岩級	G.L. -96.6m~-97.9m D G.L. -97.9m~-98.8m D	特記事項 岩種は①粗粒砂岩、②砂質泥岩、③炭質泥岩、④泥質砂岩、⑤細粒砂岩である。 ①粗粒砂岩は、壁面全周の1/2以上を占める。灰色で半固結した粗粒砂岩が卓越する。一部では上方あるいは側方で中粒砂岩に漸移する。また一部には径1~3cmの細礫を含むアルコース質粗粒砂岩がレンズ状に分布する。また、炭酸塩の沈殿による長径数10cmのノジュールがみられる。 ②砂質泥岩は、主に東壁面の中~上部と、南西壁の中部に分布する。砂岩に比べて固結度が高い。 ③炭質泥岩は、5~20cm程度の薄層として分布する。一般に炭黒色であるが、部分的に濃い茶色を示す部分も見られる。層の上部に数mmから数cm厚の褐炭ラミナを伴う場合が多い。逆に下部では炭質物の含有量が漸減し、色調が淡くなって下位層準に漸移する。さらに側方へ砂質泥岩に漸移することもある。 ④泥質砂岩は、砂岩層と指交または側方へ漸移した層として東壁に分布する。粒度は細粒から中粒で固結度が高い。 本観察範囲における連続性を有する割れ目として、1、6、7の断層と2~5の節理の7条が観察される。なお、地層全体は概略水平構造をなすが、泥質岩の内部には波長数cm~数十cmの小褶曲が多く見られる。また砂岩、泥岩ともに層厚の変化が顕著である。 湧水はみられない。	採水試料なし
岩相	①粗粒砂岩(灰~暗灰色) ②砂質泥岩(黒灰色) ③炭質泥岩(黒~黒灰色) ④泥質砂岩(灰色) ⑤細粒砂岩(灰~暗灰色)	RMR値	G.L. -96.6m~-97.9m 42 G.L. -97.9m~-98.8m 42		
風化	α	岩石試料番号	無		
変質	1	採水試料番号	無		
湧水	無	化石	無		

A工区地質記載シート

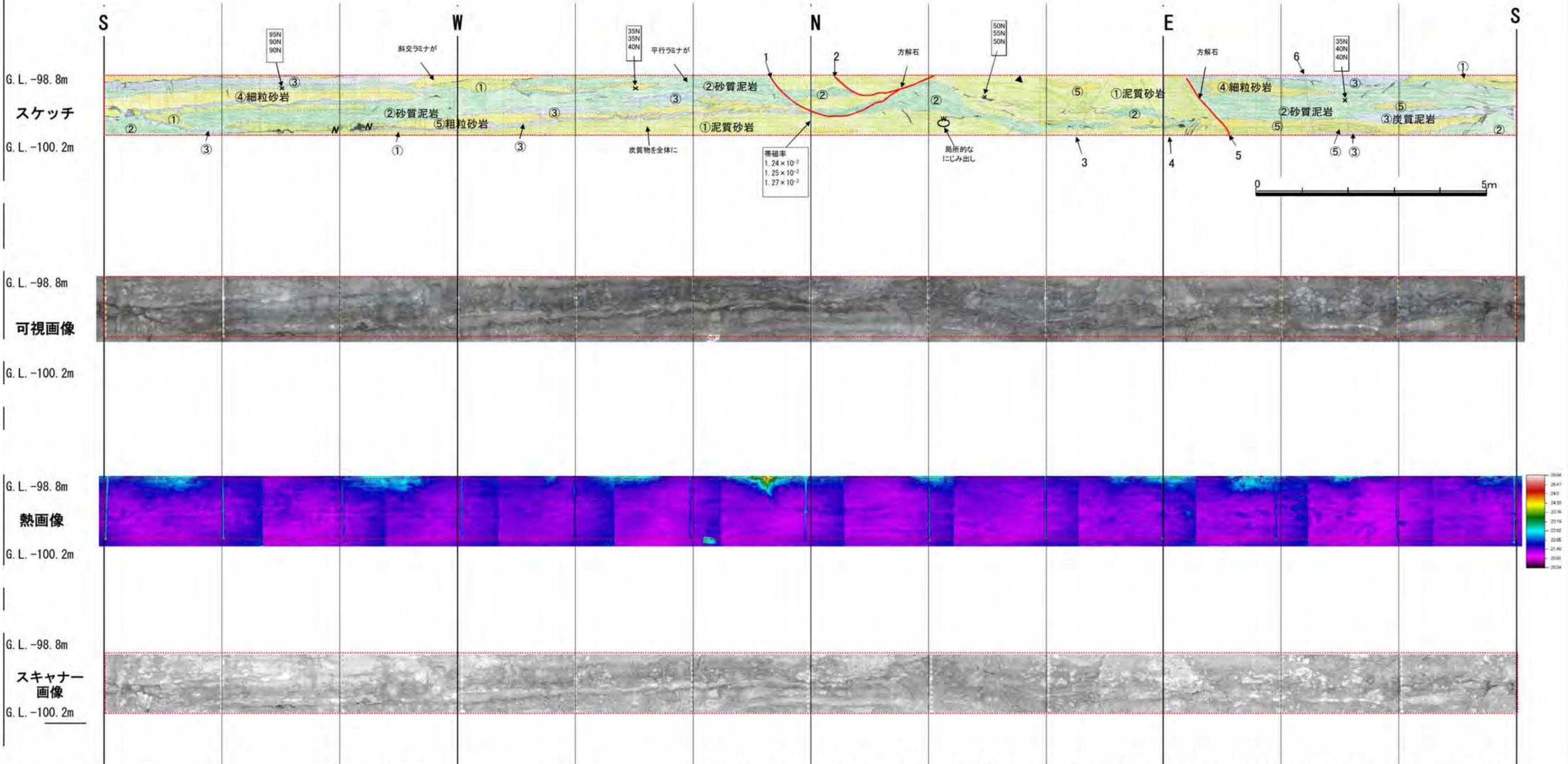
番号：A1-請負-計測工(地質)-063

シート番号	063	日時	2005/5/26 19:30~22:30	位置・深度	STEP081 G.L. -98.8m~G.L. -100.2m	観察・撮影者	
-------	-----	----	--------------------------	-------	-------------------------------------	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	炭質泥岩	断層	割れ目	針貫入試験位置
	砂質砂岩	湧水	植物片・炭質物	岩相境界線
	泥質砂岩	ノジュール	葉理	
	細粒砂岩・粗粒砂岩			



岩種	泥岩・砂岩	電研式岩級	G.L. -98.8m~100.2m	D	特記事項 岩種は、①泥質砂岩、②砂質泥岩、③炭質泥岩、④細粒砂岩、⑤粗粒砂岩である。 ①泥質砂岩は、黒灰色の泥質ラミナと細砂に富む明灰色のラミナとが数cmオーダーの細かい織状を呈する岩相と、基質全体が一樣に泥質で暗灰色を呈する岩相とが見られる。 ②砂質泥岩は、全壁面の約3/4を占めて分布する。砂岩や炭質泥岩などと互層する。 ③炭質泥岩は、砂質泥岩の上位または下位に密接に伴うか、砂岩と泥質砂岩との境に薄層をなして分布する場合が多い。層厚は5~20cmである。通常、最上部の色調は、黒~黒茶の濃い色を呈し、下位ほど薄い傾向がある。また最上部に褐炭が集積してラミナを形成している場合が多い。 ④細粒砂岩は、10~40cmの成層した薄層または小レンズとして分布する。泥質砂岩とは砂の粒度差により、砂質泥岩とは炭質物の含有量差(色調差)で区別できる。 ⑤粗粒砂岩は灰白色のアルコース質で、5~20cmの薄層またはレンズとして分布する。 本観察範囲における連続性の有する割れ目として、1、2および5の断層と3、4および6の節理の6条が観察される。 地下水の状況として、局所的なにじみ出しが認められる。
岩相	①泥質砂岩(灰色) ②砂質泥岩(暗灰色) ③炭質泥岩(黒~黒灰色) ④細粒砂岩(灰色) ⑤粗粒砂岩(灰白色)	RMR値	G.L. -98.8m~100.2m	42	
風化	α	岩石試料番号		無	
変質	1	採水試料番号		無	
湧水	無	化石		無	